

長崎の養生所/長崎医学校等遺跡の保存と活用について

作成：2017年(平成29年)12月24日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和哉

今、長崎市で旧佐古小での遺跡保存と早期学校建設の要望が交錯、私達は二つの公益の完全な機能保全を念頭に、旧佐古小で遺跡保存を、近隣250mの旧仁田小等での学校運営を要望しています。歴史と主旨を記します。

幕府は、中国での英清阿片戦争後、日本開国、即ち国交樹立と開港、自由貿易での国力蓄積を決断、横浜で日米和親条約を締結した翌年、早くも長崎で蘭国と長崎海軍伝習を實現、日蘭和親条約を締結、更に医学伝習、飽の浦に長崎製鉄所を實現、軍艦教授所を江戸築地に設立し長崎伝習を閉鎖、三港開港、長崎で佐古に養生所を設立し製鉄所は岸壁を竣工、養生所を精得館と改称し分析究理所を併設、関東で仏の協力により横須賀製鉄所を設立。

近代海軍創設、近代西洋医学教育と病院、近代西洋工場、自然科学と科学技術の導入、関東での近代化、幕府の日本初の取組は成業して日本の自立的近代化と世界的業績の基盤となり実業は現在もその地に稼働。

一方、日本の近代化は中世の精神生活の転換や戦国大名の領国経営、徳川の平和等の推移と連続性に立脚。

ローマ・カトリックによる小さな城塞都市長崎は情報交易防衛都市へと栄え日本開国の母体/前線都市となります。

開国は、世界の変革の最中の日本の存亡を賭けた国策、大航海時代を経て西欧世界即資本主義の地球一巡で、同時に、アジア・アフリカ・南アメリカ独立解放の初めです。

遺跡は全体を遺し近隣と調和、日本開国史上随一の遺跡で医史学上の実体せる標準原器、世界史上の里程標。

私達は次世に理解と融合の世界を築けるでしょうか。

私達人類の認識形成に歴史を証する遺跡は不可欠です。

保存は所有者の役割、市は市公共事業で壊滅を承知。

私達は保護の措置として「特別史跡」「重要文化財」活用として「日本遺産」日本と世界の過去から現在までの在り方を提示し未来を示唆し発信できる人類史上重要貴重な遺跡として損壊滅失のない保存整備活用を求めています。

都市長崎 現代の人々と遺跡

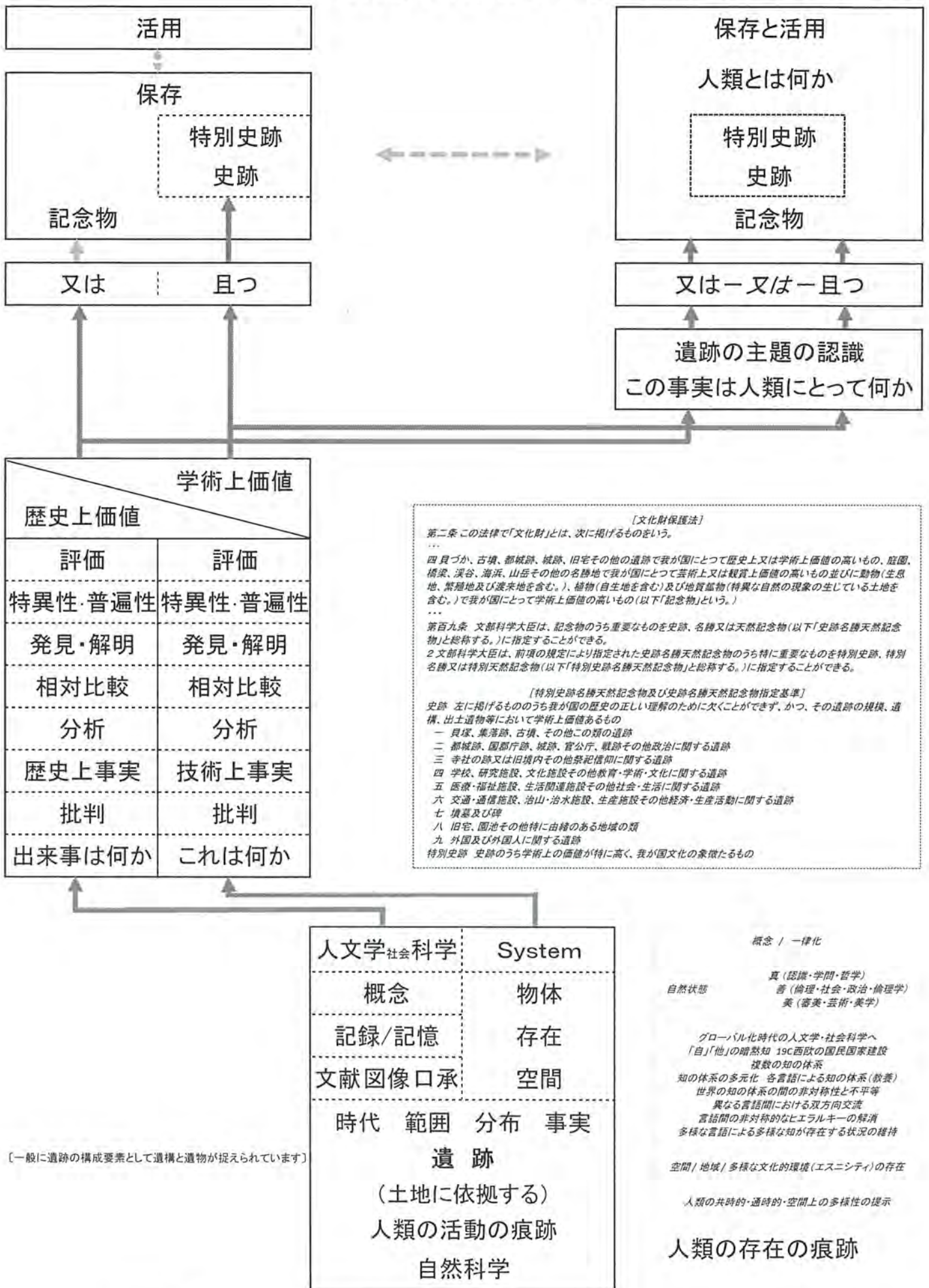
2018年(平成30年)6月6日 水曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

- ・長崎は、日本の社会とその歴史にとって、又、世界の社会とその歴史にとって、重要な役割を果たした、又は、果たしつつある都市です。
- ・私達は、都市長崎の現代の役割について、日本の社会とその歴史にとって、又、世界の社会とその歴史にとって、重要な役割を果たした、その歴史とその事実を、長崎市民及び日本の人々及び世界の人々に、発信し、理解を求める、よって、人々に我が国の歴史の正しい理解を求めることは、長崎が現代に於いて果たしつつある人類の存在に対する役割のうちの最も重要な責務の一つである、と理解します。
- ・私達は、遺跡は、人類の誕生と共に形成され始め、人類の誕生以来、連綿と形成され遺存し、又、人類の人体の延長としてその一部とも考え得る、歴史的な人類の存在そのものの存在と捉え得る存在と理解します。
- ・私達は、遺跡は、人類が、人類自身を観察し、理解し、又、考える、その最も重要な契機の一つを、人類に与える、と理解します。
- ・長崎は、全体が遺跡です。
- ・遺跡は、当該歴史に係る事実そのものです。
- ・遺跡は、人々に、その歴史と遺跡が事実である、との理解を確実なものにします。
- ・遺跡は、私達が、その歴史と遺跡が、お話ではなく、事実であるとの認識を捉え得る契機となる、最も確実な存在です。
- ・人々が、遺跡を、意図的に破壊し、又、移築し、又、部分的な存在に変更すれば、その遺跡は、その歴史ではなく、その遺跡を破壊し、又、移築し、又、部分的な存在に変更した人々の意思を指し示し、物語る、最も確実な存在となります。
- ・私達が、遺跡を見るとき、その遺跡を、意図的に破壊し、又、移築し、又、部分的な存在に変更した、その人々の意思を確実な理解のもとに認識したい、と望み期待する、その様な人々が果たしているのでしょうか。
- ・私達は、私達が、遺跡を見るとき、遺跡が、その遺跡を、形成し、遺存した、その歴史と、その遺跡が事実である、との理解を確実な認識にしてくれることを望み期待して、その遺跡を見る筈です。
- ・私達は、人類が、その土地に係わるとき、私達人類には、その土地の遺跡を、現状のまま事実のまま保存し、後世に継承する、との、その土地に係わる上での権利と義務と責任が、他の生命や地球環境への配慮を留保しつつ、存在する、と理解します。
- ・私達は、長崎市に住む人々、又、長崎で業務を行うひとびとは、遺跡に住み、遺跡で業務を行うことについて、遺跡に住み、遺跡で業務を行っていると感じ、自らの行動のうちに、当該遺跡を保存して継承する権利と義務と責任があり、当該遺跡を保存して継承する人類に対する責務があると自覚し、当該遺跡を保存して継承しなければならないと理解し、長崎市民に、そう行動するよう要望します。
- ・私達は、長崎市に、長崎市民に対して、遺跡に住み、遺跡で業務を行っていると感じ、自らの行動のうちに、当該遺跡を保存して継承する権利と義務と責任があり、当該遺跡を保存して継承する人類に対する責務があると自覚し、当該遺跡を保存して継承しなければならないと理解して、且つ、そう行動するよう促す事を要望します。
- ・私達は、人類の活動の場に遺跡が存在することは、私達人類のその活動の場に、人類の生命の躍動としてのリズムの内の最も重要な一つを体現する、と期待し理解します。
- ・私達は、私達の日常生活の内に遺跡が存在することを重視します。

✕

遺跡の考察への現状と私達の見解

2018年(平成30年)7月1日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭



“都市長崎遺跡”の意図的な損壊と滅失、保存と活用へのまなざし

ー 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より ー

《養生所を考える会の皆様へ》

2018年(平成30年)7月16日 月曜日(祝日) 養生所を考える会 代表 池知和恭

本日は、久しぶりに写真を撮ってきました。

① 解体が完了して出現した富貴樓の石垣の全景。解体によって建物の背後にあった石垣が出現しました。輻輳した高石垣が城跡の様です。

② 破壊が進む旧長崎県副知事公舎の石垣。養生所/(長崎)医学校等遺跡の明治四年頃に築造されたと推測できる医学校正門両翼の石垣と同じ手、即ち、作行又は技術又は築造者、と考えることができる石垣です。この石垣について、長崎市文化財課は口頭で江戸末期頃と言及しています。

既に土地は民間に売却され、その開発により大半が破壊されましたが、特徴は残存します。

隣接して残存する石造用悪水路及び付随の石造路肩柵の築造又は改築も同じ手で行われた可能性があります。

副知事公舎建設に際して、石垣及び石造用悪水路及び石造路肩柵等外周施設環境が一体に改築された可能性もありそうです。

旧長崎県副知事公舎の遺跡は、石垣、平石による建物基礎遺構その他の遺構、大溝又は堀の存在/遺構によって、長崎の丘の中世又は近世の旧市街の遺跡でもあります。

平石による建物基礎は、長崎地域では倉庫等に見られ、遡るものは、江戸中期頃のものと考えられる場合もあるとの見解(長崎県学芸文化課/口頭)があります。

③ 養生所/(長崎)医学校等遺跡の医学校建物敷地旧外周石垣一帯。その西部一帯(下段は明治四年頃築造、上段は大正期に増築と推測)と、東南部一帯(古写真の時系列より明治7年(1874年)10月ヘルツが東京司薬場の設立に際して東上する以前に築造された蓋然性が高い)の長崎市の道路/路地拡幅工事による破壊の現状、及び、当該遺跡の養生所病院側から医学校にかけての現在の全景。

2017年(平成29年)以来、長崎では、養生所/(長崎)医学校等遺跡、長崎の丘に位置する旧長崎県副知事公舎の近世旧市街遺跡、富貴樓遺跡と、大型の、世界と日本や長崎地域にとって重要な遺跡について、長崎市民に殆んど議論されずに、再開発の計画が設置され、今まで一定の遺存を見せていた、“土地の造形”や石垣等を含む遺跡としての姿が、完全に消滅する事態が、連続し加速する現状が顕著に出現しています。

2018年(平成30年)に入ってから私達の周辺では、古い家屋の解体が目立って増加しています。

長崎市及び一帯地域では、旧市街部また之を取り囲む旧郷村部において、家屋を解体したその背後に、近代以前又近世以前の時に数度に亘って改築された石垣、又井戸、が出現し、道路から見ることをよく経験します。

長崎は、平地の少ない地理環境によって、斜面に段丘状の地面を形成し、河口付近を中心に沿岸部を埋立てて人類の活動環境を整備してきました。

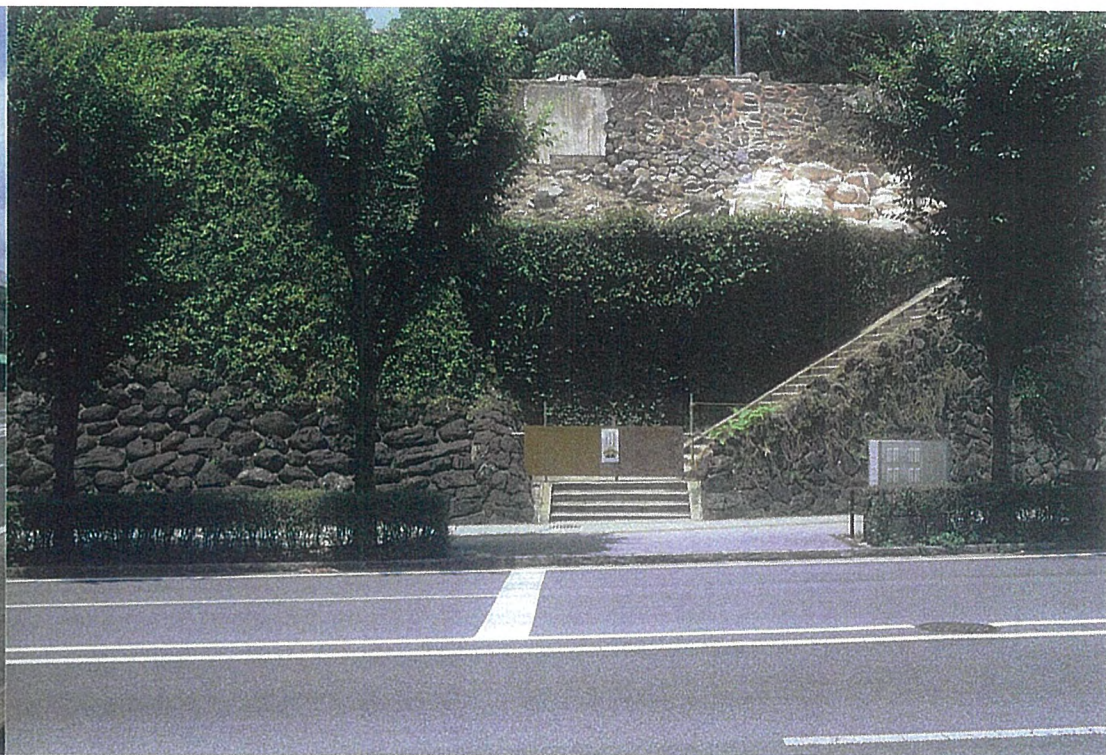
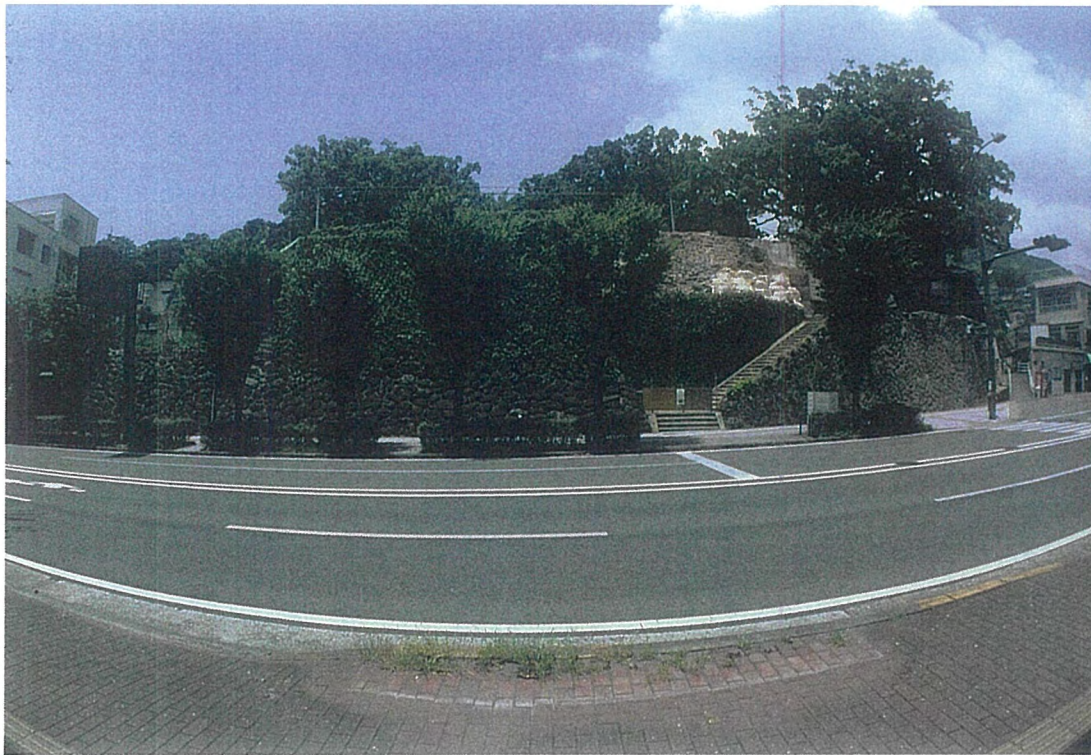
これら、“土地の造形”とこれを維持し都市の社会基盤である機能を形成する石垣や石柵等構造物や補助構造物及び地形・地理、即ち、長崎の地球上の位置や環境、及び、小丘陵地形や中小河川群、及び、治水・治山・斜面地の田畑や家屋の為の平面造成や埋立による活動平面の創出や路地や連絡道路(旧道)形成や井戸や水道や衛生に貢献する用悪水路網などの土木造成“土地の造形”、また、塵芥処理の公的制度運営、及び、之によって形成される空間と構造(清浄で安定した空間と構造)は、歴史のうちに都市長崎とその機能の稼働と生活を可能とする、総合的な、歴史を経て培われた“都市長崎”の空間と構造とsystemである「都市長崎遺跡」です。

「都市長崎遺跡」は、現代の私達の生活環境でもあり得る筈です。

私達 当会は、「都市長崎遺跡」及び「養生所/(長崎)医学校等遺跡」及び之により証徴される歴史、即ち、当該事象について、世界と日本の社会との繋がりと地球上の地理空間とその特質によって日本の中世から近代にかけて長崎に形成された特異性を有するものであること、日本における古代～中世～近世、後、近代～現代へと連続する風土と社会と文化と歴史によって蓄積された国力を集約し、再構成するものであること、長崎が日本開国の母体であり表玄関であり日本開国の諸施策を展開した最初の拠点都市であること、これが日本の国民国家の存続と主権国民国家形成の原動力の主要な一つであること、西欧文明圏以外の人類にとっても社会的な“個人の自由と存在の尊厳”と“自然科学の取扱い”による自律的な福祉の向上が可能であることをこの日本地域の風土と蓄積を基盤に実現しもって之を世界に対して初めて立証して示しによって世界に影響を及ぼし結果としてこの可能性がその後の主権国民国家群の成立による現代世界の形成と一方でGlobalizationの双方の基層概念であり正しくその端緒であること、中世から近代・現代への日本人と諸国又オランダの人々の世界の理解と判断と行動(system)を表すこと、当該事象は地球上の全人類にとって重要な歴史上の出来事であることと地球上の一つの地域であることとその連続的経時的重層性に附随する特異性をもって之を具体的に証徴する遺跡群であることによって、又、日本国内の又世界の、関係する歴史と遺跡と文化に関する各地点との情報交換と連携により形成する筈の地球空間における連帯の網の目によって、人類にとって、人類の過去を認識し、人類の現在と未来を考える為、世界で最も重要な事象群の一つである、と理解します。

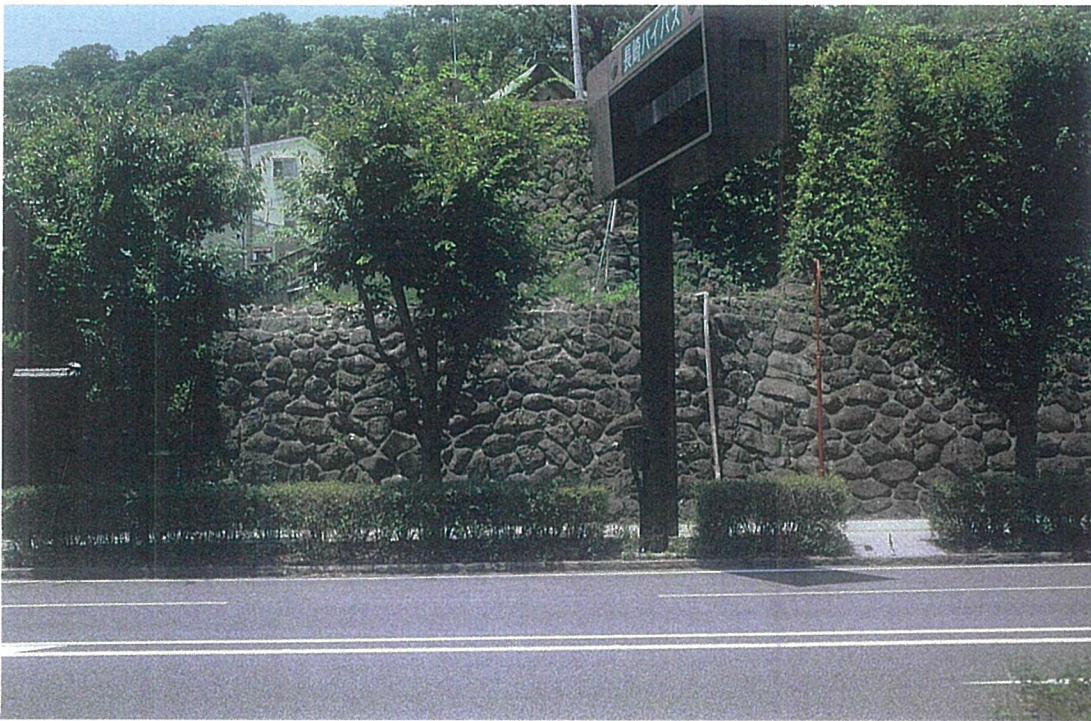
私達 当会は、長崎市及び長崎県、長崎市民、長崎県民、日本の人々、世界の方々に、そして、長崎に住み、長崎を訪れ、長崎で活動する人々に、自らの行動のうちに、以上の歴史と遺跡について、その実態を明らかにし、人々の「意図的措置」によって「その一部でも損壊や滅失によって失われること」なく保存して継承して人類の存在と歴史と遺跡とその本源によって人類の現在と未来の為に活用し、不幸にして、既に、人々の意図的措置によって損壊し滅失した遺跡又はその空間と要素について人類の存在と歴史と遺跡とその本源によって之を原状回復することを要望し、その為の措置をとることを要望し、又、この要望への理解を求めます。

私達 当会は、当該遺跡群が、世界の「日本は特別だ」として日本への思索を切捨てる人々に、その思索を再開する契機を形成する、と期待します。



解体が完了して出現した富貴楼の石垣の全景

四葉時 2018年(平成30年)7月16日 月曜日 初日 撮影

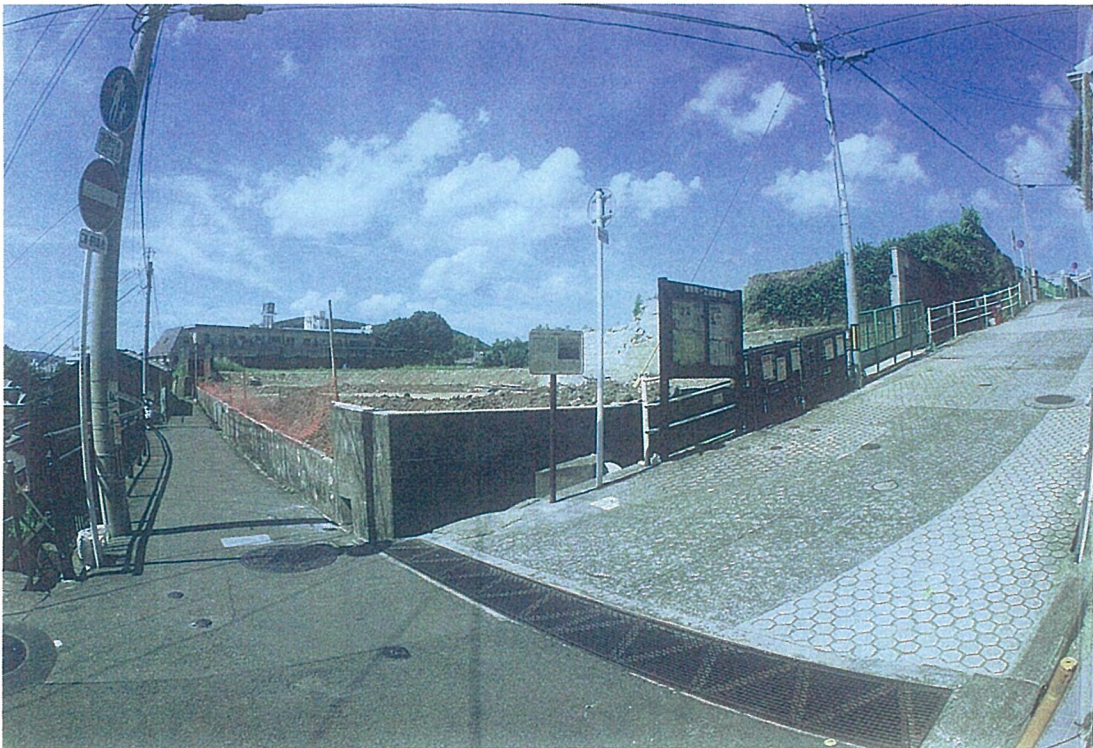




破壊が進む旧長崎県副知事公舎の石垣

四葉峠 2018年(平成30年)7月16日(曜日)祝日 撮影





↑2017年(平成29年)7月16日曜日撮影
 2017年(平成29年)8月6日曜日撮影 ↓ 破壊が進む養老所(佐崎)国学校遺跡の国学校建物敷地外周石垣(西部) 2018年(平成30年)7月16日曜日撮影 ↑





旧 熊

破壊が進む養子(長崎)中学校等遺跡の医学校建物敷地外周石垣(東北部)

2018年(平成30年)7月16日(曜日)祝日撮影 ↓ ↑





2018年(平成30年)7月16日 月曜日 祝日 現在、既に破壊して撤去した養老(長谷)医学校等遺跡の医学校敷地外周石垣(東北部)



平旧態

破壊が進む

養老所(長崎)医学校等遺跡、a医学校建物敷地外周石垣(東北部) 2018年(平成30年)7月16日(曜日)祝日撮影 ↓





2018年(平成30年)7月16日(星期日) 撮影 養正(長崎)医学校遺跡、中核区域 - 旧養正(病院)~小島病院敷地一帯より医学校敷地方面(北方)を望む

“遺跡”と遺跡の“遺跡としての空間”又/概念/歴史学/考古学/作品/変形/保存

－ 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より －

2018年(平成30年)7月16日 月曜日(祝日) 養生所を考える会 代表 池知和恭

2017年(平成29年)5月30日火曜日 青山学院大学名誉教授文学博士片桐一男先生(蘭学史、洋学史、日蘭文化交渉史)が、関東より遠方長崎をお訪ねになり、先生の長崎での数日の日程の内、筆者は、その日の午後から二時間程、養生所/(長崎)医学校等遺跡を案内致しました。

遺跡地は、2017年(平成29年)5月21日日曜日 迄に、旧長崎市立佐古小学校の三階建て鉄筋コンクリート造校舎等の施設の解体が完了して、現代の建築物が消滅し、一旦整地され、遺跡の要素として、随所に残る石垣と共に、各所より一望のもとに、遺跡の建物敷地の段丘状の“土地の造形”とその大きさが粗方明らかになった処でした。

先生は、養生所の病院方面から一巡して見学され、最後に「ここから見るとどうかな」と旧長崎市立佐古小学校正門の階段を自らお登りになり、遺跡地をご覧になり、その場で「(当時の写真や図面等の)資料を見せてもらったからよくわかるよ、ありがとう……これはこれでいいね。心の目でみるということだよ」と首肯されました。

心の目でみる、ということ。

私達は、私達が、遺跡を考えるに際して、建築物の遺存に固執する必要はない、と考えます。むしろ、遺跡の遺跡としての空間の保存にこそ、留意すべきです。

私達 人類には、遺跡の僅かな契機と傍証資料より、その空間を、“特別なものだ”、と認知する能力があります。

遺跡は、一般に、地上遺構及び土地に埋蔵にされた地下遺構と遺物とその状態、及び、遺構の存在と遺物の散布の範囲に対してその状態を保持する土地とその範囲で構成され、現在の地表面を基準に広さと高さの深さの空間として認識され、人類の知性に係る様々な関連するsystem又はその一環として理解され、文化財保護法上では、地上遺構及び土地に埋蔵された地下遺構と遺物とその状態及びその土地と範囲を一体と捉えて遺跡であり文化財である記念物であり、土地に埋蔵された地下遺構と遺物とその状態とその土地と範囲は埋蔵文化財です。

私達は、遺跡が占有すべき遺跡としての空間について、次の、三つの空間を考えます。

○ 第一は、遺跡の物体及びその状態に由来する空間です。

即ち、遺構の存在と遺物の散布及びその存在と状態を保持する土地とその範囲の広さと高さの深さの空間です。この空間を遺跡として占有できない場合には即ち直ちに遺跡の破壊との現象を伴います。

○ 第二に、遺跡の遺跡に固有の空間です。

即ち、遺跡の主題の時代の人々が活動した空間です。人々が歩くのに必要な高さの空間やかつての建物や櫓等建造物の高さ、また、日本では、一般に、その土地の地上や地下は文化的にも社会的にもその土地に附随する空間と見なされる場合が多いようであり、そのような人類の集団的な文化的社会的通念も想定しています。

○ 第三に、遺跡の人類の認知と遺跡の環境としての空間です。

遺跡に関係する自然や文化的社会的な環境とその環境を保全すべき空間、及び、その遺跡の保全整備の為に必要な空間です。

私達の遺跡への印象を形成する景観としての空間もこれに含めて考えます。

遺跡は、人類の活動の痕跡と云われ、人類の概念の結果の一部である物体及びその状態であり、様々な理由により歴史上において人々の評価から脱落し忘れられたものが再発見されたものであり、原則として存在に概念と言語を断絶し、一般に、その状態は未完成又は滅失しつつあり不完全であり、遺存する地上遺構は部分的なものであり、また、多く、土地に埋蔵された状態で、人々の発見にさえ消極的な状態でもあります。

建造物や芸術品等、人類の概念が完全な状態で完成され、人々の評価が維持され、完全な状態で継承された事象は、人々に対して雄弁であり、原則として存在に概念と言語を附随し、是に接する人々は、受動的な態度でも、一定の受容が可能です。

事象が、意図と完全による作品であり、又は、その存在に概念と言語を附随し又説明される場合には、存在の本質として、又は、人々の努力にもかかわらず、その存在は文字と同様の記号性を有し、又、人々の誤謬と恣意性から完全に独立して存在することは不可能でしょう。

遺跡は、人々に対して寡黙であり、人々の考察を誘導するに際して、わずかな契機を与えるだけです。

しかし、一旦、再発見され人々に認識されるならば、遺跡は人類にとって、存在に概念と言語を断絶して附随しないことにより、歴史上の事実のみが、目前に厳然と存在します。これが、人々の胸に感動を呼び覚まします。

そして、遺跡は、芸術品や美術品でもありますが、多く、記号性を脱落させ、人類の知のsystemの一環、その一部、として存在すると考えられます。

しかし、是に接する人々は、その受容に能動的な態度を要求され、場合によっては、その理解の為に、人類に蓄積された”知の体系”を援用する必要がある場合もあるでしょう。

遺跡は、文字や完全な状態の建造物や芸術品等よりも、長い期間に亘り広い範囲に分布し、即ち、人類の誕生以来、また、地球上の広範な範囲に、連続的に又は断続的に、存在します。

個々の遺跡は、共時的・通時的な、人類の多様性と、関係するその場との特異性に立脚し、私達は、個々の遺跡の相互比較を媒体として、人類の実態への理解に、近づける筈です。

地球上の空間に位置し存在する遺跡群は、私達 人類の過去を知るために、必要で不可欠な存在です。

建造物や芸術品等と、遺跡は、人類にとって、双方の異なる性質のゆえに、双方共に、それぞれ人類にとって重要な存在であり、相互に代替することは不可能です。

人々が、遺跡に接するとき、わずかな契機を拾い上げて是に接する必要があります。

私達は、遺跡の空間から遺跡以外の夾雑物を排除して遺跡の遺跡としての空間を保存し保全することで、わずかな契機の認知がよりよく可能となり、そこから、遺跡の存在の受容が始まり、ひいては、人類は、広く、人類の知のsystemへの理解へと導かれると期待します。

私達は、本然たるあるべき姿の遺跡の遺跡としての空間こそが、私達に遺跡を「心の目でみる」ことを可能にする、と考えます。

歴史学にとって、その歴史上の出来事が人類の過去の事実であることは、歴史学上の価値です。

考古学にとって、その遺跡が人類の過去の事実であることは、考古学上の価値です。学問にとって、それが事実であることは、考察の対象となり得る素材として、厳然たる価値を有します。

又、歴史学や考古学によって、そうであると認め得る人類の過去の事象への考察も、歴史学や考古学上の二次的な価値であると考え得るのではないのでしょうか。

私達は、私達人類が、地球の空間の随所のそれぞれによく保存された遺跡の空間のうちに、歴史上事実としての遺跡のわずかな契機を感知し、傍証資料の介助によって、その空間を、“特別なものだ”、と認知することだけが、その遺跡を通して、遺跡のその場との特異性を基盤とする多様で具体的な人類の過去を知り、そして、人類の現在と未来の為に活用する、その豊かな可能性の扉を開くと理解します。

私達は、遺跡が歴史上事実であることと、遺跡の遺跡としての空間、その双方のうちにこそ、遺跡の歴史上価値と学術上価値、及び、私達人類が遺跡を理解し又遺跡に於いて私達の過去への理解に近づきそして遺跡を現在と未来の為に活用する契機、のすべてが宿る、と理解します。

“人々”が、事実を変形して破壊して、例えば遺跡について全体の内から意図的選択的に部分を取上げて“展示”したり、土地や全体から切り離して移動してどこかに持ち去って、他の人々に提示し提供すれば、即ちそれは、事実としての学術上の価値を喪失し、加工した作者の「作品」となり、人々が感動すれば「芸術」と呼ばれたりし、それが面白いならば即ち「“大人の”おもちゃ」ではないのでしょうか。

私達は、養生所/(長崎)医学校等遺跡について、一部の人々に「このような石垣は、当時、長崎ではめずらしくない」と指摘され、即ち、面白くなく、部分を意図的選択的にトリミングして額縁に入れて掲げて見せたり、どこかに持ち去ってレプリカを連続的に貼付したり、しても、特定の意図による選択と加工による作者の、即ち、人類の特定の具体的な「作品」であることは間違いありませんが、人々は“面白くない”素材の部分部分を使ってつなぎ工作してパッチワークとなったこの「作品」に恐らく感動せず、即ち、当該遺跡は、意図的に工作しても「“大人の”おもちゃ」になり得ず、「芸術」になり得ず、“面白くない”「作品」にしかなり得ず、つまり、物体とその状態としては、遺跡としての事実としての物体とその状態を維持することしか、即ち、人類の過去の事実であることの「価値」を維持する以外に、この遺跡の在り様はない、と感じます。

但し、ある意図と選択によって作品となり、又は、意図と選択に附随して記号化し言語化した特定の具体的な表現である物体とその状態である契機と、ある意図と選択によって作成された特定の具体的な文字や言語の配列による文学性や音楽性である契機とが、特定の個人としての人類の概念空間のどこかで共鳴する可能性は残されているかもしれません。

長崎市は、遺跡との事実と遺跡の空間を破壊して、記号化し言語化し自身の作品とし、その中に、現代の建物を造ろうとします。

私達は、遺跡の空隙、即ち、遺跡との事実と遺跡の空間を保存し、そのうえで、遺跡との事実と遺跡の空間のない空間に、現代の建物を造るべきだと考えます。

1. 私達は、長崎市に、遺跡を「その一部でも損壊や滅失によって失われること」なく即ち現状保存し、遺跡としての空間を保存/保全/保護し、遺跡及び遺跡としての空間の空隙に、現代の建物を造ること、及び、そのための措置をとることを要望します。

養生所/(長崎)医学校等遺跡は、一時、私達、長崎と日本と世界の、即ち、人類の社会から忘却されましたが、幸いにも、この歴史を認知する人々の認識と努力により、この遺跡への人類の“知の体系”が蓄積されつつあり、この遺跡への理解を今後とも助けます。当該遺跡は、人類の過去を知るために、又、人類にとって、当該地に固有の歴史上の事実、人類の存在と歩みの確かな事実、人類の多様性を表象する事実、地球の空間上の具体的な存在、即ち、遺跡の遺跡としての存在として、重要です。

長崎市は、当該遺跡地に於ける開発行為を優先するとし、連続した一体の当該遺跡の遺跡としての存在そのものを破壊して、遺跡の部分を設定して別個に選別し、意図的選択的に或いは破壊し、或いは現状保存し、現状保存した遺構の一部と破壊して位置を変えた遺構とレプリカを連結して「展示」とし、別に、開発による建物の一室に展示室を準備して、関係資料を“展示”して自身の概念を“説明”しようとしています。

私達は、長崎市が、長崎市の当該遺跡の取扱いに於いて、即ち、連続した一体の遺跡を部分に分断し、意図的選択的に或る部分を破壊し、或る部分を現状保存して、即ち、元来、概念や言語から断絶された物体とその状態としての存在であり歴史上の事実であるとの遺跡に於いて、意図的選択的に部分だけを取り上げることで端なくも之を概念化記号化し、即ち、遺跡の存在と遺跡の本質を破壊して、且つ、その残滓を「展示」とすると称するに及んでは、既に、博物館に於ける意図的選択的展示とその説明の組合せと同義の取扱いであることを証し、遺跡であるとの歴史上の事実としての状態を変形し、存在と状態から意図的選択により概念ここでは記号又は言語に変質し、歴史上事実としての遺跡から、自らの意図と行為の遺跡へと変換し、又は、遺跡としての存在を、自らの作品へと変換する結果は、自ずから遺跡の遺跡としての保存から大きく逸脱することに無関心であることを示す、と理解します。

2. 私達は、養生所/(長崎)医学校等遺跡の遺跡としての存在が人類にとって大切で重要であると認知する故に、長崎市に、当該遺跡の取扱いについて、当該遺跡地に於ける長崎市の所有地に係る長崎市の計画との「意図的措置」であり遺跡破壊である開発計画と行為を取消し、遺跡を遺跡として「その一部でも損壊や滅失によって失われること」なく即ち現状保存し、既に破壊した遺跡の要素は次善の策として原状回復してそのことを掲示して人々に明らかにし、当該遺跡の遺跡としての空間を保存/保全し、以って、人類の現在と未来の為に活用することを要望します。

“遺跡”と遺跡の“遺跡としての空間”

－ 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より － 2018年(平成30年)7月16日 月曜日(祝日) 養生所を考える会 代表 池知和恭

2017年(平成29年)5月30日火曜日 青山学院大学名誉教授文学博士片桐一男先生(蘭学史、洋学史、日蘭文化交渉史)が、関東より遠方長崎をお訪ねになり、先生の長崎での数日の日程の内、筆者は、その日の午後から二時間程、養生所/(長崎)医学校等遺跡を案内致しました。

遺跡地は、2017年(平成29年)5月21日日曜日 迄に、旧長崎市立佐古小学校の三階建て鉄筋コンクリート造校舎等の施設の解体撤去が完了して、現代の建築物が消滅し、一旦整地され、遺跡の要素として、随所に残る石垣と共に、各所より一望のもとに、遺跡の建物敷地の段丘状の“土地の造形”とその大きさが粗方明らかになった処でした。

先生は、養生所の病院方面から一巡して見学され、最後に「ここから見るとどうかな」と旧長崎市立佐古小学校正門の階段を自らお登りになり、遺跡地をご覧になり、その場で「(当時の写真や図面等の)資料を見せてもらったからよくわかるよ、ありがとう……これはこれでいいね。心の目でみるということだね」と首肯されました。

心の目でみる、ということ。

私達は、私達が、遺跡を考えるに際して、建築物の遺存に固執する必要はない、と考えます。

むしろ、遺跡の遺跡としての空間の保存にこそ、留意すべきです。

私達 人類には、遺跡の僅かな契機と傍証資料より、その空間を、“特別なものだ”、と認知する能力があります。

私達は、遺跡が占有すべき遺跡としての空間について、次の、三つの空間を考えます。

○ 第一は、遺跡の物体及びその状態に由来する空間です。

即ち、遺構の存在と遺物の散布及びその存在と状態を保持する土地とその範囲の広さと高さや深さの空間です。この空間を遺跡として占有できない場合には即ち直ちに遺跡の破壊との現象を伴います。

○ 第二に、遺跡の遺跡に固有の空間です。

即ち、遺跡の主題の時代の人類が活動した空間です。人々が歩くのに必要な高さの空間やかつての建物や櫓等建造物の高さ、また、日本では、一般に、その土地の地上や地下は文化的にも社会的にもその土地に附随する空間と見なされる場合が多いようで、そのような人類の集団的な文化的社会的通念も想定しています。

○ 第三に、遺跡の人類の認知と遺跡の環境としての空間です。

遺跡に関係する自然や文化的社会的な環境とその環境を保全すべき空間、及び、その遺跡の保全整備の為に必要な空間です。

私達の遺跡への印象を形成する景観としての空間もこれに含めて考えます。

私達 当会は、歴史学と遺跡について、歴史学は、まさに歴史上の事実であると概念上に認知される事象及びよって概念上に知られる人類の過去及びよって構成し得る現在と未来への希望を形成する“知の体系”と云い、遺跡は、人類の活動と存在の痕跡であり歴史上の事実そのものである物体とその状態、systemまたはその一部であり、及びよって概念上に知られる人類の過去及びよって構成し得る現在と未来への希望の源であり歴史を証徴する地球の空間上の存在であり、そして双方の照合と補完、これらは、人類が、人類の過去を知り、現在と未来の形成への概念を継続的に蓄積し考察し、是等の全てを人類に与えることにおいて、すべてが、人類にとって、貴重であり、重要であり、人々の「意図的措置」によって「その一部でも損壊や滅失によって失われること」があってはならないものごとである、と考えます。

遺跡は、地球上の空間の特定の位置に存在することで、その位置に附随する特異性を包含します。

このことにより、夫々の遺跡は、私達 人類の過去を知るために、他に代替のない、必要で不可欠な存在です。

遺跡は、元来、人々に忘れられたものが再発見されたものであり、人々の概念や記号や言語を断絶し、人々に対して寡黙であり、人々の考察を誘導するに際して、わずかな契機を与えるだけです。

人々が、遺跡に接するとき、わずかな契機を拾い上げて是に接する必要があります。

又、人類が、遺跡を人類の過去への理解に結び付けるには、歴史学や考古学の知見や傍証資料も必要です。

私達は、遺跡の空間から遺跡以外の夾雑物を排除して遺跡の遺跡としての空間を保存し保全することで、わずかな契機の認知がよりよく可能となり、そこから、遺跡の存在の受容が始まり、ひいては、人類は、広く、人類の知のsystemへの理解へと導かれると期待します。

私達は、遺跡の遺跡としての空間は、遺跡の歴史上の事実との存在及び人々のその遺跡や人類の過去への理解及び現在と未来への考察、遺跡の歴史上価値/学術上価値と保存と活用、を保持する構造/鍵と理解します。

私達は、本然たるあるべき姿の遺跡の遺跡としての空間こそが、私達に遺跡を「心の目でみる」ことを可能にする、と考えます。

“時間をかけた豊かな変化”の提案

－ 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より －

2018年(平成30年)7月26日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和森

私達 人類は、私達に接する様々な事象に対して、私達の個々人の知覚を媒体として、個々人が之を体験し、個々人が之を認識し記憶し理解します。

私達 人類は、Homo Sapiens(人類)という相似的な生物の集団であり、集団的な行動によって、知覚と認識と体験と記憶と理解を共有することができ、共通認識を形成し、又、共通認識を基盤に概念を形成し、概念を一定の形態や変化に象徴させ、即ち、記号化して、即ち、音声や言語や文字を媒体に表現して、意思疎通を形成し、之を基盤に、さらに、新しい概念と共通認識を形成します。

私達 当会は、之を、仮に“知の循環(cycle)”と呼称します。

私達 当会は、“知の循環(cycle)”に、二つの方向性を仮定します。

生命維持に対する速度と効率、及び、“知の循環(cycle)”の自己目的性、です。

“知の循環(cycle)”の自己目的性、が、生命維持に対する速度と効率、を高度化する、とも考えられます。

一見、相反する方向性が、全体の構造を形成し維持している、とも考えられます。

私達 当会は、この状態を、人々が“知の体系”と呼ぶものと推測します。

私達 人類の知覚は、人類の生命にとって必要で十分な方法と範囲に極めて限定して与えられたもので、私達に接する様々な事象を、直接に、又、そのすべてを把握することは不可能です。

私達 人類の“知の体系”は、人類が、私達に接する様々な事象を、直接に、又、そのすべてを把握することが不可能であることを前提に、個人の経験の限界を凌駕する、共時的、通時的な膨大な知覚を背景に、個々人が、様々な特定の基準によって、取捨選択して、又、再構成して、生命維持に対する速度と効率、及び、“知の循環(cycle)”の自己目的性、を達成しようとし、事象に近接しようとし、事象の全てを把握しようと企てする、在り方、行動と結果である、と考えられそうです。

私達 人類の“知の体系”と私達に接する様々な事象との間には、人々の努力にもかかわらず、必然的に、誤差や人類の誤謬があると考えられます。

全ての事象を、直接に、又、そのすべてを把握することが不可能である私達 人類。

今日、私達 人類は、全人類が共時的通時的に共通して目指すべき普遍的であるがゆえに唯一である方法や目的や方向性などを私達に準備し得るでしょうか。

私達 当会は、人類の知への欲求を、知性を持つ人類の、本源的なもの、と考えます。

私達 当会は、人類の知性は、人類の地球環境や生命体としての存在とは異なる、別の“変化”を導出すると考えます。

私達 当会は、本紙で、新たに、“時間をかけた豊かな変化”を提案します。

私達 当会は、“知の循環(cycle)”及び“知の体系”について仮定した、生命維持に対する速度と効率、及び、“知の循環(cycle)”の自己目的性、に対応して、仮に、“目的”と“興味(interest)”との概念を選出し、“目的”⇔“遂行”、“興味”⇔“理解”との関係を設定し、又、“存在”と“概念”を軸に、複数の概念を“集合”させて、対置します(添付別紙)。

私達 当会は、一見相反する概念や行動や存在や在り方、対照概念や対照事象が、伝統的に、地球の空間又私達の思考空間の私達の身近に並置されることが、私達の思考と行動に試行錯誤と奥行きを与え、私達に豊かな実りをもたらす、と考えたいと提案します。

私達 当会は、歴史学と遺跡について、まさに歴史上過去の事実であると概念上に認知される事象及び之によって概念上に知られる人類の過去への理解及び之によって構成し得る現在と未来への可能性と希望を形成する歴史学、人類の活動と存在の痕跡であり歴史上過去の事実そのものである物体とその状態及び之によって概念上に知られる人類の過去への理解及び之によって構成し得る現在と未来への可能性と希望の源であり歴史を証徴する遺跡、双方の照合と補完、これらは、人類が、人類の過去を知り、現在と未来の形成への概念を継続的に蓄積し考察し、是等の全てを人類に与えることにおいて、すべてが、人類にとって、貴重であり、重要であり、等しく人々の「意図的措置」によって「その一部でも損壊や滅失によって失われること」があつてはならないものごとである、と考えます。

私達 当会は、歴史学が、人類が、人類の過去を知り現在と未来を考察する“知の体系”であるならば、遺跡は、人類が、人類の過去を知り現在と未来を考察するための地球の空間上の各所に概念の超越性に於いて相互に関連して網目を成す人類共通の“社会基盤(infrastructure)”であると考えます。

私達 当会は、又、遺跡が、私達人類の生活環境でもあり得る、と考えます。

私達 当会は、“都市長崎遺跡”及び“養生所/(長崎)医学校等遺跡”及び遺跡群と個々の遺跡が占有すべき空間、当該遺跡群によって証徴される歴史、即ち、当該事象について、次の通り、理解します。

私達 当会は、当該事象について、以下の内容を包含すると、理解します。① 世界と日本の社会との繋がりと地球上の地理空間とその特質によって日本の中世から近代にかけて長崎に形成された特異性を有し、共時的通時的に世界に代替のないものであること、② 日本における古代～中世～近世、後、近代～現代へと連続する風土と社会と文化と歴史によって蓄積された国力を集約し、再構成するものであること、③ 長崎が徳川江戸幕府による日本開国の母体であり表玄関であり日本開国の諸施策を展開した最初の拠点都市であり、この長崎で集約して体系的に又附随して展開された事象が日本の国民国家の存続と主権国民国家形成の原動力と効率の要であること、④ 西欧文明圏以外の人類にとっても社会的な“個人の自由と存在の尊厳”と“自然科学の取扱い”による自律的な人類の福祉の向上が可能であることをこの日本地域の風土と蓄積を基盤に実現しもって之を世界に対して初めて立証して示し、よって世界に影響を及ぼし結果としてこの可能性がその後の地球規模の主権国民国家群の成立による現代世界の形成と一方でGlobalizationの双方の基層概念の規定に関与すると考え得る意味に於いてその基層概念を形成すると考え得るし今後も影響し得る処、正しくその端緒であること(この基層は英国の大憲章(Magna Carta)やフランス革命の単一の歴史的発展でなく多元的で多様なものと考え得る)、⑤ 中世から近代・現代への日本人と諸国又オランダの人々の世界への理解と判断と行動(system)を表すこと。私達 当会は、当該する歴史について、以下の遺跡群が之を証徴すると、理解します。① 中世に於けるローマ・カトリックによる岬の小さな城塞都市と文化の痕跡、② 長崎の中世から近世への町立てと変化と展開の痕跡、③ 幕府の海外交易と対外情報収集と海防の痕跡、④ 日本開国の痕跡、⑤ 幕府とオランダによる長崎での長崎海軍伝習の実現とその痕跡、⑥ 長崎海軍伝習で設立される長崎製鉄所の痕跡—之を継承連続する三菱の造船所、⑦ 長崎海軍伝習で成立する医学伝習と続く養生所の設置と之を精得館と改称して設置する分析窮理所の存在の痕跡—之を継承連続する長崎府医学校(及び病院)以降—梅毒病院(改称を経て小島病院)の痕跡、⑧ 長崎資本の活動の痕跡、⑨ 都市長崎の近代都市基盤の形成の痕跡、⑩ プルトニウム型原子爆弾被爆の痕跡、⑪ 現代都市形成の痕跡即ち現代の都市の姿。

私達 当会は、当該事象について、当該事象が、地球上の人類の概念と活動の関連性に於いて成立すること、同時に、地球上の一つの地域であることとその連続的経時的重層性に附随する特異性をもって之を具体的に証徴する遺跡群を形成すること、現在、世界の時間と人々を前提とした従来の普遍的であるがゆえに唯一性を有する概念の有効性への信頼性が揺らいでいること、これ等の経過によって、又、当該事象は、他のあらゆる事象と同様、地球上の全人類にとって有意な歴史上の出来事と之を証徴する遺跡群であることによって、又、日本国内の又世界の、関係する歴史と遺跡と文化に関する各地点との情報交換と連携により形成する筈の地球空間における人々の相互理解の網の目によって、人類にとって、人類の過去を認識し、人類の現在と未来を考える為に、世界で、欠くことのできない事象群の一つである、と理解します。

私達 当会は、長崎市及び長崎県、長崎市民、長崎県民、日本人々、世界の方々に、以上の歴史と遺跡即ち当該事象について、その実態を明らかにし、人々の「意図的措置」によって「その一部でも損壊や滅失によって失われること」なく保存して継承し人類の存在と歴史と遺跡とその本源によって人類の現在と未来の為に活用し、不幸にして、既に、人々の意図的措置によって損壊し滅失した遺跡又は遺跡の空間と要素について人類の存在と歴史と遺跡とその本源によって之を原状回復することを要望し、その為の措置をとることを要望し、又、この要望への理解を求めます。

私達 当会は、当該遺跡群が、世界の「日本は特別だ」として日本への思索を切捨てる人々に、その思索を再開する契機を提供する、と期待します。

私達 当会は、私達人類が、その土地に係わるとき、私達人類には、その土地の遺跡を保存し後世に継承する、権利と義務と私達人類に対する責任が、他の生命や地球環境への配慮を留保しつつ、存在する、と考えます。

私達 当会は、長崎に住み、長崎を訪れ、長崎で活動する人々に、自らの行動のうちに、“都市長崎遺跡”及び“養生所/(長崎)医学校等遺跡”及び遺跡群と個々の遺跡が占有すべき空間を保存して後世に継承する、権利と義務と私達人類に対する責任があると自覚し、そう行動するよう要望します。

私達 当会は、長崎市及び長崎県及び関係する人々に、遺跡とその空間を破壊して現代の建物や道路を造るのでなく、遺跡の空隙、即ち、遺跡とその空間のない所に現代の建物や道路を造ること、その為の措置をとることを要望します。

私達は、歴史学上に人類の本源への考察を継続すること、及び、遺跡の姿について、之を、変化する現代に於いて、変わるべきものに対して、変わるべきでないものと考え、そのままの在り方/そのままの姿で、後世の人々に継承されるべきものと考えます。

[添付別紙] 『時間をかけた豊かな変化への仮説としての羅針盤』

— 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より —

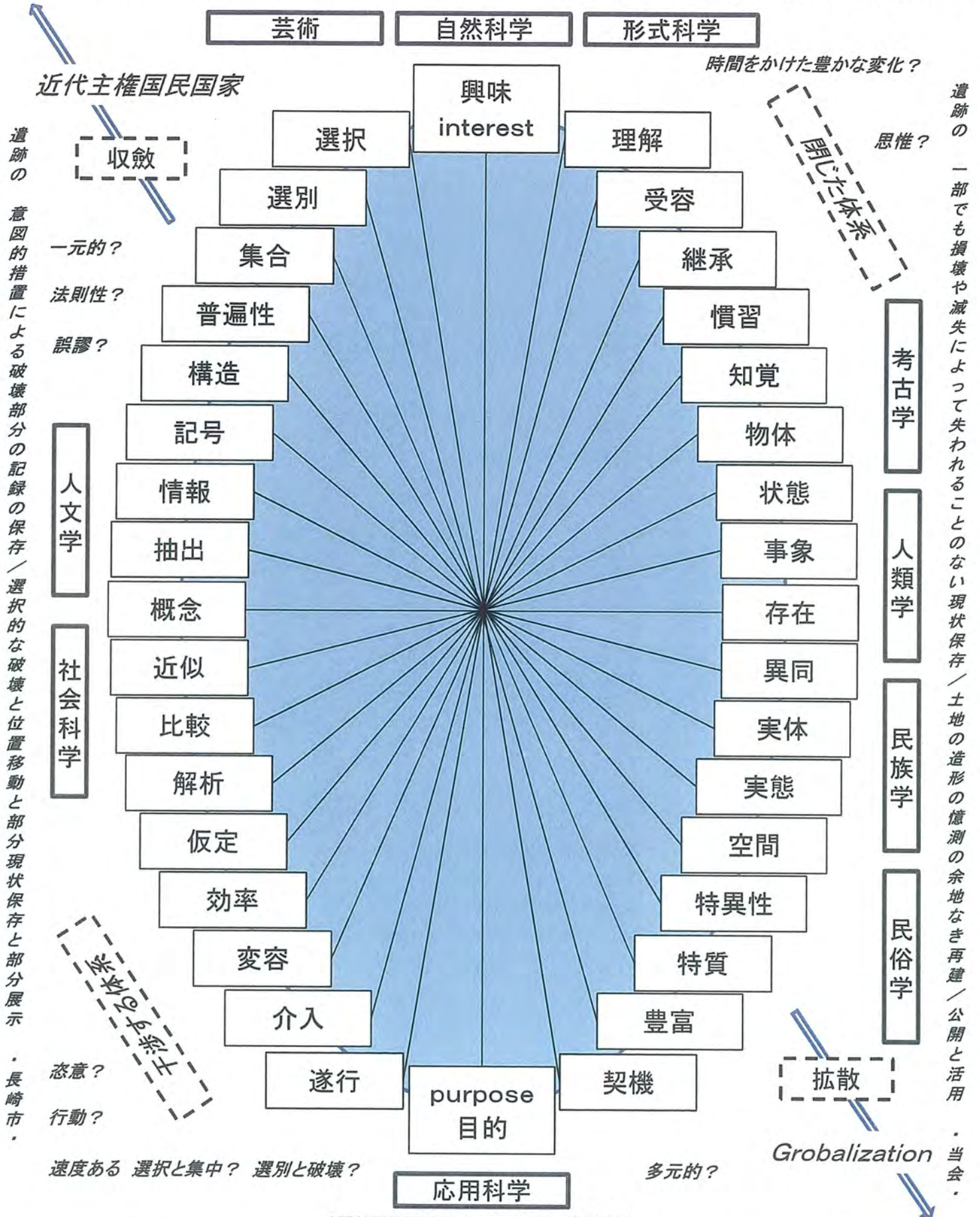
2018年(平成30年)7月26日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

ㄨ

時間をかけた豊かな変化への仮説としての羅針盤

一 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より

2018年(平成30年)7月26日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭



私達は何を選択するのか

私達に接する様々な事象を、直接に、又、そのすべてを把握することが不可能である私達 人類。
...私達 当会は、一見相反する概念や行動や存在や在り方、対照概念や対照事象が、伝統的に、地球の空間又私達の思考空間の私達の身近に並置されることが、私達の思考と行動に試行錯誤と奥行きを与え、私達に豊かな実りをもたらす、と考えたいと提案します。...

長崎市の養生所/(長崎)医学校等遺跡への姿勢は、概念の取扱いであり、文化財物たる存在たる遺跡の取扱いや保存と範疇が異なる。

“歴史学”と“遺跡”そして“都市長崎遺跡”と“養生所/(長崎)医学校等遺跡”

ー 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より ー

2018年(平成30年)8月5日 日曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

私達 当会は、歴史学と遺跡について、まさに歴史上過去の事実であると概念上に認知される事象及び之によって概念上に知られる人類の過去への理解及び之によって構成し得る現在と未来への可能性と希望を形成する歴史学、人類の活動と存在の痕跡であり歴史上過去の事実そのものである物体とその状態及び之によって概念上に知られる人類の過去への理解及び之によって構成し得る現在と未来への可能性と希望の源であり歴史を証徴する遺跡、双方の照合と補完、これらは、人類が、人類の過去を知り、現在と未来の形成への概念を継続的に蓄積し考察し、是等の全てを人類に与えることにおいて、すべてが、人類にとって、貴重であり、重要であり、等しく人々の「意図的措置」によって「その一部でも損壊や滅失によって失われること」があってはならないものごとである、と考えます。

私達 当会は、歴史学が、人類が、人類の過去を知り現在と未来を考察する“知の体系”であるならば、遺跡は、人類が、人類の過去を知り現在と未来を考察するための地球の空間上の各所に概念の超越性に於いて相互に関連して網目を成す人類共通の“社会基盤(infrastructure)”であると考えます。

私達 当会は、又、遺跡が、私達人類の生活環境でもあり得る、と考えます。

私達 当会は、“都市長崎遺跡”及び“養生所/(長崎)医学校等遺跡”及び遺跡群と個々の遺跡が占有すべき空間、当該遺跡群によって証徴される歴史、即ち、当該事象について、次の通り、理解します。

私達 当会は、当該事象について、以下の内容を包含すると、理解します。① 世界と日本の社会との繋がりと地球上の地理空間とその特質によって日本の中世から近代にかけて長崎に形成された特異性を有し、共時的通時的に世界に代替のないものであること、② 日本における古代～中世～近世、後、近代～現代へと連続する風土と社会と文化と歴史によって蓄積された国力を集約し、再構成するものであること、③ 長崎が徳川江戸幕府による日本開国の母体であり表玄関であり日本開国の諸施策を展開した最初の拠点都市であり、この長崎で集約して体系的に又附随して展開された事象が日本の国民国家の存続と主権国民国家形成の原動力と効率の要であること、④ 西欧文明圏以外の人類にとっても社会的な“個人の自由と存在の尊厳”と“自然科学の取扱い”による自律的な人類の福祉の向上が可能であることをこの日本地域の風土と蓄積を基盤に実現しもって之を世界に対して初めて立証して示し、よって世界に影響を及ぼし結果としてこの可能性がその後の地球規模の主権国民国家群の成立による現代世界の形成と一方でGlobalizationの双方の基層概念の規定に関与すると考え得る意味に於いてその基層概念を形成すると考え得るし今後も影響し得る処、正しくその端緒であること(この基層は英国の大憲章(Magna Carta)やフランス革命の単一の歴史的発展でなく多元的で多様なものと考え得る)、⑤ 中世から近代・現代への日本人と諸国又オランダの人々の世界への理解と判断と行動(system)を表すこと。

私達 当会は、当該する歴史について、以下の遺跡群が之を証徴すると、理解します。① 中世に於けるローマ・カトリックによる岬の小さな城塞都市と文化の痕跡、② 長崎の中世から近世への町立てと変化と展開の痕跡、③ 幕府の海外交易と対外情報収集と海防の痕跡、④ 日本開国の痕跡、⑤ 幕府とオランダによる長崎での長崎海軍伝習の実現とその痕跡、⑥ 長崎海軍伝習で設立される長崎製鉄所の痕跡ー之を継承連続する三菱の造船所、⑦ 長崎海軍伝習で成立する医学伝習と続く養生所の設置と之を精得館と改称して設置する分析窮理所の存在の痕跡ー之を継承連続する長崎府医学校(及び病院)以降ー梅毒病院(改称を経て小島病院)の痕跡、⑧ 長崎資本の活動の痕跡、⑨ 都市長崎の近代都市基盤の形成の痕跡、⑩ プルトニウム型原子爆弾被爆の痕跡、⑪ 現代都市形成の痕跡即ち現代の都市の姿。

私達 当会は、当該事象について、当該事象が、地球上の人類の概念と活動の関連性に於いて成立すること、同時に、地球上の一つの地域であることとその連続的経時的重層性に附随する特異性をもって之を具体的に証徴する遺跡群を形成すること、現在、世界の時間と人々を前提とした従来の普遍的であるがゆえに唯一性を有する概念の有効性への信頼性が揺らいでいること、これ等の経過によって、又、当該事象は、他のあらゆる事象と同様、地球上の全人類にとって有意な歴史上の出来事と之を証徴する遺跡群であることによって、又、日本国内の又世界の、関係する歴史と遺跡と文化に関する各地点との情報交換と連携により形成する筈の地球空間における人々の相互理解の網の目によって、人類にとって、人類の過去を認識し、人類の現在と未来を考える為に、世界で、欠くことのできない事象群の一つである、と理解します。

私達 当会は、長崎市及び長崎県、長崎市民、長崎県民、日本の人々、世界の方々に、以上の歴史と遺跡即ち当該事象について、その実態を明らかにし、人々の「意図的措置」によって「その一部でも損壊や滅失によって失われること」なく保存して継承し人類の存在と歴史と遺跡とその本源によって人類の現在と未来の為に活用し、不幸にして、既に、人々の意図的措置によって損壊し滅失した遺跡又は遺跡の空間と要素について人類の存在と歴史と遺跡とその本源によって之を原状回復することを要望し、その為の措置をとることを要望し、又、この要望への理解を求めます。

私達 当会は、当該遺跡群が、世界の「日本は特別だ」として日本への思索を切捨てる人々に、その思索を再開する契機を提供する、と期待します。

私達 当会は、私達人類が、その土地に係わるとき、私達人類には、その土地の遺跡を保存し後世に継承する、権利と義務と私達人類に対する責任が、他の生命や地球環境への配慮を留保しつつ、存在する、と考えます。

私達 当会は、長崎に住み、長崎を訪れ、長崎で活動する人々に、自らの行動のうちに、“都市長崎遺跡”及び“養生所/(長崎)医学校等遺跡”及び遺跡群と個々の遺跡が占有すべき空間を保存して後世に継承する、権利と義務と私達人類に対する責任があると自覚し、そう行動するよう要望します。

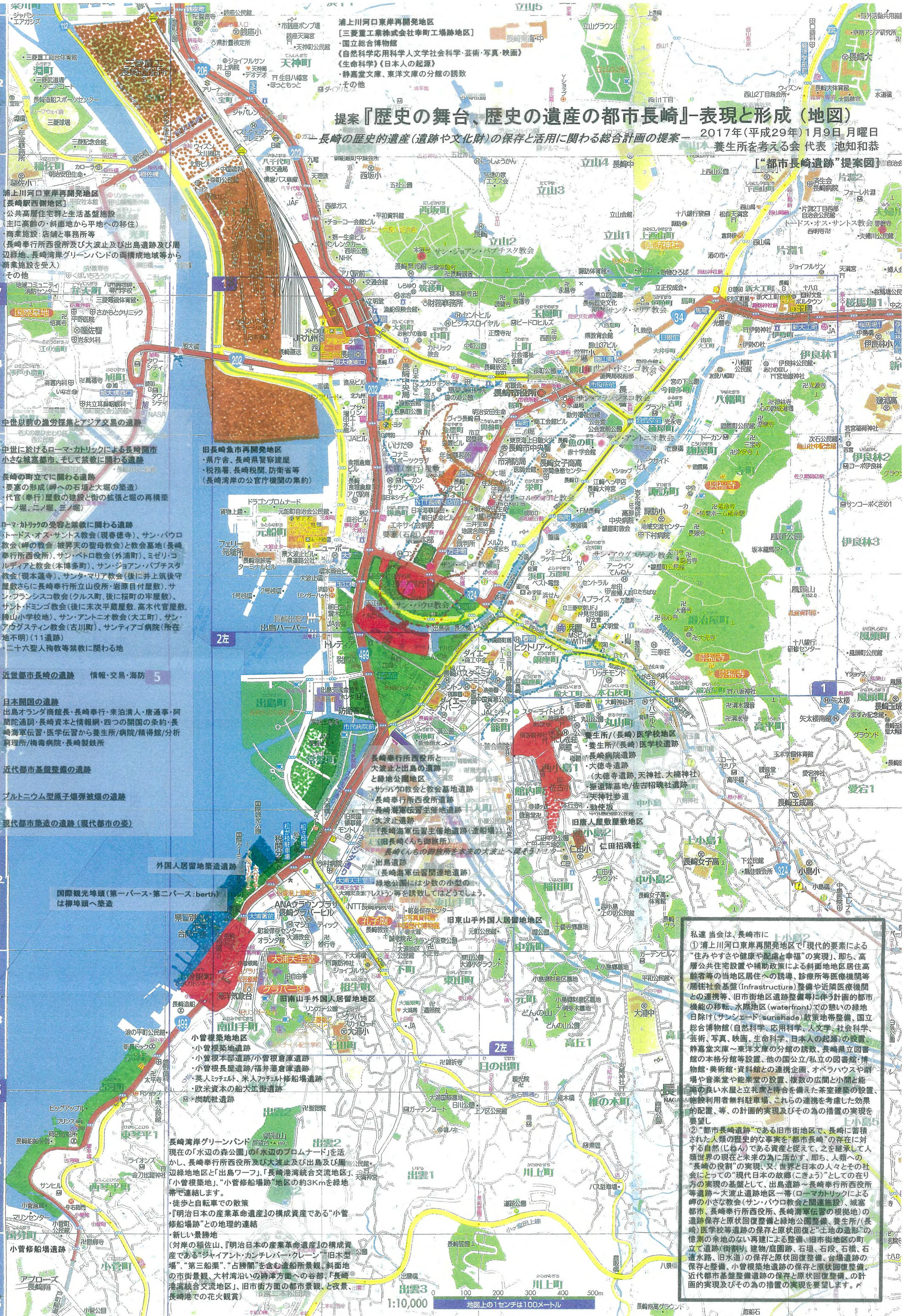
私達 当会は、長崎市及び長崎県及び関係する人々に、遺跡とその空間を破壊して現代の建物や道路を造るのではなく、遺跡の空隙、即ち、遺跡とその空間のない所に現代の建物や道路を造ること、その為の措置をとることを要望します。

私達は、歴史上学上に人類の本源への考察を継続すること、及び、遺跡の姿について、之を、変化する現代に於いて、変わるべきものに対して、変わるべきでないものと考え、そのままの在り方/そのままの姿で、後世の人々に継承されるべきものと考えます。

提案『歴史の舞台、歴史の遺産の都市長崎』-表現と形成(地図)

長崎の歴史的遺産(遺跡や文化財)の保存と活用に関わる総合計画の提案 2017年(平成29年)1月9日 月曜日
養生所を考える会 代表 池知和恭

【『都市長崎遺跡』提案図】



私達 当会は、長崎市に
① 浦上川河口東岸再開発地区で「現代的要素による
「住みやすさや健康や配慮と幸福」の実現」、即ち、高
層公共住宅設置や補助政策による斜面地区居住高
齢者等の当地区居住への誘導、診療所等医療機関等
居住社会基盤(Infrastructure)整備や近隣医療機関と
の連携等、旧市街地区遺跡整備等に伴う計画的都市
機能の移転、水際地区(waterfront)での憩いの緑地
日除け(Sunshade)・散策地帯整備、国立
総合博物館(自然科学、応用科学、人文、社会科学、
芸術、写真、映画、生命科学、日本人の起源)の設置、
静嘉堂文庫・東洋文庫の分館の誘致、長崎県立図書
館の本格分館等設置、他の国公立/私立の図書館・博
物館・美術館・資料館との連携企画、オペラハウスや劇
場や音楽堂や能楽堂の設置、複数の広間と小間と能
楽のよい水屋と立席と待合を備えた茶室建築の設置、
施設利用者無料駐車場、これらの連携を考慮した効果
的配置、等、の計画的実現及びその為の措置の実現を
要望し
② 「都市長崎遺跡」である旧市街地区で、長崎に蓄積
された人類の歴史的な事実を「都市長崎」の存在に対
する自然(じなん)である遺産と捉えて、之を継承して人
類世界の現在と未来の為に活かす。即ち、人類への
「長崎の役割」の実現、又、世界と日本人の文化と社会
に於ける「現代日本の故郷(こきょう)」としての在り
方の実現の基盤として、出島遺跡・長崎奉行所西役所
等遺跡・大波止遺跡地区(ローマカトリックによる
島の小さな教会(サン・パウロ教会)と関連施設)、城塞
都市、長崎奉行所西役所、長崎海軍伝習所の根拠地)の
遺跡保存と原状回復整備と緑地公園整備、養生所/(長
崎)医学学校等遺跡の保存と原状回復と「土地の造形」
の復元(街割、建物/庭園跡、石垣、石段、石橋、石
造水路、旧水道)の保存と原状回復整備、台場遺跡の
保存と整備、小菅根拠地遺跡の保存と原状回復整備、
近代都市基盤整備遺跡の保存と原状回復整備、の計
画的実現及びその為の措置の実現を要望します。

日本人の 心の迎賓館たり

海軍伝習、長崎製鉄所、医学伝習

現代日本の国のかたちはここからはじまる。

2015年秋、長崎市文化財課により佐古小学校養生所跡地の発掘調査で養生所遺構が発見されました。養生所遺構を長崎市民や子供たちの生活の中に生かしていくにはどうすればよいかを仁田・佐古の方々と一緒に考えたく、このシンポジウムを企画しました。

幕末の長崎で行われた日本とオランダの国際プロジェクト、海軍伝習は、江戸幕府が主体的に西欧文明を受容すべく発案し、海軍の設立にとどまらず、近代科学技術と近代医学を組織的に導入するものでした。佐古小学校の丘に建てられた養生所は日本初の124ベッドの近代的な西洋式病院であり、ボンベ・ファン・メルデルフォールトは侍と町人、日本人と西洋人の区別なく、民主的な患者中心の医療を行い、封建社会で育った松本良順と弟子たちに強い衝撃を与えました。彼の創始した近代西洋医学教育により育まれた医師たちが日本の近代医学への革命を担いました。ハルデスによって設立された長崎製鉄所で育まれた科学技術者たちは日本の近代科学技術への革命を担いました。この海軍伝習で、オランダ人教師たちの新しい物の考え方に触れ、日々生まれ変わっていった若者たちが維新回天に活躍したのです。

当日は幕末佐賀研究会の方々が養生所跡や高島秋帆邸跡を見たいと参加されます。佐賀藩(鍋島直正公)は長崎警備を担当し、藩の自然科学と近代科学技術レベルは、日本各地の雄藩を圧倒するものでした。反射炉を建設、大砲を鋳造し、神之島・四郎力島の砲台を建設しています。三重津海軍所では蒸気船を建設、幕末最大の海軍力を持つ藩でした。維新回天で活躍した大隈重信、副島種臣、佐野常民、相良知安、江藤新平、大木喬任を輩出しました。お忙しいところ恐縮ですが、ご来場たまわれば幸いです。

養生所とその遺構を考える

2016年7月17日(日) 13:30-16:00

入場観覧無料

長崎市仁田・佐古地区ふれあいセンター 第一研修室

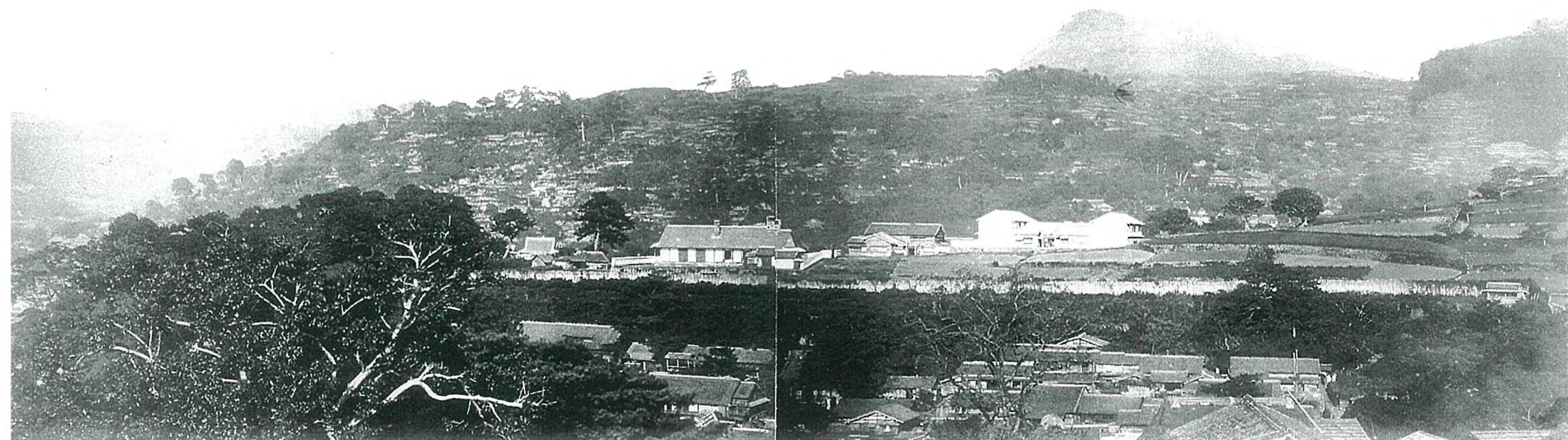
講演Ⅰ 『海軍伝習・養生所と日本の近代化』
相川 忠臣 長崎大学名誉教授 著書『出島の医学』

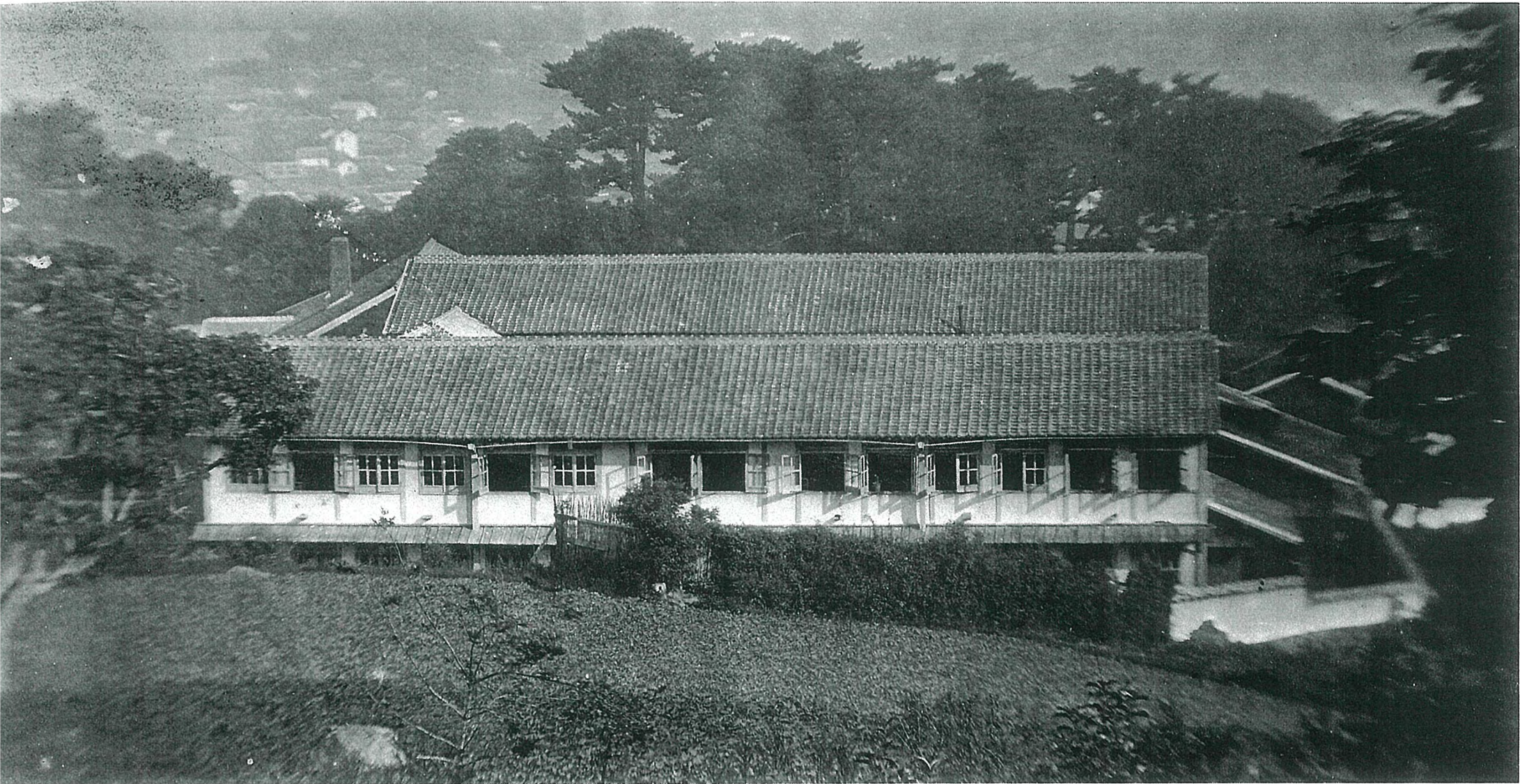
講演Ⅱ 『養生所等遺構の現状と未来への展望』
池知 和恭 養生所を考える会代表

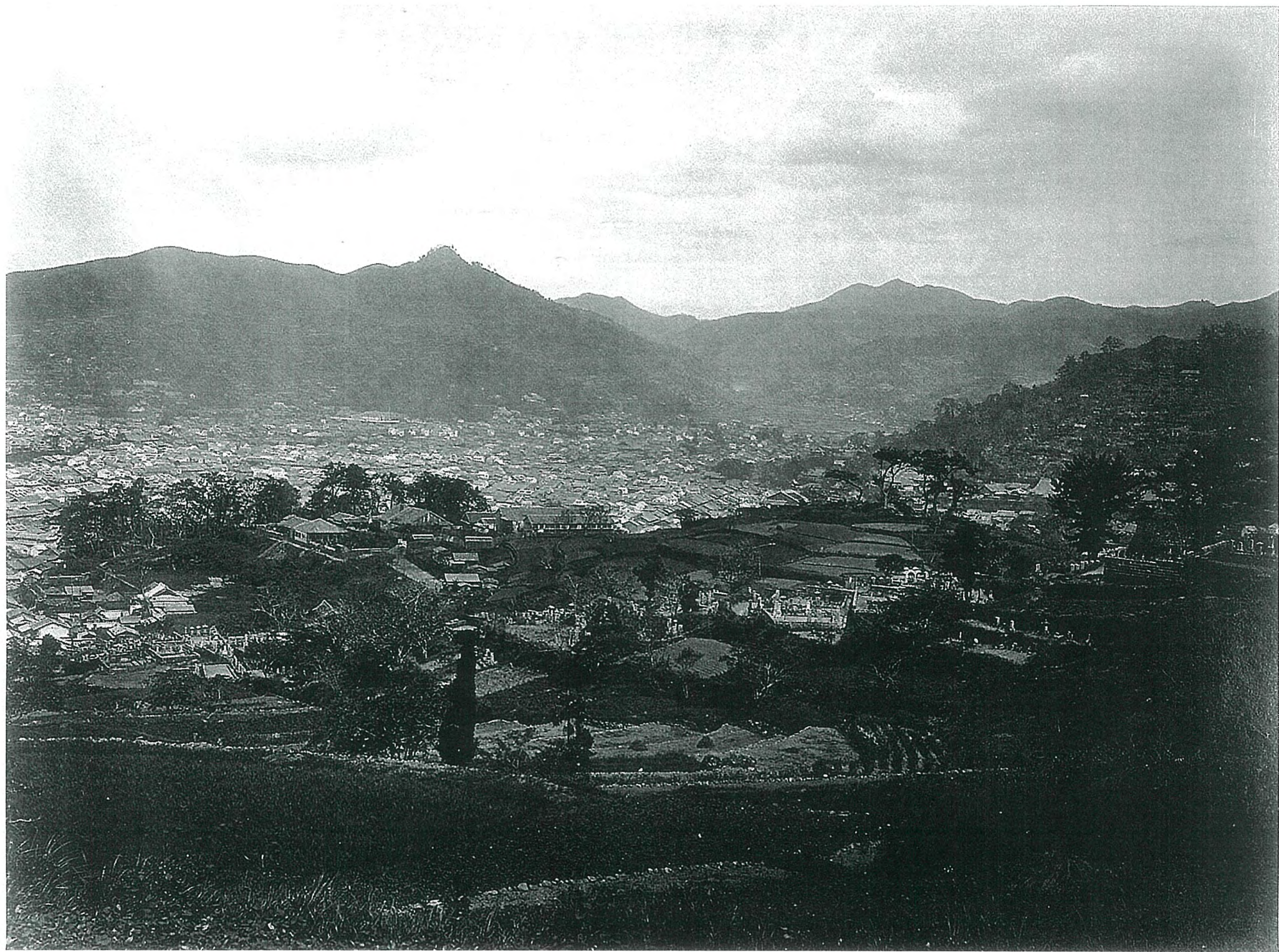
講演中の御質問・御発言は随時、挙手にて受け付けますので、その都度御質問いただいて結構です。
なお講演の後、話題・御質問・御発言など自由時間も予定しております。

主催 養生所を考える会 後援 長崎歴史文化協会

お問い合わせ 090-3730-1858 [池知] / 095-848-5616 [相川]





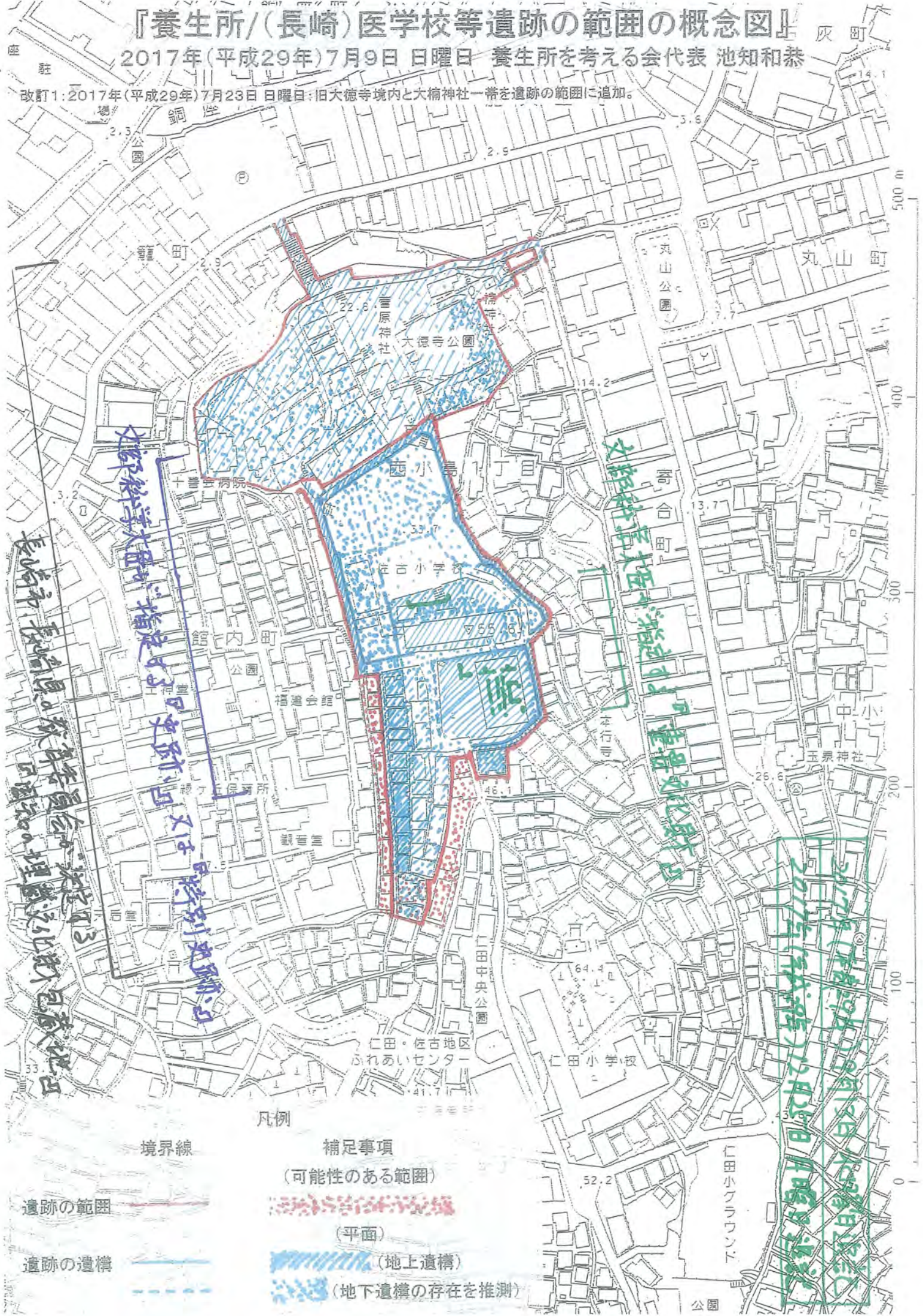




『養生所/(長崎)医学校等遺跡の範囲の概念図』

2017年(平成29年)7月9日 日曜日 養生所を考える会代表 池知和恭

改訂1: 2017年(平成29年)7月23日 日曜日: 旧大徳寺境内と大楠神社一帯を遺跡の範囲に追加。



養生所/医学校遺構の時代推測

2015年(平成27年)10月31日 土曜日 池知和恭

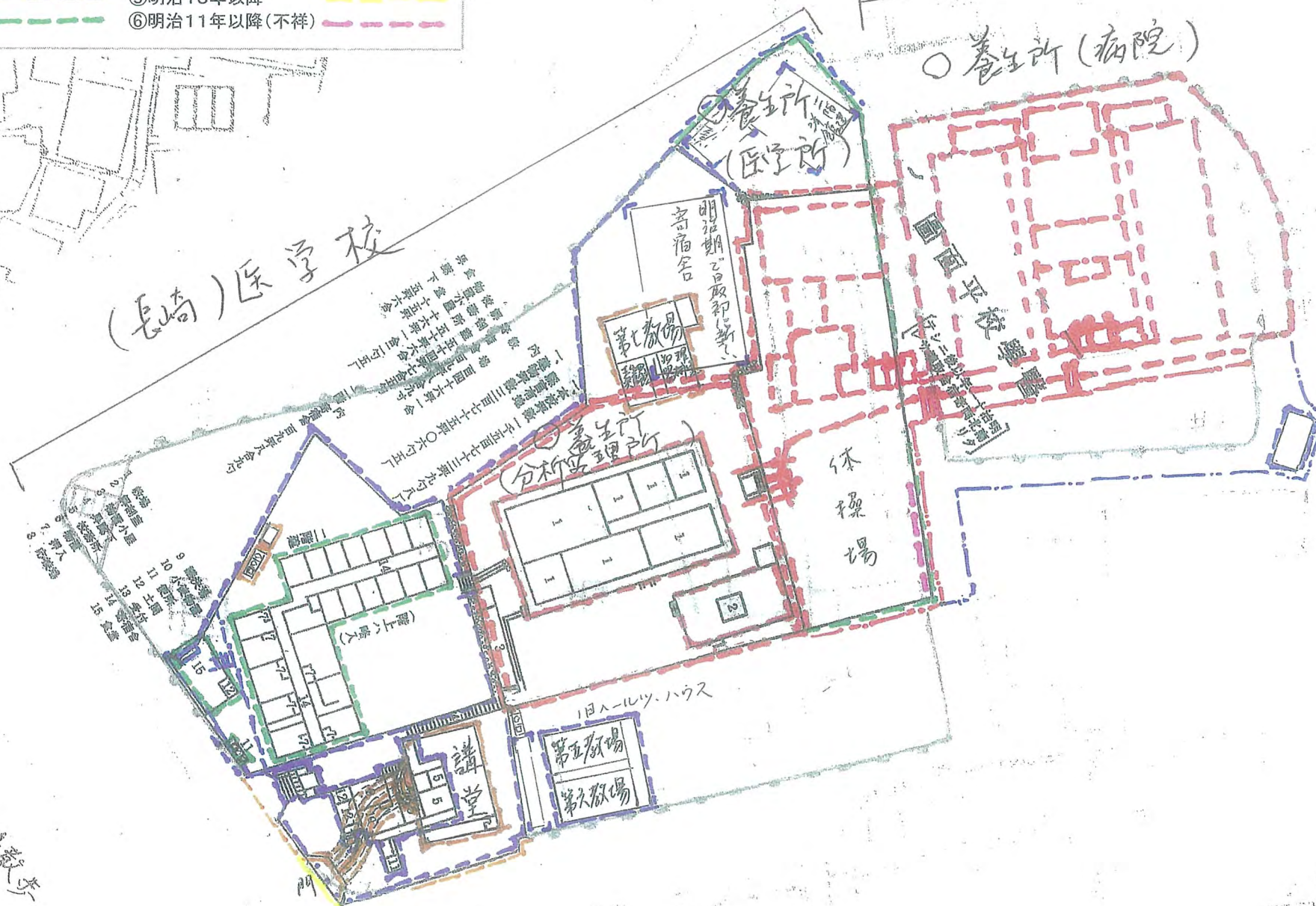
凡例

- | | |
|----------|----------------|
| ①江戸時代 | ④明治11年から明治15年頃 |
| ②明治11年以前 | ⑤明治15年以降 |
| ③明治11年以降 | ⑥明治11年以降(不祥) |

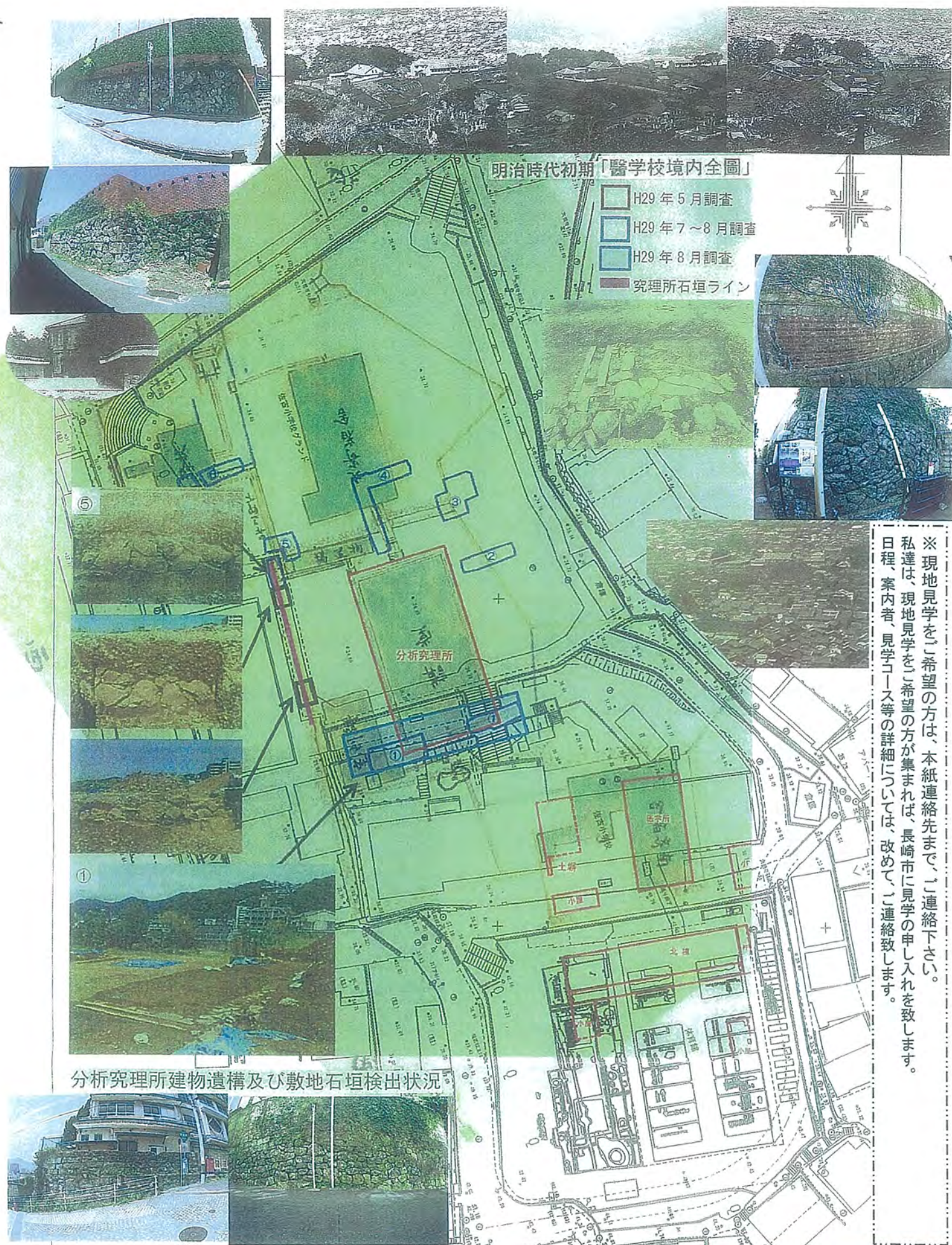
長崎病院附属梅毒病院
～ 小島病院

(長崎)医学校

○ 養生所(病院)



養生所/医学校のための長崎散歩



明治時代初期「医学校境内全圖」

- H29 年 5 月調査
- H29 年 7 ~ 8 月調査
- H29 年 8 月調査
- 究理所石垣ライン



※現地見学をご希望の方は、本紙連絡先まで、ご連絡下さい。
 私達は、現地見学をご希望の方が集まれば、長崎市に見学の申し入れを致します。
 日程、案内者、見学コース等の詳細については、改めて、ご連絡致します。

分析究理所建物遺構及び敷地石垣検出状況

縮尺 1:500

(A3紙サイズをA4紙サイズに縮小しています)

養生所/(長崎)医学校等遺跡の案内
 2017年(平成29年)9月24日 日曜日
 養生所を考える会 代表 池知和恭

長崎（小島）養生所跡発掘調査検出遺構

■ 小島養生所時代の遺構

■ 長崎保険組合小島病院の建物基礎（推定）

■ 長崎保険組合小島病院の石列溝（推定）

養生所（長崎）医学校等通所内の養生所病院一小島病院敷地に於ける
長崎市文化観光部文化財課発掘調査検出遺構への
考古学上検証資料からの検証のための作成図面
2018年（平成30年）11月28日現在 養生所を考へる会 代表 池田和典

【注】
2017年（平成29年）12月21日 本図は長崎市文化観光部文化財課長 大賀史郎様が
委員会に「小島養生所（地味発掘）検出遺構について」
及び「長崎（小島）養生所跡発掘調査検出遺構」を呈交
【作成及び改訂】
1 作成 2018年（平成30年）11月28日現在 養生所を考へる会 代表 池田和典
2 改訂1 2018年（平成30年）3月19日現在 養生所を考へる会 代表 池田和典
3 改訂2 2018年（平成30年）8月15日現在 養生所を考へる会 代表 池田和典
【用紙】
A3

【2017年（平成29年）長崎市文化観光部文化財課による】



東西方向に曲がっており、養生所
建物とは連結していない。

建物とは連結し
曲がっている

溝を埋
つた後

列溝
た後

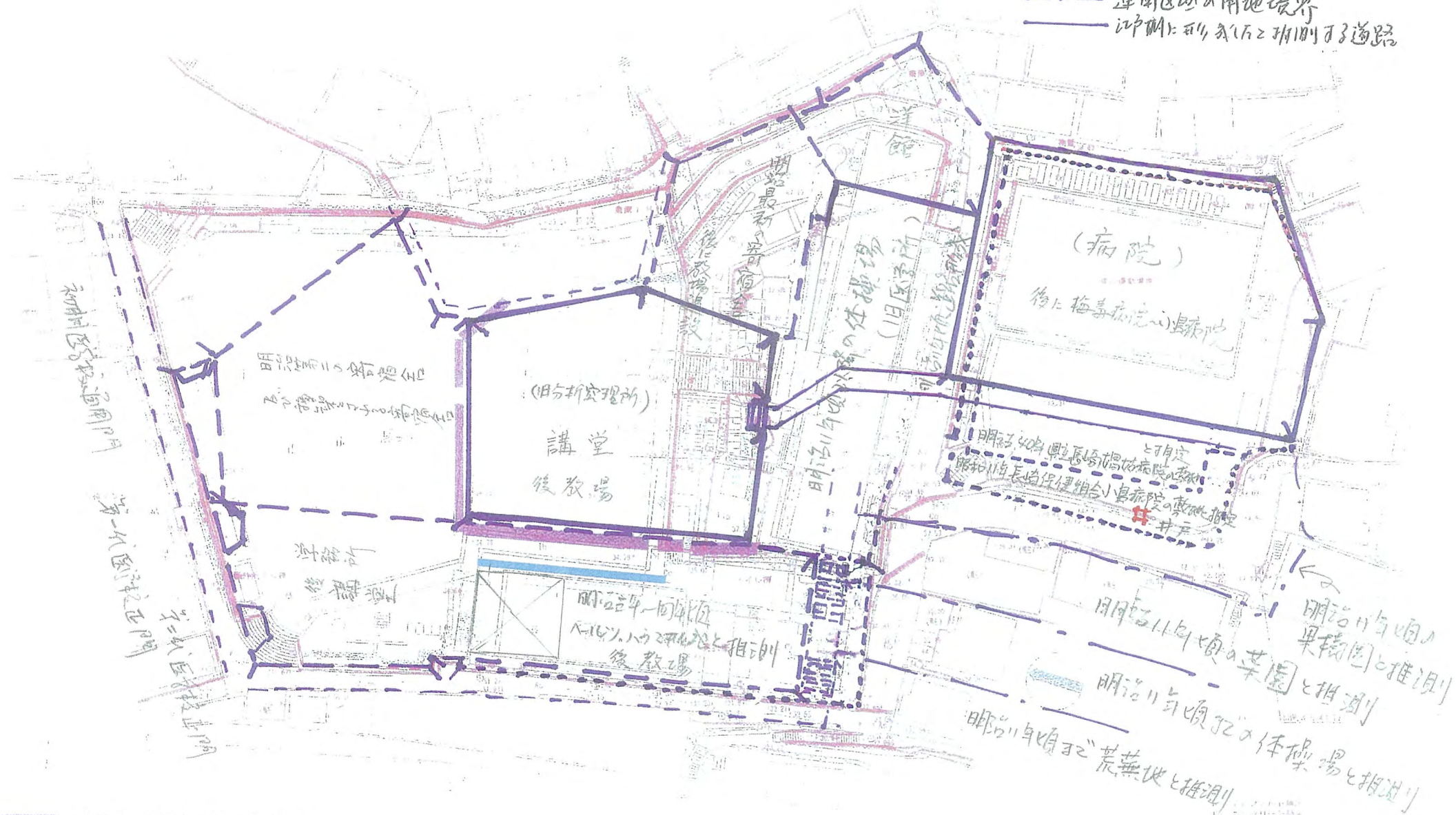
20m

41.71
41.39
48
42.43
43
44
4.38
06
4.11
44.35
3.67
2.03
43.43

石塘形成概念图

2018年(平成30年)5月31日 木曜日 養生所2号入会代表 池知和泰
改訂1: 2018年(平成30年)8月15日 水曜日 養生所2号入会代表 池知和泰
佐古小学校配適図 (分析処理所解体前) 江戸川の養生所の病院の敷地東部石垣位置
を修正

- 江戸湾内に形成したと推測する石垣
明治11年頃に形成したと推測する石垣
明治11年以降に形成したと推測する石垣
明治11年頃に形成したと推測する道路
運用区域の用地境界
江戸川に形成したと推測する道路

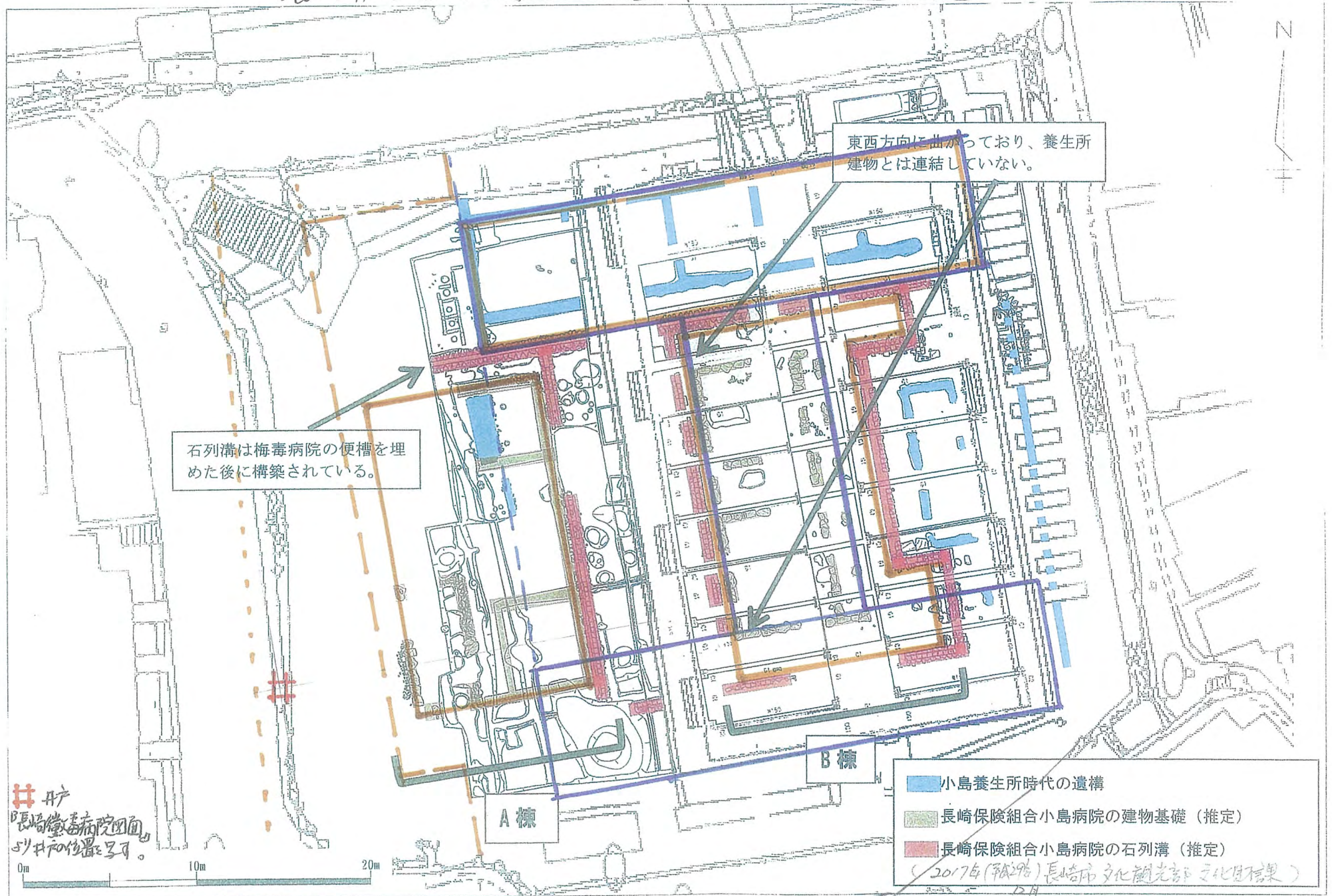


分析究理所時代の石垣ライン

今回検出された石垣ライン（長さ 25.5m、高さ 0.9~1.1m）

現況配置圖 7/30

養生所/(長崎)医学校跡遺跡、病院区域の土地と建物の変遷の推定



- 明治40年 県立長崎娼妓病院の建物の推定
- 明治40年 県立長崎娼妓病院の敷地の推定
- 昭和11年 長崎保健組合小島病院の敷地の推定

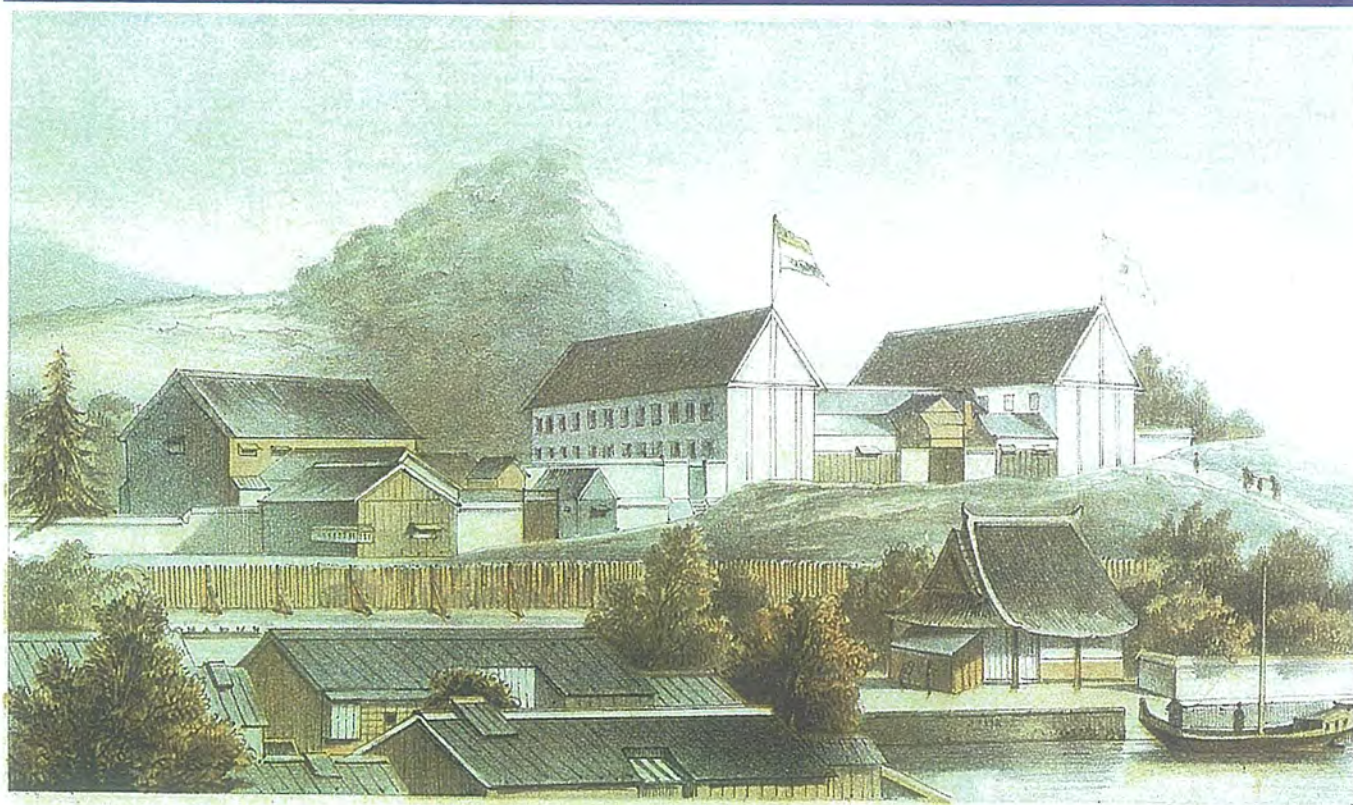
長崎(小島)養生所跡発掘調査検出遺構

養生所の病院の建物の推定
2018年(平成30年)5月31日(木曜日) 養生所跡発掘調査代表 池田和恭

ポンペは風通しのよい小高い丘にあり、水量が豊富で患者が通いやすい所を希望



日蘭の国旗はためく日本初の西洋式病院養生所は日蘭友好の象徴



RIET HOSPITAAL TE NAGASAKI.
geopend 20 Sept' 1861

旧佐古小学校校地の養生所遺跡群の歴史的価値について

長崎大学名誉教授、相川忠臣

出島に商館医として1848年に赴任したオットー G. J. モーニッケは聴診器をもたらし、種痘を普及した日本近代医学のさきがけであります。ヨーロッパと東アジアを知悉した国際医療人モーニッケの見た幕末の日本の医療は悲惨な状況でした。梅毒、天然痘、ハンセン氏病のような伝染病の予防の公衆衛生行政施策は皆無で、伝染病患者を隔離する病院もなく、国立医学校も医師国家試験もないので今後の改善は望めないと彼の報告書にあります。そのような状況を打破する日本の近代医療革命は長崎の養生所を舞台に始まりました。

1. ポンペによる近代西洋医学教育の創始と日本全国への普及

ペリー来航により幕末の対外危機が頂点に達した1855年、日本海軍の設立を目指した海軍伝習がオランダ政府の協力で長崎で開始しました。この日本とオランダ両国の国際プロジェクトは、海軍設立にとどまらず長崎製鉄所と養生所・医学所を建立し、近代科学技術と近代医学を組織的に導入するもので、日本の産業革命と医療革命の始まりでした。

1857年11月、J. L. C. ポンペ・ファン・メールデルフォールトは西役所で医学伝習を開始し、19世紀、自然科学の発達により大きく変貌した近代西洋医学を系統的に教え明治から現在へと発展する日本近代医学の礎を築きました。将軍御目見医師、松本良順の協力を得て1861年9月、医学所に併設された124ベッドの日本初の近代的西洋式病院、養生所を設立。養生所は小島佐古の丘に建てられ、屋上には日蘭友好の象徴として日本とオランダの国旗がはためいていました。養生所において、ポンペは侍・町人、日本人・西洋人の別なく治療し、医師は自分自身のものではなく病める人のものであると戒め、民主的な患者中心の医療を行い、封建社会に育った弟子達に衝撃を与えました。松本良順は万人の健康を護る衛生思想と牛乳・肉食の普及に尽力し、彼の処方した安価な薬を提供し、貧しい人々の健康を護ろうとしました。ロシア兵の為に稲佐マタロス休息所で検梅を開始、江戸根津の遊郭でも実施しました。

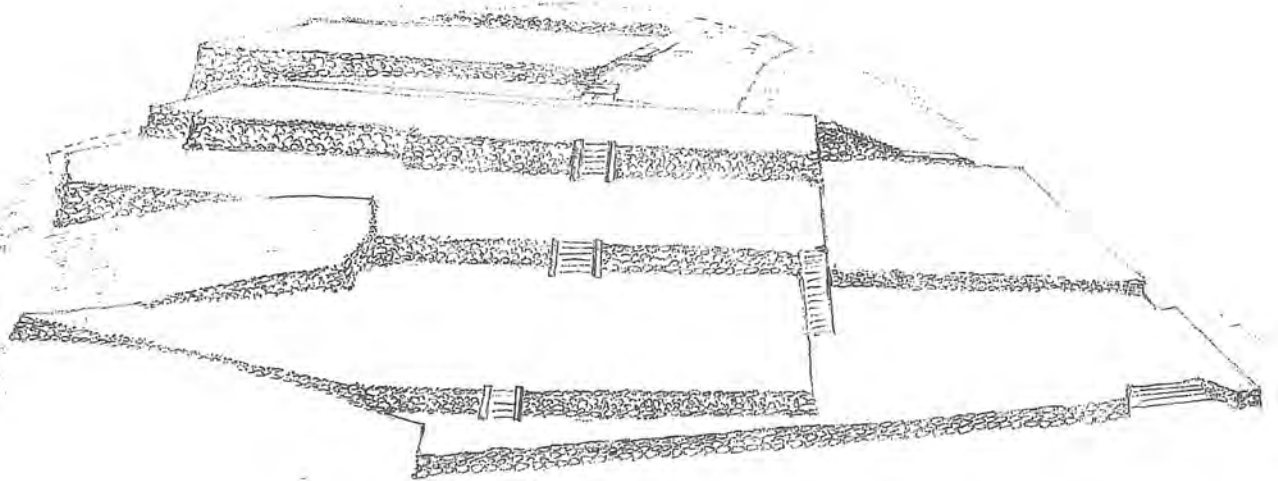
2. ボードインは最新の臓器別医学を教え、彼の弟子達は医療行政を確立。

ポンペの跡を継いだA. F. ボードインは検眼鏡、喉頭鏡をもたらし、最新の臓器別医学を教えました。聴診器出現後循環器と呼吸器の診断と治療が進歩し内科学が臓器別に進展。検眼鏡、喉頭鏡、膀胱鏡や子宮鏡のような光学機器と各器官の組織染色技術の進歩で近代的眼科学、耳鼻咽喉科、泌尿器科学、婦人科学に発展しました。このような最新の臓器別医学にとどまらずおそらく最新の医療法も彼により日本に伝えられました。養生所に分析窮理所を設置してK. W. ハラタマを招聘。ハラタマは自然科学即ち物理学、化学等を医学・医療を学ぶ前の予科として教え、養生所の調剤も担当しました。分析窮理所跡は日本

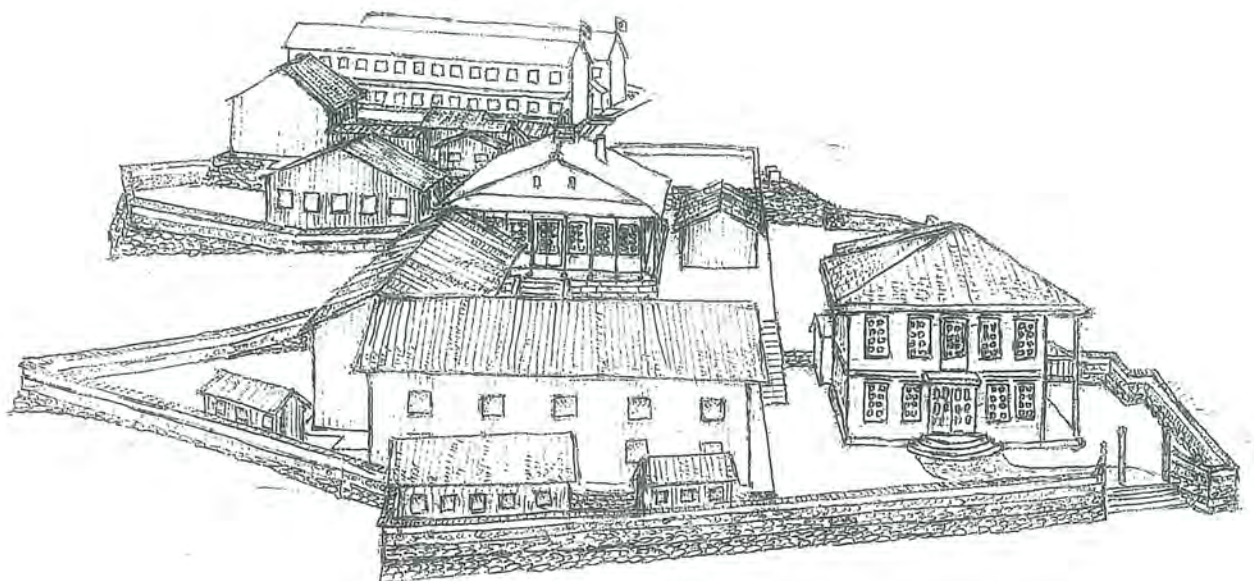
の近代的な化学、物理学と薬学の発祥の地であります。養生所は精得館と改名、明治維新後長崎医学校となりました。精得館頭取の相良知安はボードインからオランダの医療法を、大徳寺に寓居していた G. H. F. フルベッキにアメリカ憲法を学び、人民の健康を護る医療法、醫制畧則を案出しました。相良は岩佐純とともに維新政府に登用され、東京大学医学部の前身、大学東校を設立、ドイツ医学を導入しました。大学東校にはポンペの最優秀の弟子佐藤尚中を、大学南校にはフルベッキを教頭として迎え、日本の近代教育を担う大学を設立しました。近代教育もまた小島佐古の丘から発祥したのです。ハラタマは後に大坂舎蜜局を設立、ボードインは大坂医学校を緒方惟準と共に設立しています。ハラタマの後任はユトレヒト陸軍軍医学校教官で、陸軍薬剤官であった A. J. C. ヘールツです。長崎、京都、横浜で活躍、長与専斎のブレーンとして、輸入薬物を検査する司薬場や日本薬局方の成立に貢献しました。ポンペ、ボードイン、マンスフェルトに学び長崎医学校長であった長与専斎は文部省に出仕、岩倉遣欧使節団に加わり、英米独の医療を視察後、オランダで医療監理制度の実状を調査しました。長与専斎は帰国後、衛生局を創立し醫制を施行し、東アジアで初めて万人の健康を護る公衆衛生行政を開始しました。醫制はオランダの医療法と相良知安の醫制畧則を参考にして作られたと思われます。

3. 近代医学教育、近代教育、民主的な考え方、公衆衛生行政は小島佐古の丘に発祥し、日本の近代化は長崎から東アジアに波及。

丸山公園に民主国家を夢見た坂本龍馬像、唐人屋敷跡には国民国家建設を目指した孫文の像があります。長崎を訪れる東アジアの人々は、なぜ日本は先駆けて近代化できたのかを昔も今も知りたいのではないのでしょうか。日清戦争後、近代化の方策を求め、多くの東アジアのエリートが日本に留学しました。漢字交じりの日本語は蘭書翻訳に苦しむ過程で、オランダ語の影響を受け近代化し何でも翻訳できるまでに進化しました。正に和華蘭チャンポン文化の精華です。数世紀かけて物理学、化学や医学の専門用語と概念が日本語に定着したからこそ、海軍伝習後、速やかに近代科学技術や近代医学を導入できました。開国後は自然科学のみならず、政治、法学、経済、語学、思想といった人文科学分野の専門用語と概念が日本語に速やかに取り込まれました。日清戦争後、台湾と朝鮮に日本語による小学校から大学までの近代教育が定着、近代化の基盤が作られました。中国では和製漢語が近代化の手助けをしました。小島佐古の丘に発祥した近代教育、民主的な考え方と公衆衛生行政は日本全国にとどまらず、広く東アジアに普及しました。朝鮮と台湾での公衆衛生行政により人口が著しく増加しました。台湾では司馬凌海の薫陶を受けた後藤新平が民政長官として活躍しました。養生所・医学所、分析窮理所は日本ばかりでなく、アジアの国々にとっても医療の近代化の象徴です。



《中国农村扶贫开发纲要(2001-2010年)》,《中国扶贫开发论坛》,北京:中国扶贫办,2004.2.7

[illegible]

原爆被爆記録写真集

長崎

原爆被爆記録写真集

長崎 市



上空より長崎港一帯を望む（左側の湾曲した川は中島川、その側に焼けた長崎県庁が見える。ここが爆心地より約3.3kmの距離にあたる。このあたりは爆心地帯よりもかなり遅れて火災が発生した。）
〔H・J・ピーターソン氏撮影〕

Nagasaki Harbor from the sky. Nakashima River curves to the left, with the gutted ruins of Nagasaki Prefecture Office near the bank (about 3.3 kilometers from the hypocenter). Fires broke out in these neighborhoods well after the explosion of the bomb.
[photograph by H.J. Peterson]

長崎駅以南の中町、大黒町、元船町、五島町一帯を望む（中央のせん塔は中町天主堂。）
 (小川虎彦氏撮影)

View of the neighborhoods of Naka machi, Daikoku machi, Motofuna machi and Goto machi south of Nagasaki Railroad Station. The steeple of Nakamachi Church is visible in the center.
 [photograph by Torahiko Ogawa]



8月下旬頃の長崎駅前の様子（長崎駅は爆心地より南約2.4kmの距離にあり、爆風で破壊され、その後の火災により全焼した。）
 (小川虎彦氏撮影)

Nagasaki Railroad Station in late August 1945. Located about 2.4 kilometers south of the hypocenter, the building had been demolished by the blast and then consumed by the subsequent fires.
 [photograph by Torahiko Ogawa]

101

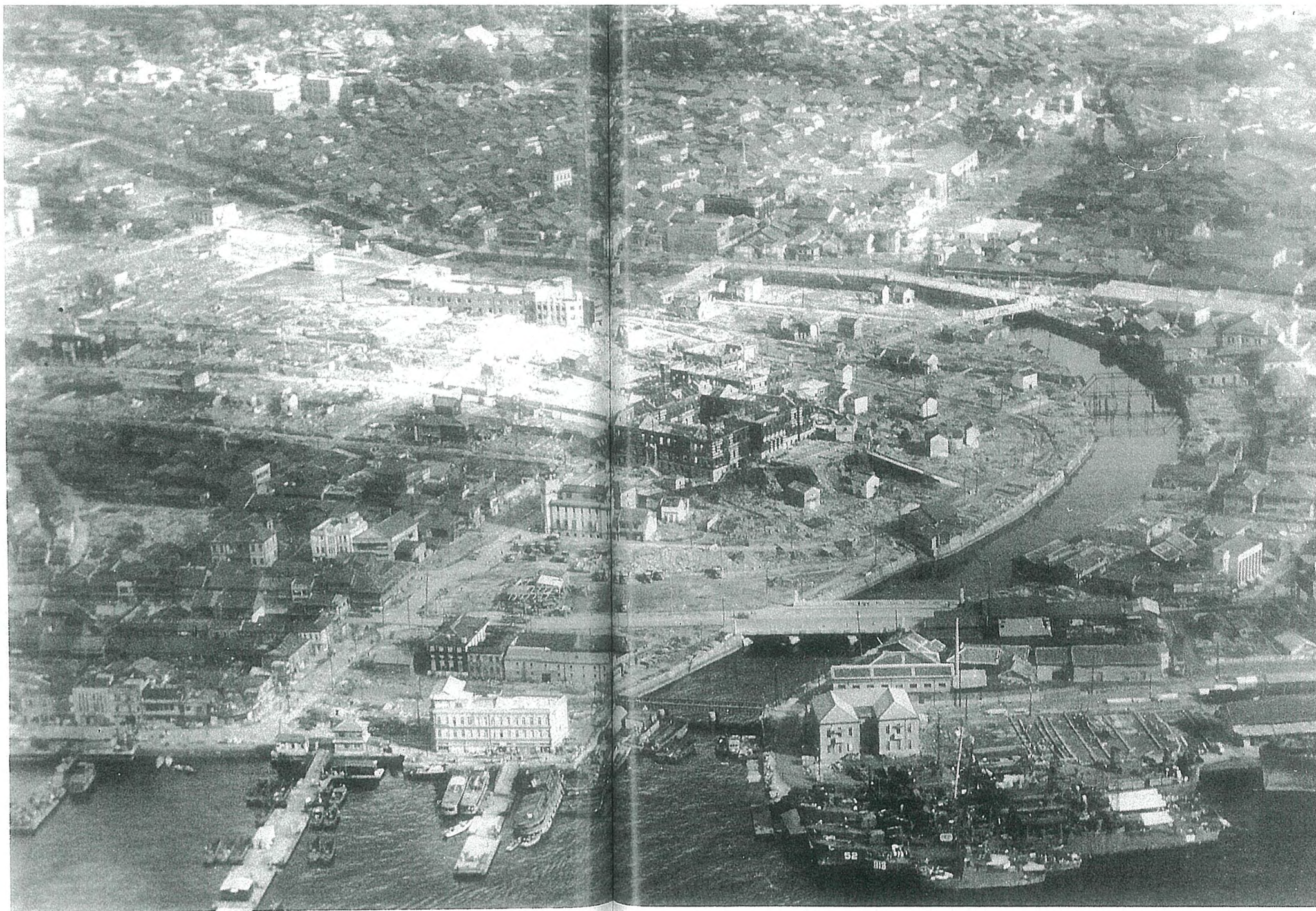


長崎駅前の高台より南東方面を望む（中央のせん塔は中町天主堂、遠方左側高台の建物は長崎市役所、右側高台の建物が新興英国民学校。）
 (小川虎彦氏撮影)

View from the hillside near Nagasaki Railroad Station looking southeast. The steeple of Nakamachi Church is visible, with Nagasaki City Hall on the left and Shinkosen Primary School on the right. [photograph by Torahiko Ogawa]

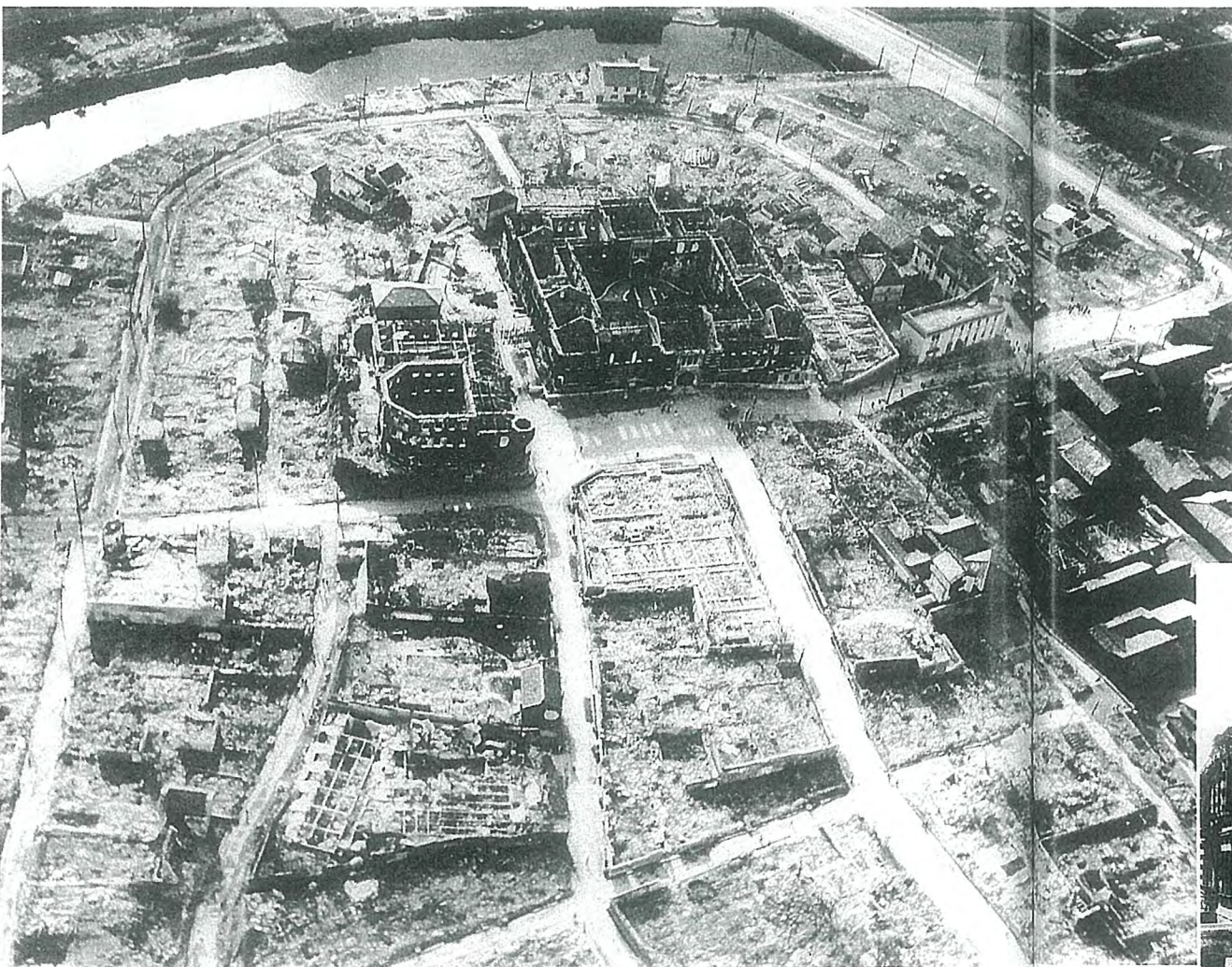
102

103



長崎港上空より長崎県庁を中心とした市街地を望む（中央が爆心地より南南東約3.4kmの長崎県庁。
この付近が火災による焼失地の南限である。）
〈H・J・ピーターソン氏撮影〉

View from the sky over Nagasaki Harbor looking toward Nagasaki Prefecture Office and downtown Nagasaki.
Located about 3.4 kilometers south southeast of the hypocenter, the Nagasaki Prefecture Office marked the
southern boundary of the fires.
[photograph by H.J. Peterson]



長崎市役所方面上空より長崎県庁を中心とした市街地を望む（中央の四角い建物が県庁本館。左側が議事堂。）
 〈H・J・ピーターソン氏撮影〉

View from the sky over the Nagasaki City Hall area looking toward the vicinity of Nagasaki Prefecture Office. The buildings in the center and left of center are the Nagasaki Prefecture Office and Assembly Hall, respectively.
 [photograph by H.J. Peterson]



骨格だけが残った長崎県庁（風格あるルネサンス様式煉瓦造り石壁の建物であったが、熱線により中央ドームの屋根裏から発火。大火となって全焼した。）
 〈小川虎彦氏撮影〉

Gutted ruins of Nagasaki Prefecture Office. An imposing Renaissance style brick building with stone walls before the atomic bombing, the office was destroyed by the fire that broke out under the roof of the main dome as a result of exposure to the heat rays.
 [photograph by Torahiko Ogawa]



長崎市役所東側の市街地を望む（残った白壁の建物は民家の土蔵。）
（三菱重工業長崎造船所提供・森末太郎氏撮影）

Neighborhoods to the east of Nagasaki City Hall. The intact white structures are the earthen storehouses of private homes. [photograph by Suetaro Mori, courtesy of Mitsubishi Heavy Industries Nagasaki Shipyard]



大村町（現在の芳町）の長崎新聞社付近（石柱に「立ち入るべからず 長崎新聞社」の木札が見える。）
（小川虎彦氏撮影）

Vicinity of Nagasaki Newspaper Co. in Omura machi (present day Manzai machi). The stone pillar has a sign saying "No Entry, Nagasaki Newspaper Co." [photograph by Torahiko Ogawa]



湯町方面から今下町、本橋町（現在の鴨町、万才町）方面を望む（石垣の上の樹木は当時の【坂の上の天満宮】の大クス。現在の長崎地方裁判所の場所。）（三菱重工業長崎造船所提供・森末太郎氏撮影）

View from Tsuki machi looking toward Imashita machi and Motohakata machi (present day Nigiwai machi and Manzai machi). The tree above the cliff is the giant camphor in the former Saka no Ue Shinto Shrine, site of present day Nagasaki District Court. [photograph by Suetaro Mori, courtesy of Mitsubishi Heavy Industries Nagasaki Shipyard]



配給された食糧の袋を肩に家路を急ぐ少女たち。〈松本栄一氏撮影〉

Two young women walk home carrying bags of rationed food.
[photograph by Eiichi Matsumoto]



遺骨を胸に聖霊祭に急ぐ婦人。〈松本栄一氏撮影〉

A woman walks to a memorial service carrying the ashes of a dead relative.
[photograph by Eiichi Matsumoto]



家財道具を運ぶ人々（現在の西坂町付近）。〈松本栄一氏撮影〉

Citizens transport their belongings near present day Nishizaka machi.
[photograph by Eiichi Matsumoto]

原爆被爆記録写真集

発行日 平成8年3月25日

監修 荒木正人

翻訳 ブライアン・パークガフニ

発行 長崎国際文化会館

〒852 長崎市平野町7-8

☎ (0958) 44-1231

印刷 株式会社 藤木博英社

米国国立公文書館所蔵未公開写真

米軍撮影

長崎被爆荒野

被爆70周年に問う「戦争と平和」



9784888512428



1920031030007

ISBN978-4-88851-242-8
C0031 ¥3000E

定価3,000円(税別)

米軍撮影

長崎被爆荒野

被爆70周年に問う「戦争と平和」

米軍撮影

長崎被爆荒野

被爆70周年に問う「戦争と平和」

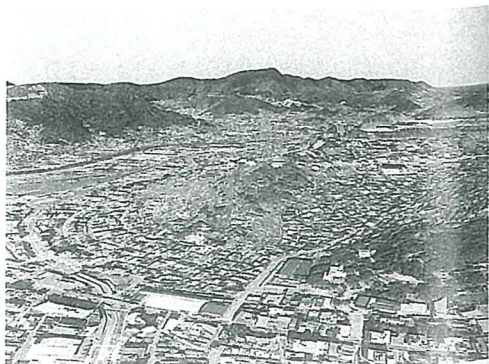
社

長崎文献社



焼け落ちた長崎駅周辺と中町の防火線

爆風によって生じた火災により、大火となって長崎駅（写真中央左）も焼け落ちたが、現在の中町公園周辺の町より北東部は建物疎開による防火線が類焼を食い止めた。手前に見える町並は類焼していない。岩原川（写真左端）沿いの黒町と恵美須町、道路をまたいだ西中町天主堂一帯は類焼によって焼失した。



現在の中町方面一帯

昭和三十九年十一月 提供 (6) 以下同じ



長崎駅前の電車通りと西坂地区

電柱に貼られた東亜劇場の広告が目に入る。浦上方面（左）へ向かう人びとは荷物を一様に背負っている。右鉄柱のうしろに本蓮寺の墓所が見えるが、寺の建物は全壊して見えない。



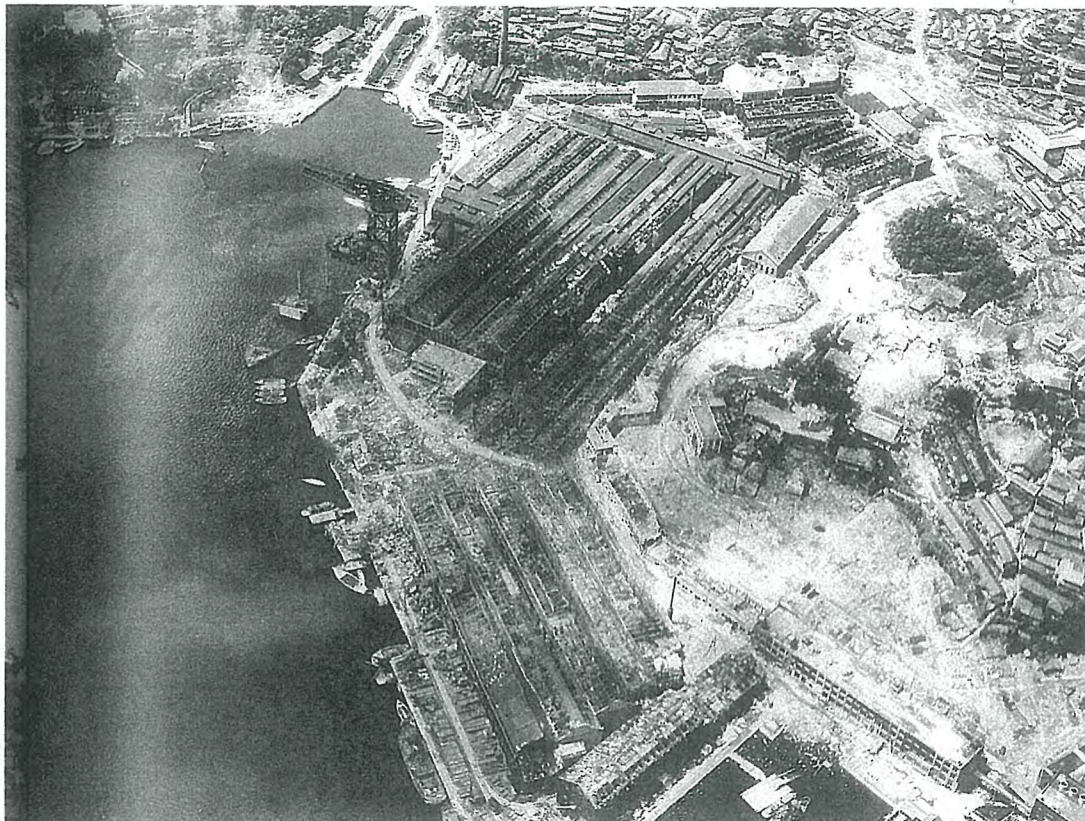
現在の長崎駅前 (6)



長崎港上空

No. A3588 撮影日 1945 9/5

画面下部の稲佐一帯は建物が健在であるのに対して、対岸の長崎駅周辺は壊滅状態である。これは原爆による火災が延焼して焼き尽くした結果である。長崎駅の左上にはNHK長崎放送局のアンテナ2基が直立しているのが見える。



飽の浦上空

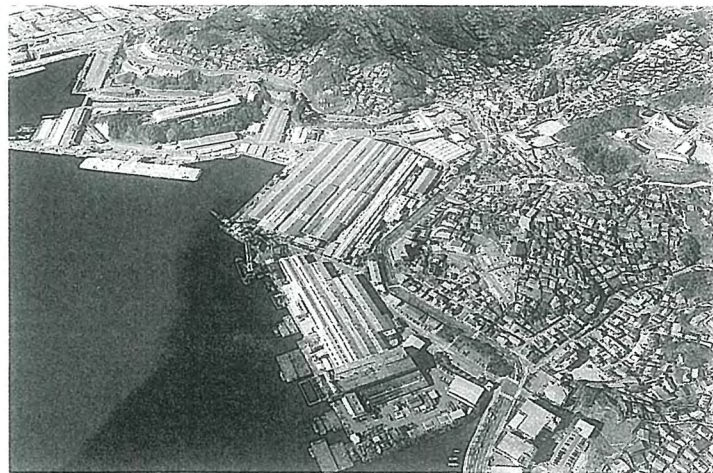
No. A3639 撮影日 1945 9/5

三菱長崎造船所を主とした長崎の心臓部である。こちらは原爆の被害よりも8月1日の空襲が甚大な被害であった。



現在の長崎港上空 (㉓)

画面中央を縦に流れている岩原川の脇に、旭大橋が開通し、稲佐側との往来が幾分便利になった。



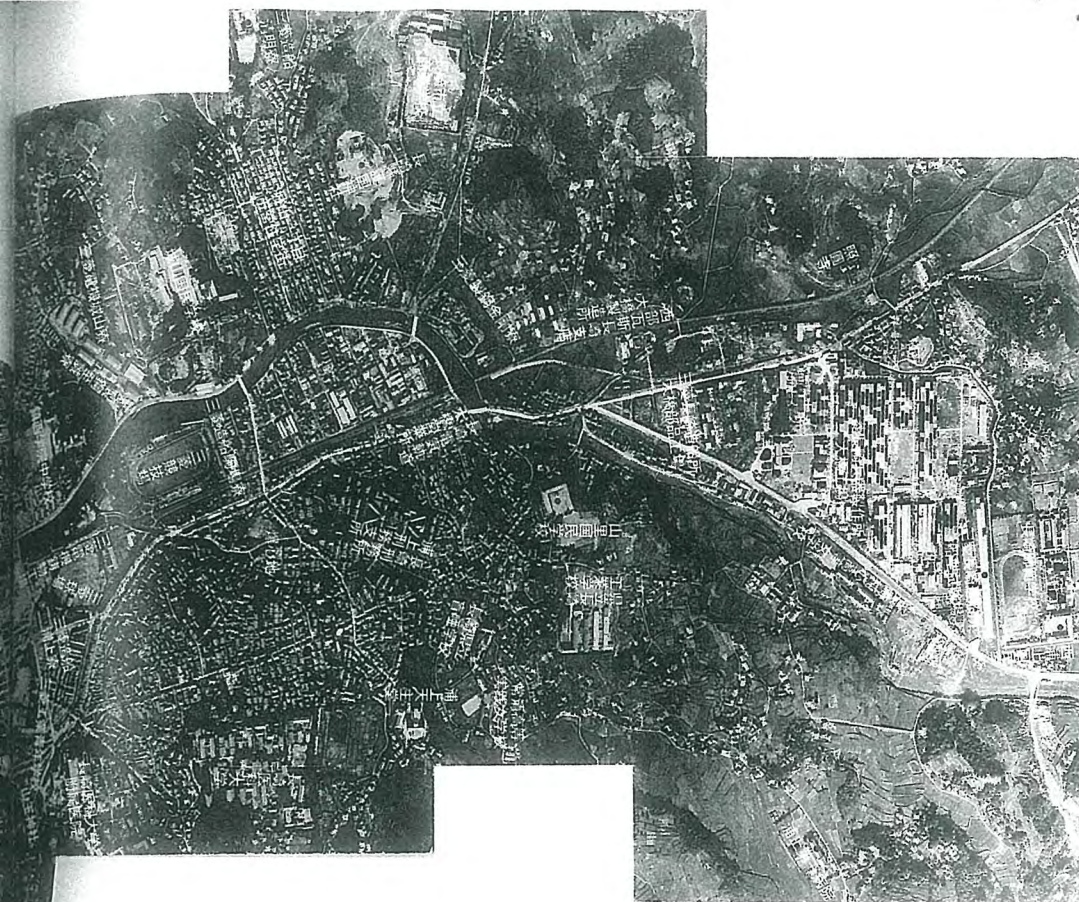
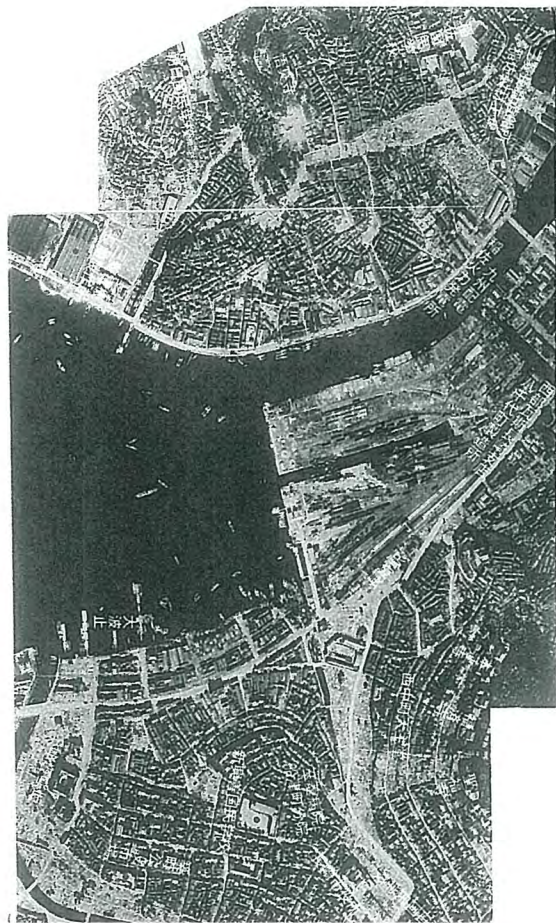
現在の飽の浦上空 (㉔)

原爆投下前の長崎市の航空写真

米軍の偵察機が撮影した上空からの長崎市。浦上川の沿岸に長崎製鋼所をはじめ、三菱の工場群が建ち並び日本でも有数の産業地帯であった。

ほとんどの軍需工場が撮られている。嵐の前の静けさと言うべきか。

(施設の位置を示す赤丸と名称は編集部が入力した)



昭和20年当時の市街地図「五万分一地形圖長崎四號」

(出典：国土地理院)

原爆投下後の長崎市の航空写真

米軍は投下直後に被害の全様を記録するため、航空写真を撮影している。GROUND ZEROを基点に爆心からの距離を正確に把握している。この合成図ではズレが生じているが、これは複数枚作製していることを意味する。この段階ではまだ爆心地の特定に誤差があったようである。

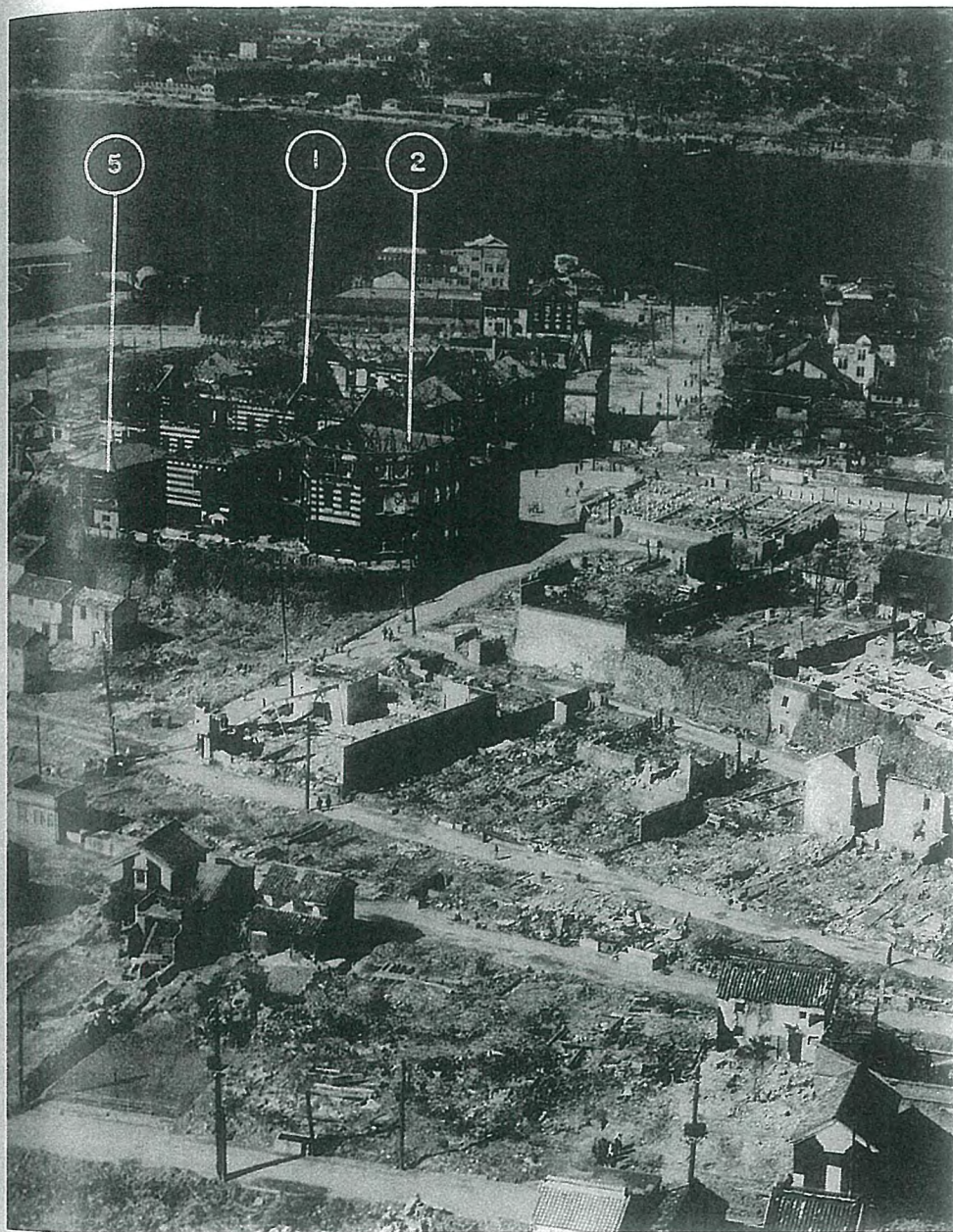


位置関係を示すため、同心円と距離が米軍によって書き込まれている。
この図や記録写真ではフィートが単位として使用されている (1000フィート=304.8メートル)。

現在の長崎市全景 (C)

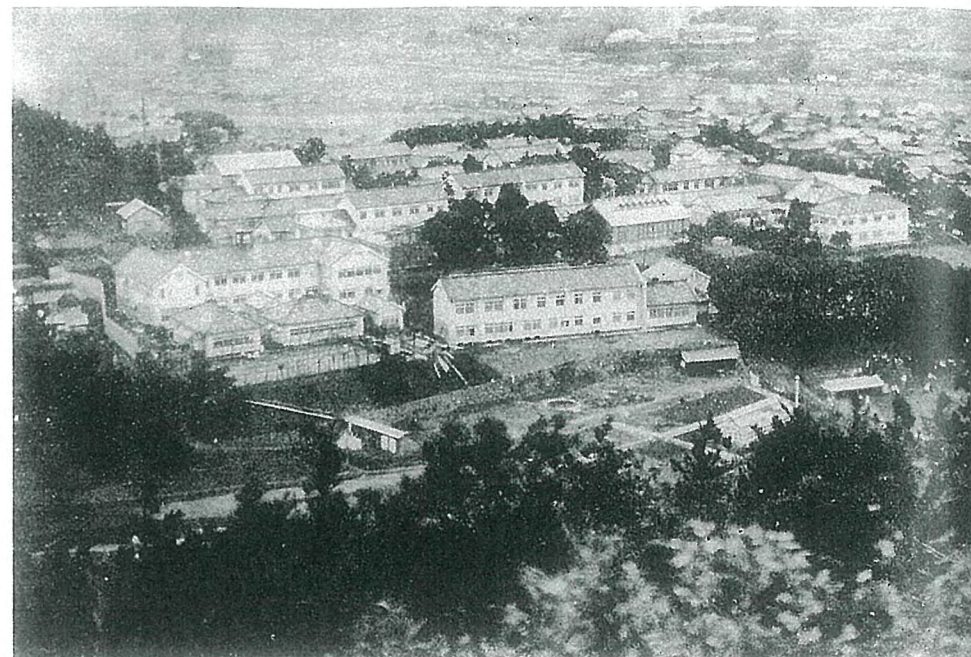
70年の歳月を経て当時の様子を、感じさせない程に復興を遂げている。長崎港には巨大な女神大橋が横切り、都市の形態も大きく様変わりした。爆心地一帯は公園として保存され、折りの場となっている。





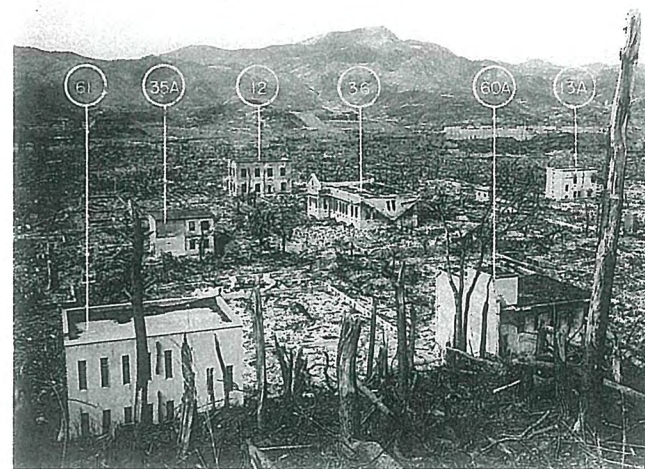
焼失した長崎県庁

写真の番号①、②、⑤が県庁舎。原爆が投下された直後に火災は発生しなかったが、1時間後に煙が立ち上って炎上した。職員
の避難などで消火に失敗すると結果的に全焼してしまった。



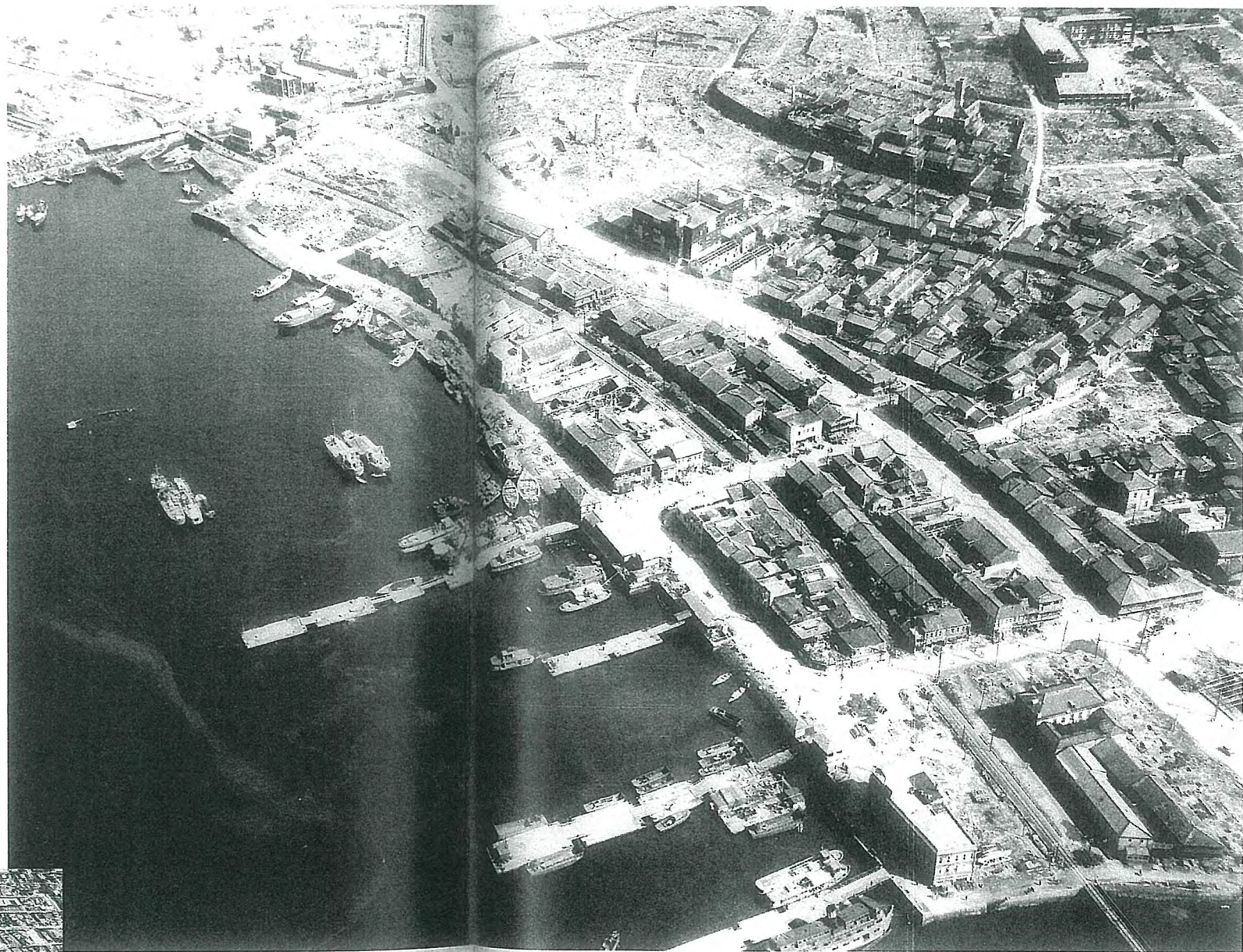
被爆前の長崎医科大学

1923年4月に開設された木造建築の大学。学内では解剖学、病理学、法医学、細菌学、衛生学、薬理学、生化学、生理学といっ
たものが基礎学教室で受講できた。また、附属の医学専門部と薬学専門部もあり、充実していた。



破砕された長崎医科大学

写真右奥から解剖学教室の物置
(13A)、中央に衛生学教室(36)、病理
学教室講堂(12)、本館倉庫(35A)、
手前右から図書館(60A)、図書館書
庫(61)である。被爆後、瞬時に倒壊
して炎上した。講義中の教授と生徒
は大半が爆死した状態で発見されて
いる。全滅に近かった。



大波止上空

当時も連絡船が行き交っていたが、爆風で被害が出ている。長崎駅方面の火災は大黒町、五島町へと深夜までに燃え広がり樺島町へも迫ったが、市民総出（おもに九州配電社員60名）の消火作業で、延焼は喰い止めた。右上の新興善国民学校周辺も長崎県庁からの出火によって焼けている。右下の棧橋横に昭和閣（現在消滅）の旅館がある。横を通る線路は貨客などを運搬する臨港線で、上海航路にも関わっていた。1982年まで存続し、現在は一部が廃線跡として残っている。

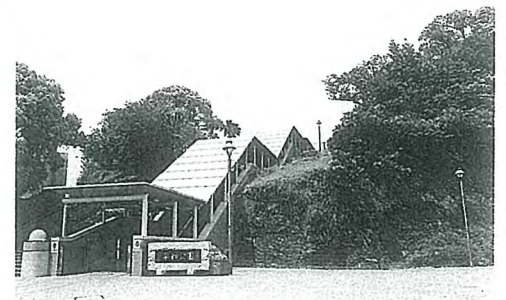


現在の太波止一帯 (㉔)

長崎の玄関口として観光客を出迎えている。右端に見える県庁は移転することが決まり、太波止の上を埋め立てて新庁舎の建設を開始している。

松山防空壕

浦上刑務支所の丘にある南側防空壕として存在した。当日も多くの人々が空襲警報の発令と共に逃げ込んでいたが、不幸にも爆心地方面を向いていたために、激しい爆風と熱線が壕内の人々を殺戮した。当日、松山町内に居て生き残った者は僅かに少女1名のみという、恐るべきものであった。



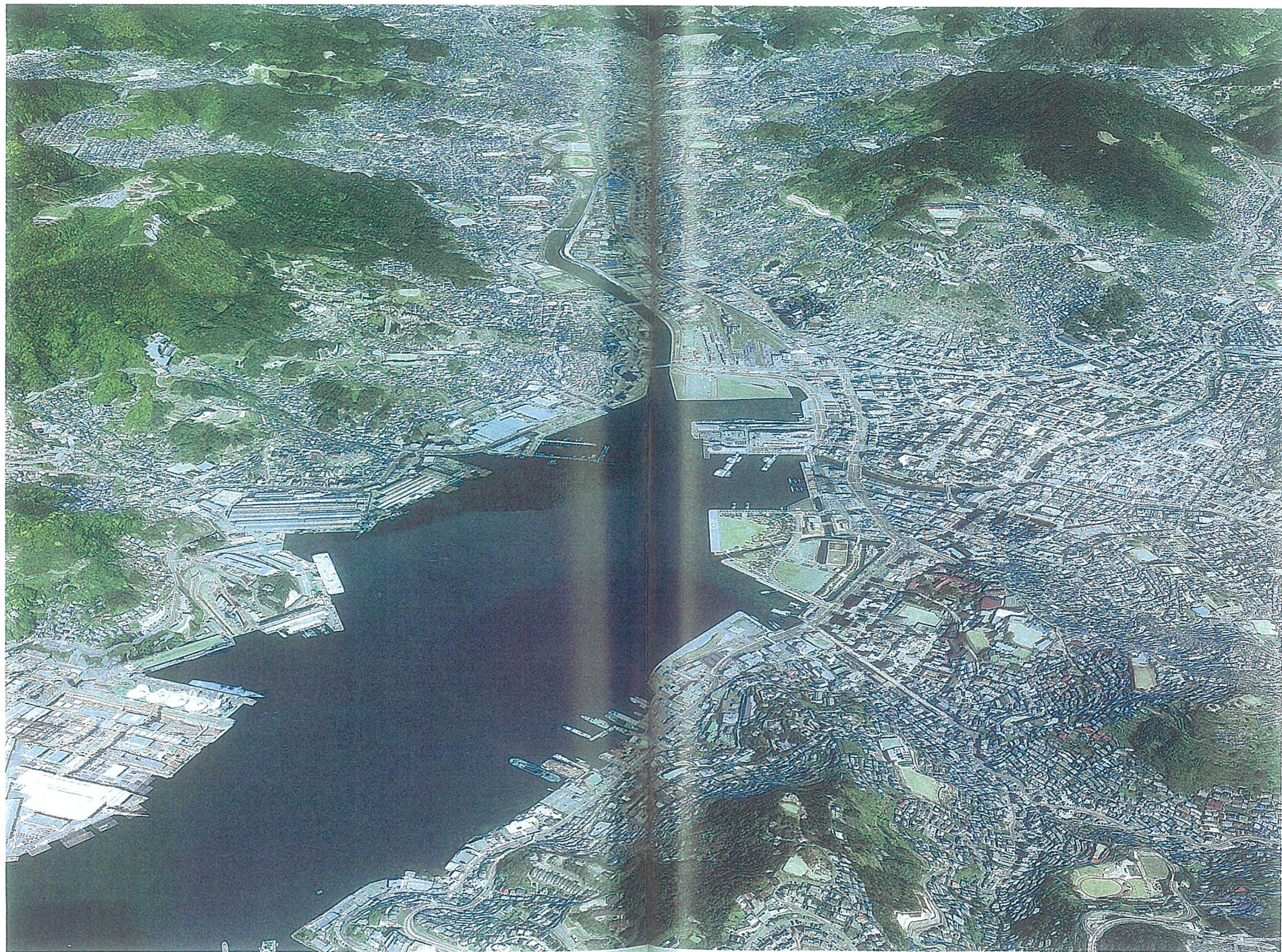
現在の松山防空壕跡（現平和公園）⁽⁴⁾

松山平和公園の階段脇に現在でも3つを見ることができる。2011年のエスカレーター設置工事の際に4つが再び発見された。遺構として残されることになったが、ひとつは消滅してしまった。

B-60617 A.C. - Nagasaki Shelters. Tunnel shelters in a hillside very close to ground zero, protected the few occupants from blast, heat, and radiation.

日本語訳

長崎の防空壕群である。爆心地にとても近い丘側のトンネル型防空壕であり、僅かな住民を爆風、熱線、放射線から守った。



現在の長崎市上空 ㊦

山と海に囲まれた長崎市。風光明媚な観光都市が70年前は悲劇の舞台であった。地には所狭しと家々が、港湾には造船所の建物が立ち並ぶ今日の景色である。

編集協力／長崎原爆資料館

(公財)長崎平和推進協会写真資料調査部会長 深堀好敏

翻訳校閲／ブライアン・パークガフニ

情報提供／橋口行夫

写真撮影／松尾順造 石司隆一

写真提供／長崎原爆資料館 長崎市広報広聴課 扇精光ソリューションズ株式会社

参考文献

- アルバム長崎百年 戦中戦後編 (荒木正人、長崎文献社、1986年)
原爆被爆記録写真集 (長崎原爆資料館、財団法人 長崎平和推進協会、1996年)
長崎原爆被災誌 第一巻総説編改訂版 (長崎市役所、2006年)
長崎原爆被災誌 第二巻地域編 (長崎市役所、1979年)
長崎原爆に関する資料集・第1集「米国戦略爆撃調査団報告」―資料解題と概要― (長崎「原爆問題」研究普及協議会、1980年)
原爆五十周年記念誌 (三菱重工業長崎原爆供養塔奉賛会、浜松祐夫、1995年)
創立五十周年記念誌 (創立五十周年記念誌編集委員会、長崎県立長崎工業高等学校・長崎県立長崎工業高等学校育友会・長崎県立長崎工業高等学校同窓会、1988年)
長崎商業百年史 (長崎市立長崎商業百年史編集委員会、長崎市立長崎商業高等学校、1985年)
純女学徒隊殉難の記録 (純心女子学園、1961年)
閃光の下から 城山国民学校の被爆記録 [復刻版] (林成郎、朝日ソノラマ、1995年)
原爆先生 ナガサキに生きる (江頭千代子、葦書房、1993年)
五万分一地形図長崎四號 (内務省地理調査所、1947年)
長崎游学シリーズ10「史料館」に見る産業遺産 三菱重工長崎造船所のすべて (長崎文献社、2015年)

——米軍撮影——

長崎被爆荒野

被爆70周年に問う「戦争と平和」

発行日	2015年(平成27)7月30日 初版第一刷
編著	長崎文献社
発行人	柴田 義孝
編集人	堀 憲昭
発行所	株式会社 長崎文献社 〒850-0057 長崎市大黒町3-1 長崎交通産業ビル5階 TEL 095 (823) 5247 FAX 095 (823) 5252 HP http://www.e-bunken.com
印刷所	大同印刷株式会社
ISBN978-4-88851-242-8 C0031 © Nagasaki Bunkensha, Printed in Japan ◇禁断転載・複写 ◇定価は表紙に表示しています。 ◇落丁・乱丁の本は発行所にお送りください。送料当方負担でお取替えます。	

日本人気質

－ 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より －

2018年(平成30年)7月16日 月曜日 (祝日) 養生所を考える会 代表 池知和恭

2016年(平成28年)11月12日 土曜日の日本経済新聞 朝刊 42面 社会面で
日本人気質について、下記、報じています。
私達に、思い当たるところは、ないでしょうか？

日本経済新聞

2016年(平成28年)11月12日(土曜日)

☆13版 社会 42

憲法と私

公布から70年

私自身は憲法に不便を感じたことはありません。憲法によって基本的人権が尊重され、極端な格差のない社会が維持されたのは素晴らしいことです。なし崩しの解釈改憲は危ういと感じますが、何事も社会の変化に応じた見直しは当然、必要と思います。集団的自衛権を認める安全保障関連法の議論では、憲法違反かどうかが焦点になりました。賛成派、反対派ともに

脳科学者 中野 信子さん(41)



なかの・のぶこ 東京都出身。東大工学部卒業後、東大大学院で医学博士。フランス国立研究所の研究員を経て、東日本国際大学教授に就任。

日本人気質、理解し議論を

立場を共有する人のみの思考の人は失望と落胆を感じた空間が作られ、考えが異なる人との意見を交わすこと自体が糾弾されかねない雰囲気が生じました。建設的な議論が、よそ者や逸脱者を排除し、必要なのに、内容よりも立場が優先されがちな状況に、多

くの人々は失望と落胆を感じたのではないだろうか。脳内物質の特性からみる日本人気質の人も多数派です。集団になると、他人の顔色をうかがうあまり異論を言えなくなったり、逆に主張の強い人に引きずられて極端に過激になったりする現象が知られています。私たちのような特徴を持った共同体では特にこうした現象が強く起こります。その結果、誰にも望ましくない政治決定がなされてしまふ事態を危惧しています。改憲議論を始める時、まず私たち自身が自らの弱点をよく知らねばなりません。それが最重要の課題だと思います。

ディープフェイク Deepfake

ー 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より ー

2018年(平成30年)7月20日 金曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

13 企業3 12版

日本経済新聞

2018年(平成30年)7月20日(金曜日)



What Obama Says in This Video

偽動画の一つ。一見オバマ氏の演説だが、音声や表情はコメディアン⑥のものを合成

データの世紀
本物と見分けがつかないほど巧妙な偽動画を作る技術「ディープフェイク」が注目を集めている。映画製作などで使われ始めたが、技術の進歩で専門家でなくとも低コストで使えるようになった。特定の政治家の偽の演説動画など悪質なフェイクニュースに利用され民主主義を脅かす危険につながることも指摘される。(一面参照)

プロ並み偽動画

となるのが人工知能(AI)だ。まず有名人や政治家など狙いをつけた人物の映像と音声データを集め、AIに学習させる。他の人物が話す映像を学習に生かし、画像のずれを補正しながら、本物のデータからAIが自動で自然な偽動画を合成していく。実際は本人が一言も発していない内容も、偽動画の中で雄弁に語らせることができる。4月には米ニュースサイトが「このビデオでオバマ(元米大統領)が話していることは信じられないだろう」という動画を作

低コストで量産、個人でも

り、話題になった。一見するとオバマ氏の演説動画だが、音声や表情は別人のコメディアン⑥のもの。偽動画の巧妙さに注意するよう呼びかけるために作られた。本物らしくするポイントのひとつが口の動きだ。大きく開いたり閉じたりする動きと、音声をうまく重ねると自然さが増す。高度な動画合成は従来、プロの映像制作会社が費用をかけて初めて可能だった。現在は公開されたAIモデルを理解できる知識さえあれば個人でも自宅の作業で作れてしまうという。こうした偽動画は、どんどん増える可能性もある。米ニュースサイトの動画では、偽のオバマ氏がこうも警告する。「敵が勝手に、誰かが実際に何かを話していたかのように偽装できる時代になった」

阿部哲也、西岡貴司、川合智之、植松正史、中西豊紀、兼松雄一郎、栗原健太、平本信敬、伴正春、寺井浩介、三隅勇気、多田俊輔、張勇祥が担当しました。

.....“偽動画”.....

.....偽のオバマ氏がこうも警告する。

「敵が勝手に、誰かが実際に何かを話していたかのように偽装できる時代になった」

日本経済新聞

7月20日

金曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 電話(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 電話(06)7639-7111
名古屋支社 電話(052)243-3311
西部支社 電話(092)473-3300
札幌支社 電話(011)261-3211

データの世紀

「私」が奪われる 5

不法移民問題で揺れる米
国。6月、ネット空間で論争
が巻き起こった。

37万「いいね！」

「この残酷な行為に黙って
いては駄目」。SNS(交流
サイト)に著名歌手のジェニ
ファー・ロペスさんが画像を
投稿すると、即座に37万件も
の「いいね！」がついた。

写っていたのは泣きじゃく
る移民の女の子。トランプ政
権の取り締まりで、親と引き
離された悲劇の象徴として拡
散した。だが後に父親と名乗
る人物が否定、メディアも一
斉にフェイク情報と報じる。
実際に一家離散した移民は多
いが、女の子の画像は世論分
断に拍車をかけただけだっ
た。

大量のデータが行き交う
「データエコノミー」には偽
情報が入り交じる。「情報汚
染」が広がり続ければ、ネッ
トを使った情報システムその
ものがどこかで機能しなくな
る。現実との境目を脅かす技
術も現れた。

「ベルギー国民よ、偽善を
やめてパリ協定から離脱せ
よ」。5月、ベルギーの社会
主義政党sp.aがトランプ
氏の演説動画を投稿した。断
定調で地球温暖化防止の国際

飛び交うフェイク 情報汚染、代償は重く

枠組みから離脱を訴える。扇
情的なスタイルはいつも通
り。だが心なしか口元がぼや
けている。



トランプ米大統領のニセ動画
はパリ協定からの離脱を呼び
かけた(ベルギーの社会主義
政党のホームページ)

「トランプ」を偽善者だ
！。SNS上はさまざま反
対コメントであふれた。これ
に慌てたのがsp.aだ。「い
やこれはフェイク動画で、冗
談なんです」

公開された人工知能(AI)
モデルに、動画と音声データ
を学習させていくだけで自然
な偽動画が作れてしまう。ポ
ルノ向けに使われ始めた技術
だが、政治にも悪用される恐
れが出てきた。

自動生成された偽ニュース
や偽口コミも広がる。米シン
クタンクCDTの調査では、
最先端の自動分析技術を使っ
ても憎悪表現などの問題投稿
は全体の8割しか排除できな
い。真偽はなお人の目で見極
めるしかない。

偽ニュースの舞台となった
フェイスブック。2018年
中に監視要員を2万人に増や
す。17年12月期の営業利益2
兆3千億円。社員数10倍以上
のトヨタ自動車に迫る利益を

「検閲を義務付ければ、我
々は中国と何が違うのか」。
米スタンフォード大のハーバ
ート・リン上級研究員は嘆く。
「フェイクは創作と紙一重。
表現の自由を保障する米国で
規制は困難だ」。データの世
紀は世界に重い課題を突きつ
ける。(関連記事13面に)

電子版
迫るニセ動画量産時代
▼トップ・ピックアップ一瞥データの世紀

2018年(平成30年)7月20日 金曜日の日本経済新聞の朝刊の一面記事『データの世紀 「私」が奪われる5 一飛び交うフェイク
情報汚染、代償は重く』は、現代のネット空間では、データという性格と高い技術を背景として、言語・画像・動画・物語、あらゆる情
報が変形されて即ち偽情報であり汚染された状態である可能性が増幅されつつある現状とそこから生ずる懸念を報じています。

- ・歴史学は文字を素材とし言語を手段とし、且つ、蓄積され認められた方法を媒体として人類の過去を知ることであるとされます。人類の記憶と概念と言語は、人々の努力にもかかわらず完全に人々の誤謬と恣意性を排除することは不可能で、直接に人類の過去であることはできません。
- ・遺跡は人類の活動の痕跡と云われ、人類の概念の結果の一部である物体及びその状態であり、様々な理由により歴史上において人々の評価から脱落し忘れられたものが再発見されたものであり、原則として存在に概念と言語を断絶し、その意味で、人々の誤謬と恣意性が排除され、部分的なものであるとはいえ、まさしく遺跡であると確認されることを前提として、人類にとって、本質的に、その場との事象に附随する特異性と多様性に立脚する、唯一絶対的で直接的、且つ、具体的な人類の歴史上の事実です。
- ・歴史学は時々の概念と言語の限界に規定される限界があり、物体の存在はそれだけでは広く人類の過去を理解する事ができません。
- ・私達は、人類が、人類の過去を知り、現代と未来に活かすために、歴史学等人文科学において言語によって蓄積された知の体系と遺跡の存在は車の両輪であり、相互に扶助し合う、双方共に、必要不可欠な存在であると考えます。
- ・長崎市は、養生所/(長崎)医学校等遺跡の取扱いに於いて、当該地が当該遺跡であると歴史上知見と地上遺構より容易に知り得る
処又審査の後に「遺跡発見の通知」を県教育長に発出の直後、遺跡の要素として第一に評価の対象となる遺跡の大きさについて、遺
跡内の旧長崎市立佐古小学校舎等施設の解体によって、遺跡の建物の敷地としてほぼ完全な大きさとその遺構を遺存し遺跡の主題
の時代の人類の活動に係る遺跡固有の空間の大きさを完存し、一部に遺跡の時代以降に為された欠損もあるが、同時に広く人々に
遺跡の存在としての重要性を認知される処、市長以下意図的措置を決定し、遺跡の遺跡としての実態を大幅に壊滅的に破壊し、即ち、
遺跡としての空間と遺構を破壊し、遺構の位置を動かし是にレプリカを作成して連結し、又、極一部の遺構を選択的に現状保存してそ
の内一部を展示するとし、即ち、歴史上の事実としての遺跡及び遺跡の遺跡としての存在を破壊し、現在の長崎市の理事者の概念に
基づく記号即ち一種の言語に変換し、即ち、歴史上事実の変形をよとして、公共工事で遺跡破壊となる開発行為である、計画調整過
程で過去に長崎市と地域居住者によって用地検討された経緯のある複数の建設用地を現在でも有する新設統合校である現在旧長崎
市立仁田小学校で開学中の長崎市立仁田佐古小学校の旧佐古小校地を用地とする校舎等施設新築建設計画及び長崎市と地域居
住者に当該校建設の条件又は付帯事項と共通認識されている旧佐古小校地即ち遺跡の建物敷地と境界線遺構即ち大きさを破壊削
減して行う小学校用途を目的とせず自動車交通上の当面の直接受益者が極少の当該外周道路/路地拡幅建設計画を進めています。
- ・本来の養生所/(長崎)医学校等遺跡は正しく主題に対する歴史上の事実ですが、当該遺跡は、長崎市の取扱いによって、長崎市の
当代の理事者の意図的措置の痕跡としての遺跡、即ち、名実共に、新しい“平成31年長崎市理事者遺跡”又は作品へと変形されます。
私達は、この実態を“養生所/精得館遺跡”“長崎医学校/梅毒病院遺跡”等と呼称するならば遺跡としての実態と異なる、と認識します。

事実と情報の変形、偽情報が横溢する現代と未来、このような事態に、私達はどうか対処するのか、私達の欲する処は何か。需要は何か。
私達の日常で日々当たり前のように行われるささやかな事実や情報の変形、心当たりはありませんか。私達にはこのようなささやかな
事実や情報の変形を拒みそのように行動することができそうではありませんか。私達が私達の目前で当たり前のように行われるささや
かな事実や情報の変形を拒みそのように行動し続けることが、少しでも他の事実や情報の変形を少なくすると期待したいものです。

私達は、長崎市に、養生所/(長崎)医学校等遺跡の取扱いについて、「意図的措置」であり遺跡破壊である開発計画と行為を取消し、
当該遺跡の遺跡としての存在、即ち、当該地に固有の歴史上の事実、人類の存在と歩みの確かな事実、人類の多様性を表象する事
実、地球の空間上の具体的な存在、を「その一部でも損壊や滅失によって失われること」なく即ち現状保存し、既に破壊した遺跡の要
素は次善の策として原状回復してそのことを掲示して人々に明らかにし、人類の現在と未来の為に活用することを要望します。

19世紀前半、西洋社会では自然科学が著しく発展しました。

一方、中国など東洋での古代よりの社会にも、近代西洋の自然科学に劣らない観察がありそうです。

その一端が、漢字の造形に顕われて、継承されているようです。

忙しい日々を送る私達の現代、さまざまな物事が変化してゆく現代

私達は、今、もう一度、変わるべきもの、変わるべきでないもの、を考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

日本経済新聞

2018年(平成30年)7月29日(日曜日)

文化 32

遊遊漢字学

現代の「脳」科学に通じる発想

阿辻哲次

人の頭蓋骨は、生まれた時にはたくさん
のパーツにわかれていて、それが成長
とともにくっついて、前頭骨や頭頂骨、
側頭骨などになり、こつて頭がだんだ
ん大きくなっていくのだそうだ。

すっかり固くなった大人の頭では、か
たい骨でおおわれている部分をさわって
も、そこがもともとたくさん部分に分
かれていたなどはまったく思えない。
しかし生まれたばかりの赤ん坊の頭は、
さわるのもこわいほどホニャホニャとや
わらかい状態になっているが、それは頭
蓋骨を構成するパーツがまだまとまっ
ていないかららしい。

特に頭頂部、てっぺんの部分が固まっ
ておらず、まだつながっていない骨の境
目の部分には、心臓の動きにあわせてひ
くひくと動く部分がある。医学用語では
「泉門」というそうだが、「ひよひよと
おどるように動く」ことから、その部分
を日本語で「ひよめき」とか「おどろこ」
といい、それを漢字では《囟》(シンと
読む)で表す。

「囟」は赤ちゃんの頭骨の上にある割
れ目やかたどった象形文字で、いまは日
本でも中国でもほとんど使われない漢字
だが、実は「思」という漢字の上の部分
にこれがあつた。「思」の上部は「田」
という形になっているが、古くは「囟」
と書かれており、それがのちに
《田》となった。「思」はその《囟》に
「ひよめき」の部分と《心》を組みあわ
せて、「ものを考える」という意味を表
す漢字だった。

この「囟」の上に髪を表す《鬃》
のような形をつけ、さらに肉体を意味す
る《月》(「腹」や「胴」のヘンになっ
ているニクツキ)を加えると、「腦」と
いう形になる。いうまでもなく、現在使
われている「腦」の旧字体である。

人の思考や行動にかかわる根源は、う
まれたばかりの赤ちゃんの「ひよめき」
の動きにある、と古代人は考えた。現代
の脳科学に通じる思考と行動の機能を、
「ひよめき」が心臓の鼓動とリンクして
動くことに着目して、カラダとココロ双
方の活動の基礎だと考えた古代人のすぐ
れた認識が、「腦」という漢字にはつき
りと示されている。
(漢字学者)

私達 当会は、「都市長崎遺跡」そして「養生所/(長崎)医学校等遺跡」及び遺跡群と個々の遺跡が占有すべき空間

及び当該遺跡群によって証徴される歴史、即ち、当該事象が

世界と日本の社会との繋がりと地球上の地理空間とその特質によって日本の中世から近代にかけて長崎に形成された特異性を有するものであること
日本における古代～中世～近世、後、近代～現代へと連続する風土と社会と文化と歴史によって蓄積された国力を集約し、再構成するものであること

長崎が日本開国の母体であり玄関であり日本開国の諸施策を展開した最初の拠点都市であること

これが日本の国民国家の存続と主権国民国家形成の原動力の主要な一つであること

西欧文明圏以外の人類にとっても社会的な「個人の自由と存在の尊厳」と「自然科学の取扱い」による自律的な福祉の向上が可能であることを

この日本地域の風土と蓄積を基盤に実現しもって之を世界に対して初めて立証して示しよって世界に影響を及ぼし結果としてこの可能性が

その後の主権国民国家群の成立による現代世界の形成と一方でGlobalizationの双方の基層概念であり正しくその端緒であること

中世から近代・現代への日本人と諸国又オランダの人々の世界の理解と判断(system)を表すこと

中世に於けるローマ・カトリックによる岬の小さな城塞都市と文化の痕跡/長崎の中世から近世への町立てと変化と展開の痕跡/幕府の海外交易と世界の情報収集と海防の痕跡/日本開国の痕跡/幕府とオランダによる長崎での長崎海軍伝習の実現とその痕跡/長崎海軍伝習で設立される長崎製鉄所の痕跡一之を継承連続する三菱の造船所/長崎海軍伝習で成立する医学伝習と続く養生所の設置と之を精得館と改称して設置する分析窮理所の存在の痕跡一之を継承連続する長崎府医学校(及び病院)以降の痕跡/長崎資本の活動の痕跡

/都市長崎の近代都市基盤の形成の痕跡/ブルトニウム型原子爆弾被爆の痕跡

によって地球上の一つの地域であることとその連続的経時的重層性に附随する特異性をもって之を具体的に証徴する遺跡群を形成すること

現在、世界の時間と人々を前提とした従来の普遍的であるがゆえに唯一性を有する概念の有効性への信頼性が揺らいでいること

これ等の経過によって、当該事象は地球上の全人類にとって重要な歴史上の出来事と之を証徴する遺跡群であることによって

又、日本国内の又世界の、関係する歴史と遺跡と文化に関する各地点との情報交換と連携により形成する筈の地球空間における連帯の網の目によって

人類にとって、人類の過去を認識し、人類の現在と未来を考える為に、世界で最も重要な事象群の一つである、と理解します。

私達 当会は、長崎市及び長崎県、長崎市民、長崎県民、日本の人々、世界の方々に、又、長崎に住み、活動し、訪れる方々に、当該遺跡群について

遺跡の一部でも損壊や滅失によって失われることのない現状保存/「土地の造形」の懐測の余地のない再建/公開と活用/歴史と遺跡についての情報発信、を要望し、又、その為の措置をとるよう要望し、又、この要望への理解を求めます。

私達 当会は、当該遺跡群が、世界の「日本は特別だ」として日本への思索を切捨てる人々に、その思索を再開する契機を提供する、と期待します。

私達は、長崎市及び長崎県及び関係する人々に、遺跡とその空間を破壊して現代の建物や道路を造るのではなく、遺跡の空隙、即ち、遺跡とその空間のない所に現代の建物や道路を造ること、その為の措置をとることを要望します。

私達は、歴史上に人類の本源への考察を継続すること、及び、遺跡の姿について、之を、変化する現代に於いて、変わるべきものに対して、変わるべきでないものと考え、そのままの在り方/そのままの姿で、後世の人々に継承されるべきものと考えます。

『民主主義は最も高度で困難な政体である。』

— 養生所／(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より —

2018年(平成30年)8月2日木曜日

養生所を考える会 代表 池知和恭

日本人で初めて米エール大学の教授を務めた歴史学者、朝河貫一(1873年～1948年)は、朝河貫一研究会の山内晴子理事によると、第二次世界大戦に至る国際情勢を次のように捉えていたといえます。

“民主主義は最も高度で困難な政体である。個人が責任感や道義心、寛容の精神を持たなければ、地盤が緩んでしまう。米英仏では民主主義が道徳的に弛緩し、日独伊はこれを放棄して軍事同盟を締結した。つかの間の効率を追い、新秩序を構築しようとしたのだ。”

Opinion

中外時評

論説委員 小竹 洋之

安達太良山から吹く風が心地よい。酷暑をしばし忘れさせてくれた。福島県二本松市の金色墓地。日本人で初めて米エール大学の教授を務めた歴史学者、朝河貫一(1873～1948年)の墓は生まれ故郷にもある。

旧制中学時代に英英辞典を毎日2つずつ暗記し、破つて食べるか捨てたという逸話が伝わる。最後に残ったカバリーは、校庭の若木の根元に埋められたらしい。その「朝河様」が株分けされ、墓と向き合うようになつていった。

若くして海を渡った朝河は、米東部コネティカット州ニューヘブンのグローストリート墓地に眠る。8月11日没後70年。自由と平和を求

緩む民主主義、先人の憂い

めてやまなかった先人から、学べき点はなお多い。

朝河は1909年、祖国の行く末を憂う著書「日本の禍機(かき)」を出版した。日露戦争の勝利に浮かれ、中国で領土拡張にまい進すれば、世界の中でいずれ孤立し、米攻撃の当日で、もはや後戻りできなかった。

朝河貫一研究会の山内晴子理事によると、彼は第2次世界大戦に至る国際情勢をこう捉えていたという。

民主主義は最も高度で困難な政体である。個人が責任感や道義心、寛容の精神を持たなければ、地盤が緩んでしまう。米英仏では民主主義が道徳的に弛緩(しかん)し、日独伊はこれを放棄して軍事同盟を締結した。つかの間の効率を追い、新秩序を構築しようとしたのだ。

朝河が生きていれば、当時に近い危機感を抱くのではなかつたか。民主主義が緩み、ボビリズムやナショナリズムの伸長を許すいまの世界を眺めると、歴史が逆流しているような錯覚に陥る。

深刻なのは内向き志向を強めた米政治学者のフランシス・フクヤマ氏は言う。

米人権団体フリーダムハウスのところ、世界195カ国のうち自由な国家の割合は2017年に45%となり、07年の47%を下回る水準にこたえた。米国の指導力が低下し、権威的な中国やロシアの勢力が拡大しているせいもある。世界は民主化が後退しているのは間違いない。

問題はそれを望む民意が米欧などに存在する点だ。経済格差の拡大にあえぐ低所得層や、人種構成の変化にいら立つ白人層は、朝河が重んじた責任感や道義心、寛容の精神を失いつつある。

民主主義は合意形成に時間がかかり、すぐには結果を出せない。しかも少数のエリートに支配され、庶民の声を届きにくい。ならば過激でも突破力のある指導者に変革を託したい。そんなムードに異端児がつけ込み、強権政治を増幅していく。

民主主義をどう立て直すのか。グローバル化やIT(情報技術)化の恩恵を受けられず、既存の政治にも見放された人々の不満を和らげるのは容易ではない。それでも所得再分配や安全網の見直し、教育や職業訓練の充実、選挙・献金制度の改革といった知恵を絞り、地盤の緩みを少しでも食い止めたい。

朝河貫一博士顕彰協会の古川清会長が言う。「朝河はかつて、ジャパン・ファーストの危うさに警鐘を鳴らした。いまは米国や中国、ロシアを含む多くの国に、自国第一主義が広がる。生きていれば『米国の禍機』や『中国の禍機』を書いていたはずだ」

その通りだと思ふ。70年以上前のあの惨事を、決して繰り返してはならない。

私達の民主主義の地盤は緩んでいないでしょうか？

養生所／(長崎)医学校等遺跡は重要な遺跡です。私達は、長崎市に、遺跡本来の姿である現状保存を要望しています。

日本経済新聞

土曜版

NIKKEI

2018年 8月11日 土
(平成30年)

ツイッターとフェイスブックの米SNS(交流サイト)2社が1月以降、計7億件の偽アカウントを削除したことが分かった。ネット上で偽の「いいね」やレビューが広がる「情報汚染」が深刻になってきたためだ。利用者が発信する「いいね」は流行やモノの売れ行きを左右するようになったが、偽情報があふれたままではその仕組みも機能しなくなる。汚染を浄化しなければ「データエコノミー」の成長も揺らぎかねない。

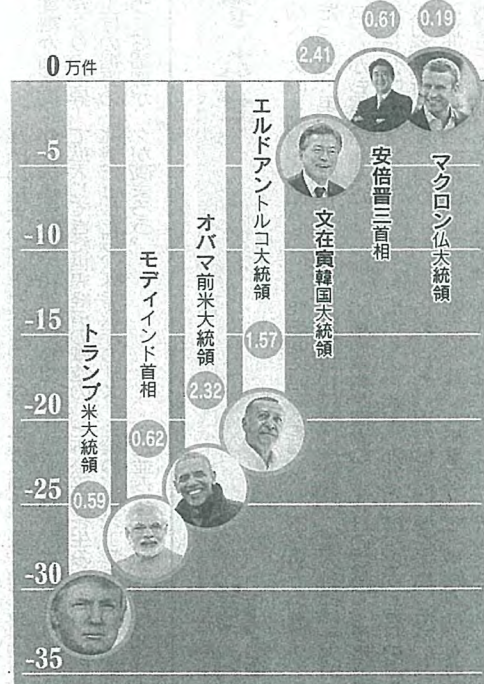
ツイッターが偽アカウントを一斉削除した7月13日。アイドルグループ「仮面女子」の神谷えりなさんは45万人もフォロワー(3面きょうのこ)とば)が減った。所属事務所は「理由は分からない」とするが「フォロワーも仮面だった」「ショックで泣きそう」とファンに困惑が広がった。フォロワーはネット投稿の読者数を示し、人気や影響力のバロメーターだ。ツイッターは「サービスの健全性を保つ」と不正アカウント排除を始めたが、トランプ米大統領など著名人のフォロワー減は世界に衝撃を与えた。5月以降に削除した偽アカウントは1億件超とみられる。

2016年の米大統領選で偽ニュースが問題になったフェイスブックも5月、5億8300万件の偽アカウントを削除したと発表。2社の実動利用者は計25億人強で、約4分の1に相当する偽アカウントが一気に消えた計算だ。

1日で13兆円消失
誰かが相互に情報発信できる「いいね」

経済が急速に発展する。消費者はSNSで声を上げ、共感を示す「いいね」の数が増える。商品の開発や小売店の価格設定も動かす。SNSを主力にするフェイスブックとツイッター、騰訊控股(テンセント)、LINEの日米中の大手4社だけで売上高は計9兆円。関連広告やアプリを含め、なお成長が続く。情報汚染はそうした経済の土台をむしばむ。フェイスブックは18年4～6月期の総費用が前年同期から5割増えた

各国首脳のフォロワーも一気に減った
(7月12日から13日のツイッターフォロワー減少数。丸内数字は減少率%)



消えた7億フォロワー

データの世紀
News&Trend

と発表。偽情報への対策費が今後の成長を鈍らせる見通しを示すと株価は急落し、1日で米国史上最大となる13兆円の時価総額を失った。ネットには今も偽フォロワーを売るサイトがあふれる。ある業者はツイッターの削除機能を回避できるという「高級いいね」を「50件8千円」で販売する。セキュリティ大手トレンドマイクロの岡本勝之セキュリティエバンジェリストは「偽装が高度化し対策との応酬が続く」とみる。

「やらせ」も氾濫
広告であることを隠したまま、口コミのように投稿する「ステルスマーケティング」も氾濫する。「5つ星の文章付きレビューで金返金します」。フェイスブック上に「アマゾンレビュー募集グループ」が乱立する。並ぶのはイヤホンや脱毛器などを無料提供する代わりに高評価を求める投稿だ。「レビュー工場」とも呼ばれる。米アマゾン・ドット・コムは16年、報酬と引き換えにしたやらせレビューを禁止。不正を繰り返す個人や企業に複数の訴訟も起こすが、根絶には至らない。

情報汚染、ネット曇らす

は至らない。アマゾンの売上高は17年12月期に20兆円と5年前の3倍に急拡大。世界で高まる消費者への影響力は悪質業者をも引き寄せる。汚染を放置し続けられれば、データエコノミー全体の透明性が曇りかねない。ジョージ・アカロフ米教授が提唱した「レモンの原理」が重く響く。レモンとは外見から判別しにくい欠陥品を指す。利用者が嘘か本当か見分けにくい情報があふれかねれば、ネット社会そのものの信用性も失われ立ちゆかなくなってしまう。「児童誘拐犯がやってくる」。インドでは対話アプリ「ワッツアップ」で広がった噂が暴動を次々誘発。7月には西部マハラシュトラ州で誘拐犯と疑われた5人の男性が地元住民の襲撃に遭って死亡した。同様の悲劇は4月以降、各地で10件近く起きた。インドのワッツアップ利用者は2億人。同国政府は「有害メッセージの増加に技術的な対処を」と異例の要望を出した。「短期的な利益を減らしても、自力で信頼を得る事業モデルが必要だ。そうしなければ長期で続くサービスは実現できない」。上智大学の首脳宏教授は各社の汚染対策をこう受け止める。テクノロジーは我々の生活を豊かにする。だが人々を便利にすることだけを考え、技術を次々投入すれば済む段階は過ぎた。データエコノミーは次の成長の過程にさしかかっている。(データエコノミー取材班 植松正史、伴正春)

揺れる「いいね!」経済

「事実が共有されなければ民主主義は成立しない」

－ 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より －

2018年(平成30年)8月11日 土曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

27 読書 日本経済新聞

2018年(平成30年)8月11日(土曜日)

今を 読み解く

「ことしもまた、もうじき8月15日がやってくる。平成最後のハ・一五である。」

まともに考えたら無謀とは思えない昭和の戦争になぜ人びとは突き進んでいったのか。誘導されたものがあつたからに違いない。それはメディアをおいてほかにあるまい。

簡井清忠著『戦前日本のポピュリズム』(中公新書・2018年)はそこを厳しく突いている。

大衆の人氣をえながら、政治的な力として世の中を動かしていくのをポピュリズムというのなら、戦前の日本にすぎなかった。

日露戦争のあとの日比谷焼き打ち事件にはまっぴら満州事変、五・一五事件、近衛新体制運動、そしてついに日米開戦へ。一連の動きをもたらし背景にはメディアの存在があつたと指摘する。

転機は1931年の満州事変だ。軍部の強硬姿勢に批判的だった新聞は事変後に大旋回する。満州事変支持」に社論を転換、その後ははっきりと協力姿勢を打ち出した。

簡井は「戦争と、マスメディアによるその大々的報道という最大の『劇場型政治』が展開され、世論は急速にその支持に傾いていった」と断じる。

● 情緒的な世論

どのようにしてそうした世論が社会のなかで生み出されていったのか。そのメカニズムの解明が必要になる。

何が戦争へと導いたのか 今に通じるメディアの教訓

論説フェロー
芹川 洋一

佐藤卓己著『ファシストの公共性』(岩波書店・18年)は第2次世界大戦におけるナチスドイツと日本について、その点を明らかにする。



世論が支持するポピュリズムのもと、無謀な戦争に突き進んでいった
イラスト・よしか じゅんいち

で、決して反民主主義ではなかったとみる。そのとき大きな役割をはたしたのが当時のニューメディアであるラジオだった。活字より情緒的で、青年や女性が世論形成の空間に加わった。

日本でも世論の支持なくして総力戦体制はできないとみて、参加員にむけて新聞に加え、ラジオも使われる。新たなメディアが言論空間に化学反応をもじり、政治状況を変えていくことになるた

と警鐘を鳴らす。ネットの時代になって個々人で見える世界が異なってきた。世論が形成され政治過程にのせていく社会の機能がいちじるしく弱くなった。

● いいね！ 共同体

その結果どうなっているのか。福田直子著『デジタル・ポピュリズム』(集英社新書・18年)がいうように、個人情報や選挙キャンペーンや世論形成に利用され、ポピュリズムをもちだしている。私たちは現在、ネットが変える民主主義の始まりの地点にいるのかも知れない。その通りだろう。われわれは活字で認識を共有する「想像の共同体」から、佐藤卓己の言葉をかりれば、批判者のいない「いいね！ 共同体」に移っているのかも知れない。

遠藤憲一『ソーシャルメディアと公共性』(東京大学出版会・18年)は、ネット単独ではなく新聞や放送など既存メディアとの連携・融合による「重層化」によって、世論を社会のなかで生み出していく必要性を強調する。その意味合いはますます大きくなっているに違いない。

簡井清忠が戦前日本にみたポピュリズムは今まさに世界にひろがり、日本もその渦中にある。メディアが先導して戦争にむかっただけの歴史の教訓は、ネットの時代になり、かたちをかえてわれわれに鋭く問いかけている。



デジタル・ポピュリズム
操作される世論と民主主義

福田直子
Fukuda Naoko

読書

2018年(平成30年)8月11日 土曜日 日本経済新聞 朝刊 27面 読書面 《今を読み解く》で

“ネットの世界では、自分が見たいものだけを見て、見たくないものを遮断するフィルターバブルといわれる現象がおこっている。イーライ・パリサーは『フィルターバブル』(井口耕二訳、早川書房・16年)で「事実が共有されなければ民主主義は成立しない」と警鐘を鳴らす。ネットの時代になって個々人で見える世界が異なってきた。世論が形成され政治過程にのせていく社会の機能がいちじるしく弱くなった。”と論説しています。

ネットの世界が、私達の行動をつくっているのでしょうか？

私達の行動が、ネットの世界をつくっているのでしょうか？

あなたは、どちらだと考えますか？

長崎の遺跡と歴史と社会と風土は日本の他の地域と世界との関連において形成されています。

私達 当会は、長崎市に、“都市長崎遺跡”“養生所/(長崎)医学校等遺跡”ほかの遺跡の取扱いについて、その文化財行政に於いて、所管の長崎市域の遺跡の取扱いを行政決定する以前に、又、日常的に、長崎市民全体・日本と世界の人々に、遺跡の存在と遺跡に於ける事実とその遺跡が証徴する歴史及び最新の歴史学の成果について、多方向の意見交換と認識を形成する努力とそのための有効な措置を実施することを要望します。

モアイ像 ホアハカナナイア

— 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より —

2018年(平成30年)8月11日 土曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

12版 社 会 36

日本経済新聞

2018年(平成30年)8月11日(土曜日)

モアイ像、島に返して!!

【ロンドン＝共同】南太平洋に位置する世界遺産、チリ領イースター島の地元当局が、150年前に英国に運ばれて現在ロンドンの大英博物館が

所蔵するモアイ像「ホアハカナナイア」の返還を求めている。9日付の英紙デーリー・テレグラフなどが伝えた。大英博物館は正式な返

チリの地元当局 英に要求

ロンドンの大英博物館が所蔵するモアイ像「ホアハカナナイア」―ゲッティ共同



玄武岩で、背面に鳥人の絵柄が描かれている。



還要求を受けていないとしたうえで、年間600万人近い入場者がある同博物館で展示することと「公共の利益」があるとして応じない構えだ。

このモアイ像は高さ約2・4メートル。英海軍の船長が1868年に現地から運び、その後、ビクトリア女王に献上された。モアイ像の多くは凝灰岩だが、ホアハカナナイアは

“返還要求” ⇔ 博物館での“展示”の「公共の利益」...

モアイ像は... 遺跡は... 遺構は...

本来、そして、今後、どこに在るべきでしょうか？

150年前と比較し、地球上の時間の距離は縮まり、情報は身近なものとなり

又、人々の、人類の意識は高まっています。

大英博物館は、なぜ、モアイ像ホアハカナナイアの“レプリカ”をロンドンの博物館に“展示”して

モアイ像をイースター島に返還して、この問題の解決を図ろうとしないのでしょうか。

記事から、大英博物館は、ロンドンに於ける“レプリカ”の“展示”は「公共の利益」ではない、と考えていると理解できます。

長崎市は、養生所/(長崎)医学校等遺跡の取扱いで、遺構の“レプリカ”の“展示”を選択します。

長崎市の文化財行政は、なぜ、大英博物館のように“レプリカ”の“展示”を拒絶しないのでしょうか？

日本では、生活が急変する明治期や高度経済成長期に「三溪園」や「明治村」など建造物の移築集約が行われ保存に一定の成果がありました。

現在は、「文化的景観」や「伝統的建造物群保存」などを含め、現状保存、町並み保存が、文化財行政の考え方の主軸です。

日本人は“移築”や“レプリカ(模造)”を好むのでしょうか？

居ながらになんでも楽しめる百貨店のような日本人のこの考えは、今現在、今後、皆に、世界に支持されるのでしょうか？

遺跡は... 遺構は... 本来、そして、今後、どこに在るべきでしょうか？

遺跡や遺構は、“その場”に附随する特異性によって存在する姿こそ本来の姿であり、本来の理解です。

私達は、遺跡のありのままの姿、本来あるべき姿を、私達人類の生活環境に取り込むことを、長崎市と皆様に、提案します。

私達は、長崎市と皆様に、今一度、立ち止まって、遺跡や遺構について、考え直すことを提案します。

輝く Z世代

1

「人間の感情が理解できるロボットをつくりたい」。JR渋谷駅近くの共有オフィス。18歳の慶応大学1年生、東出風馬さんが大きな20センチの小型木製ロボット「HACO(ハコ)」の開発に取り組んでいる。昨年2月に起業し、約10人の社員を率いる「社長」だ。

めざすのは「愛嬌(あいきよう)があるロボット」。「おなかがすいた」と話すと「レシビを教えるよ」と応じてくれる。価格は約3万円に抑え、世界の人が開発に参加できるようにソフトウェアなどをオープン型にした。年内の製品化を視野に入れる。

「好き」を事業に 幼少期からのぐくりに興味があった東出さんが起業を誓ったのは中学2年の時だ。アップル創業者のステイブ・ジョブズ氏の名言集を書店で手に取り、「自分の好きなことを事業にする」という生き方に共感した。当時の「2020年までに起業する」という夢は3年前倒しで達成した。次は「19年中に海外で発売する」という目標

小学生もアプリ開発

世界を良くする

を掲げている。95年以降生まれの「Z世代」の若者が新風を吹き込んでいる。特徴の一つは、スマートフォンを使って、自分の手で簡単に作品を作ること。初代アイフォン発売の直前に生まれた少女も例外ではない。

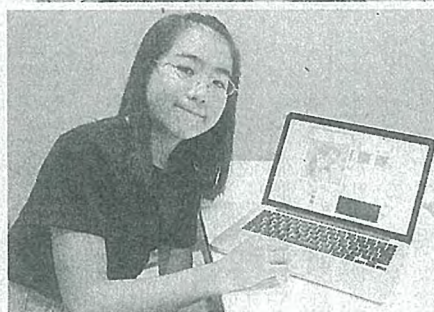
7月末、米ソフト大手アドビシステムズが東大で開いたIT(情報技術)イベント。小学6年生ながら、すでに百人一首などの10個のアプリを開発した菅野さん(11)が登場した。今春までの半年間、70人から5人に選ばれてデザインの特訓を受けた。新たな技術をいかし、社会に役立つアプリを2000人の前で発表し、

「手芸店が減って悲しんでいたおばあちゃんのために開発しました」。作ったのは好きなイラストが簡単に刺しゅうの下絵に変換できるアプリ。例えば顔なら400色の糸からパーツごとに最も近いものを教えてくれる。菅野さんは愛用のマックブックを手に「将来はコンピューターの仕事に就きたい」と笑う。

▼Z世代 1995年以降に生まれた若者をさす言葉。米国では60年代から70年代に生まれた人を「X世代」、80年〜95年前半までを「Y世代」と呼び、これに続く呼称として生まれた。日本では約2800万人おり、総人口の2割強を占める。幼少期からスマートフォンが身近にあるため、受信よりも発信に積極的なのが特徴だ。起業への意欲や社会問題への関心も高く、グループ同士のSNSで発信した情報に影響を受けやすい。



ロボット開発会社を起業した東出さん(写真上)と小学6年生でアプリを10個開発した菅野さん



起業、興味もとに楽しく

政治や社会の問題にも関心が高く、スマートフォンで双方向のやりとりに変えてしまつた。

「政治家は実はおもしろい。でも『炎上』を恐れて発信しないから議論が盛りあがらない」。政治家と有権者が交流できるアプリを開発したボリポリ(相模原市)の伊藤和真社長(19)はこんな問題意識を抱いている。伊藤さんは慶応大2年生。7月に開発したアプリのダウンロードは数千を超えた。9月の自民党総裁選に出馬する石破茂氏(61)らに意見を送る機能が有り、多くの人が賛同すると「アンバサダー市民」になる。この市民にはアプリ上でより多くの仮想通貨をわたし、健全な政治献金にいかせないかと考えている。

世界で20億〜25億人にとられるZ世代。シンガポールで活動する起業家支援のビーネクストの設立者、佐藤輝英さん(43)は「技術で我々が世界を良くする」との志があり、資本主義や社会の転換点を感じる」と分析する。将来のジョブズ氏を探するため、日本、インド、ベトナムを年100回ほど駆け巡っている。政府は未来投資戦略で23年までに総額10億ドル(1100億円)のベンチャーを20社創出する目標を掲げる。Z世代の飛躍こそが欠かせない。

我々が

私達は、いつからか、どこからか、なぜだか、なにか、遅れていませんか？ 才能？ それだけ？

現存する者、既に逝った者、将来生を受ける者の間の パートナーシップ

— 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より —

2018年(平成30年)8月15日 水曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

1 12版 第47580号

日本経済新聞

2018年(平成30年)8月15日(水曜日)

2018. 8. 15

総意を形成するひとつの要素が、過去に対する共通の理解だとお考えのようだ」と側近から聞いたことがある。きょう平成最後の全国戦没者追悼式が営まれる。お言葉を胸に刻みたい。

▼陛下が、歴史を学ぶ意義を繰り返し強調される理由はどこにあるのか。象徴天皇の地位は、「国民の総意に基づく」と憲法にある。「その

▼「戦なき世を歩みきて思ひ出づかの難き日を生きし人々」。皇居にほど近い千鳥ヶ淵戦没者墓苑に、天皇陛下の歌碑がある。戦後70年の節目には、「年々、戦争を知らない世代が増加していきま

▼「戦なき世を歩みきて思ひ出づかの難き日を生きし人々」。皇居にほど近い千鳥ヶ淵戦没者墓苑に、天皇陛下の歌碑がある。戦後70年の節目には、「年々、戦争を知らない世代が増加していきま

春秋

月遅れのお盆と、終戦の日が重なったのは歴史の偶然だ。が、平和国家の建設には幸いだったかもしれない。迎え火、送り火をたいて故人をしのぶ。その習俗とともに、総力戦の悲劇を省みる。死者を悼み、彼らの無念を忘れ

私達 当会は、遺跡は、正しく、「現存する者、既に逝った者、将来生を受ける者の間のパートナーシップ」の為の“赤い糸”であり、又、“蜘蛛の糸”でもある、と理解します。

私達 当会は、長崎市と長崎県と皆様に、現存する者の単独の「意図的措置」により、これ等の「現存する者、既に逝った者、将来生を受ける者の間のパートナーシップ」の為の“赤い糸”であり、且つ、“蜘蛛の糸”でもある遺跡とその遺跡としての空間を、破壊し、変形し、その継承と連絡を断ち切り、事象の連続性を壊滅する行為のないように提案し、要望します。

私達 当会は、遺跡は、人類にとって、人類の自らの過去に対する理解への、現存する人類の意図と概念を断絶した、故に、唯一、相対的ではない絶対的で明確な地球の空間上の存在と事実であり、契機であり基盤であり、現存する者の意図せざる社会基盤であり、之を現存する者の意図で動かしてはならない存在である、と理解します。

私達 当会は、遺跡は、地理上の土地と人類にとっての“その場”に附随する特異性に依拠して存在する、特異な存在で、他に代替がない、と理解します。

“都市長崎遺跡”及び“養生所/(長崎)医学校等遺跡”は、人類の過去に対する理解にとって、又人類にとって、重要な遺跡です。

私達 当会は、長崎市及び長崎県及び皆様に、当該遺跡、及び、様々な遺跡とその遺跡としての空間について、「意図的措置」により「その一部でも損壊や滅失によって失われること」のない遺跡本来の姿即ち現状保存及び憶測の余地のない“土地の造形”等の密度ある伝統的技術による再建等によるささやかな整備により、之を、既に逝った者から引き継ぎ、将来生を受ける者の手に委ねることを提案し要望しこの要望への理解を求めます。✕

「柔弱は生路なり。強硬は死路なり」

―養生所／（長崎）医学校等遺跡の保存と活用より―
2018年（平成30年）8月15日水曜日
養生所を考える会 代表 池知和恭

その時、誰が、何を考えたのか、何を行ったのか、私達は、歴史の事実を容易に明らかにし又知ることができません。歴史の評価は、私達は、容易にその総体を掴むことができず、時々の人々の考え方でも変化します。

遺跡は、元來、人類にとつての役割を終了し、又、人々に忘れられたものが再発見されたものであり、故に、人類の概念や言語や記号や意図を断絶し、私達に、雄弁な説明を与えません。遺跡は、寡黙ですが、私達の身近にも存在し、人々の意図や概念に影響を受けない、厳然たる歴史上の事実であり、土地に依拠して存在し、人々が之を、意図的に破壊し、加工し、変形しないかぎり、人類の個々人の生命時間を越えて、存在し続けて、私達が遅ればせながら形成した歴史概念を証徴し、その時初めて、やっと、私達の理解の範疇に姿を顯わします。遺跡は、幾つもの要因が重なって、現状を維持して“今そこに在る”貴重な存在です。

2018. 8. 15

先の大戦が終わって73回目の終戦の日を迎えた。戦禍を被った内外の多くの犠牲者を悼み、黙とうをささげた。

来年は新しい元号で迎えるの「昭和の惨禍」はさらに遠のく。あらゆる機会を捉え、日本は「引く役である」ことをよくわかつていたのだ。

戦没者を追悼する行事では、若い参加者が「平和の誓い」と題して、濃くなくても戦ったのかを問いつけていきたい。

それから終戦に至る4カ月の説話は簡単ではない。もっと早く白

て詩などを朗読することがよくある。旧日本軍の特攻兵器「回天」

今年は、大戦中の最後の首相だった鈴木貫太郎の没後70年にあ

旗をあげていれば、原爆の惨禍は避けられた。中国残留孤児をつ

の訓練基地があった山口県周南市で昨年開かれた式典では、「まず67の生命を大切にします。」「そして、項目からなる国連教育科学文化機関（ユネスコ）の平和宣言を中学生が読み上げた。

歴史を知り日本の針路

る。死の直前に残した言葉が「永遠の平和」だったことはよく知られている。鈴木に詳しい東大の加

ことなく、沖縄戦もあれば多々る。住民を戦闘に巻き込まずにすんだかもしれない。

鈴木貫太郎の終戦工作

戦争の記憶を次の世代へと伝えていくことはとても大切だ。きょうは「平成最後の終戦の日」である。5月4日である。家族にはイタリく、ドイツのような壊滅的な本土ア降伏時の首相の名を挙げて「バ決戦を戦う」ともなく、降伏でき

歴史を知り日本の針路に生かそう

る。死の直前に残した言葉が「永遠の平和」だったことはよく知られている。鈴木に詳しい東大の加だかもしれない。

「戦争を正しく終結させるには」

が8月14日深夜に起きたことからもうかがえる。

藤陽子教授と、鈴木の孫である道子さん話を聞いてきた。

他方、鈴木の慎重な終戦工作があつたから、イタリアのような降

戦争を効果的に始めるのと同じく
らの力量が少なくとも必要であ

鈴木内閣が発足したのは1945年4月である。家族にはイタリヤ降伏時の首相の名を挙げて「バ

決戦を戦うこともなく、降伏でき

伏派と継戦派の内戦に陥ることな

る」。おとしにくくなったノベ

ル経済学賞の受賞者トーマス・シ

エリングの著書「軍備と影響力」

はこう指摘する。

あらゆる局面において、撤退の
決断は最も難しいことのひとつ

だ。鈴木が終戦に果たした役割を振り返ることは、いまの時代にも

意味がある。
米国のトランプ大統領に代表さ

れる自国第一主義者が世界のあちこちに現れ、国際秩序は不安定さ

を増している。日本でも周辺国とのあつれきをめぐり、「強硬策も

「辞さず」などとこの声を聞くと
がある。

外交には圧力が必要なときもあるが、売り言葉に買い言葉という

ことわざもある。いちど大ごとに
してしまったら、国際紛争の收拾

が容易ではないことを常に頭に入れておきたい。

鈴木の役割は戦後も続く。

「柔弱は生路なり。強硬は死路なり」

戦争放棄は誰の発案か

これは枢密院が現憲法の原案を審議した際、9条に戦争放棄のみ

ならず、戦力不保持を書き込むことを議長だった鈴木が前向きに受

け止めた発言である。大きな異論なく原案が了承されたのは、鈴木

その9条の根幹である戦争放棄

を最初に思いついたのは、首相だった幣原喜重郎なのか、GHQ（連

（国軍総司令部）最高司令官だっ
たダグラス・マッカーサーなのか。

さまざまな見方がある。中央大の服部龍二教授が近年、新たな説を

る遺跡を、今、現存す

に委ねるべきである

で重要な道徳的措置」により「その

来生を受ける者の

.....

私達当会は、私達人類が、歴史の理解や評価に到達するより以前に、又、その是非に拘泥する以前に、身近にある遺跡を、今、現存する者の都合で破壊し変形することなく、現存する遺跡のありのままの姿で、保存し継承し、将来生を受ける者の歴史概念や評価に委ねるべきである、と考えます。

“都市長崎遺跡”及び“養生所／（長崎）医学校等遺跡”は、人類の過去に対する理解にとつて、又、人類にとつて、重要な遺跡です。

私達当会は、長崎市と長崎県と皆様に、当該遺跡、及び、様々な遺跡とその遺跡としての空間について、「意図的措置」により「その一部でも損壊や滅失によって失われること」のない遺跡本来の姿即ち現状保存と整備により、之を、既に逝った者から引き継ぎ、将来生を受ける者の手に委ねることを提案し要望しこの要望への理解を求めます。

“都市長崎遺跡”及び“養生所／（長崎）医学校等遺跡”は、人類の過去に対する理解にとって、又、人類にとって、重要な遺跡です。

私達当会は、長崎市と長崎県と皆様に、当該遺跡、及び、様々な遺跡とその遺跡としての空間について、「意図的措置」により「その一部でも損壊や滅失によって失われること」のない遺跡本来の姿即ち現状保存と整備により、之を、既に逝った者から引き継ぎ、将来生を受ける者の手に委ねることを提案し要望しこの要望への理解を求めます。

養生所／(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より

2018年(平成30年)8月24日 金曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

「地銀」は、今後、狭い地域内で、所望の“利益”を回収する軌から解放されます。

長崎地銀 来年4月統合

ふくおかFG・十八銀行 公取委が承認

長崎県での地方銀行再編に際して、ふくおかFGと十八銀行の統合をめぐり、公正取引委員会(公取委)が、24日にも発表する。1千億円の融資を、親和銀行をGと十八銀行の統合を円滑に融合させる。同県の中小企業向け融資

資が独占状態になることを回避した。正式な通知を受け、同社は2019年4月に経営統合する。公取委は23日、最終的な意思決定を行う委員会を開き、両社の統合計画を承認すると確認した。同社が統合に向け基本合意したのは16年2月。2年超に及んだ異例の審査が決着する。統合の発表当時、同社で長崎県の中小融資シェアは7割を超える状態だった。公取委は長崎の地域金融が「1強」になれば、借り手が金利など不利な条件を強いられかねないとして承認が難しいとの見解を伝えていた。銀行側は自主的にシェアを引き下げて借り手の選択肢を増やすため、全ての取引先に競合行へのえ、統合後に貸し出し金利が上がるという第三者が監視する仕組みを設けることも含めた統合計画の修正版を21日に公取委に提出していた。今回の公取委による承認によって、同一県内でのシェアが一気に高くなる地銀統合構想に道を開くことになる。一方で、統合にはシェアの引き下

円滑借り換えメド

長崎地銀再編 県内統合モデルに

長崎県の地銀再編が、かつて円滑な借り換えにうやく決着する。ふくおかFGと十八銀行の統合をめぐり、公正取引委員会(公取委)が、24日にも発表する。1千億円の融資を、親和銀行をGと十八銀行の統合を円滑に融合させる。同県の中小企業向け融資

長崎では、これから、遺跡を破壊してまで、急いで、道路や建物等の開発を行う必要がなくなりません。長崎は、全てが遺跡です。開発は、必ずや、遺跡の現状保存と現状回復整備(“土地の造形”の憶測の余地のない再建を含む)の実施を前提とする計画としましょう。当該地が主要な遺跡の場合や遺跡の残存が土地の区画の全体の範囲に及ぶ場合には、開発用地について、代替地を求めることも必要です。✕

げに向けた大規模な措置が必要だという前例にもなり、地銀再編の動きが一段と注目される。

私達はまだ引き返せるのか？

ー 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より ー

2018年(平成30年)8月24日 金曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭

【第三種郵便物認可】

日 本 経 済 新 聞

2018年(平成30年)8月24日(金曜日)

オピニオン 6

Deep Insight

Opinion

グローバルオピニオン



Johan Rockström 地球と社会の持続可能性などを研究する環境科学者。2015年の共著の日本語版『小さな地球の大きな世界』が7月に出版された。52歳。

地球はいまから1万1700年ほど前に最終氷期を抜け、地質学で「完新世」と呼ばれる時代に入った。温暖で調和のとれた環境が続き、人類の繁栄の基礎になった。しかし工業や農業を含む人間の活動が1950年代から劇的に加速し、地球に大きな負荷をかけている。人類が地質学的な規模の影響を及ぼす「人新世」の時代に移行しつつあるのだ。

完新世は、(キリスト教で楽園とされる)「エデンの園」と言ってもいい。人新世に完全に移行し、良好な環境が失われるのを阻止しなければならぬ。その重要性を説くために、私が研究者を率いて2009年に「プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)」の概念を発表した。地球環境の維持に不可欠な9分野の限界値を示し、回復可能な範囲内で人間が活動するよう求めている。

気候変動、生物多様性、土地利用の変化、窒素・リン汚染の4分野は、すでに限界値を超えた。淡水の消費は今後20年程度で限界値に達するかもしれない。だが私たちの努力で安全な領域に戻すことは可能だ。プラネタリー・バウンダリーの範囲内で人類が繁栄する道を探る必要がある。

(これは環境の保護だけを目的とする枠組みではない。世界経済の生き残りを目指す枠組みでもある。西日本豪雨は社会的な被害だけでなく、経済的な被害までもたらしたではないか。台風や熱波などの災害で、世界は年1500億(約16兆5千億円)以上の損害を被っているといわれる。臨界点を超えて地球に負荷をかけ続けられ、大きな代償を払うことになる。生態系の安定は年1.5兆(程度)の便益を与えているという試算もある。世界の国内総生産(GDP)の1.5倍に相当する規模だ。これほど大きな恩恵を受けておきながら、私たちは正当な対価を支払わず、ただ乗りしてきた。膨大な請求書を気にせず、地球を自由に利用できる時代は終わったと考えるべきだろう。

環境科学者のたわ言と批判されるかもしれない。だが人間の活動が地球の安定を脅かしているという事実から逃れることはできない。私たちはかつてのまなぐ、大きな地球の小さな世界ではなく、いまより小さな地球の大きな世界に生きていくのだ。

「地球の限界」超えぬ成長を

ストックホルム・レジリエンス・センター所長 ヨハン・ロックストローム氏

温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」は、産業革命以降の気温上昇を2度未満に抑える目標を掲げた。トランプ米大統領の離脱宣言は、科学的にも道義的にも容認できない。ほかの参加国の指導者が米国の復帰を強く働きかけようとしているのもおかしい。

世界の国々はお互いに深くつながっている。誰もがほかの誰かの裏庭に住んでいるのだ。アマゾン熱帯雨林の破壊はブラジルだけでなく、日本やスウェーデンにも影響を与える。自分さえ良ければいいという時代ではない。

米国がパリ協定から離脱できるのは20年11月の次期大統領選後で、すぐに影響が出るわけではない。独自の環境対策に動けず、企業もある。ただ連邦政府が様々な分野で、環境保護の責任を放棄しつつあるのは問題だ。日本や欧州の役割は重くなるだろう。

私たちはまだ引き返せる。エネルギーや農業、交通、都市などを持続可能なものに転換し、地球環境の悪化を何とか食い止めなければならぬ。それは企業の経営哲学や個人の生活様式の見直しにつながるかもしれない。

地球環境の責任ある管理を担う国際統治のあり方も重要だ。気候変動や生物多様性をはじめとするプラネタリー・バウンダリーの全分野で、主要国の協調体制を固めるべきだろう。議論を国連などで深めてほしい。各国の財務相や国際通貨基金(IMF)が、炭素価格(炭素税)の仕組みを考える必要もあるのではないかな。

私たちは社会的な責任を果たすためというよりも、経済の競争力を保つために地球環境を守ると考えたほうがいい。プラネタリー・バウンダリーは成長の制約条件ではなく、成長維持の戦略だ。地球の持続可能性と成長の両立は可能だと信じている。(談)

環境軽視つけ重く

民間組織のローマクラブが「成長の限界」と題する報告書をまとめたのは1972年である。「100年以内に地球上の成長は限界点に到達するであろう」と警告し、環境の悪化を原因のひとつに挙げた。

環境保護と成長の両立は、いまも変わらぬ課題だ。その重要性を多くの人に訴えたいと、ロックストローム氏は世界を行脚する。環境の保護を何よりも優先する原理主義者ではない。「地球の限界を超えない成長の道を探れ」という主張に違和感はない。

科学の知見に背を向けるトランプ米大統領のせいで、温暖化対策の協調体制が揺らぎ始めた。ソクは米国にも回っている。「死んだ地球でビジネスはできない」とロックストローム氏は言う。実業家出身のトランプ氏に響くというのだ。(編集委員 小竹洋之)

planetary boundaries 9項目「気候変動」「新物質の排出」「成層圏オゾンの破壊」「大気エアロゾル(浮遊粒子状物質)の負荷」「海洋酸性化」「窒素とリンの循環」「淡水の利用」「土地利用の変化」「生物多様性(遺伝的多様性、機能的多様性)の喪失」

私達人類は、今一度、私達の歴史を振り返って再確認し、再評価する必要があるのではないのでしょうか。

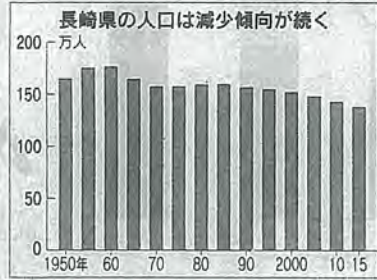
遺跡は、私達に、私達人類の歴史の再確認と再評価への、身近な契機を与えます。

私達 当会は、長崎市と長崎県及び長崎市民の皆様と長崎県民の皆様及び日本と世界の皆様に、“都市長崎遺跡”と“養生所/(長崎)医学校等遺跡”の現状保存と原状回復と“土地の造形”の憶測の余地のない再建を要望しこの要望への理解を求めます。

私達はまだ引き返せるのでしょうか？

<http://www.toagotai.co.jp/>

将来に亘り、社会に
効率的均衡への
瑕疵を残すおそれがあると云われます。



長崎市を地盤とする十八銀、佐世保市に根を張る親和銀は長けライバル関係にあった。親和銀は

高いシェアが壁
「金融を特別扱いしない」(杉本和行委員長。公取委は同社の統合に厳しい姿勢を崩してこなかったが、この時、統合を事実的に認めた。

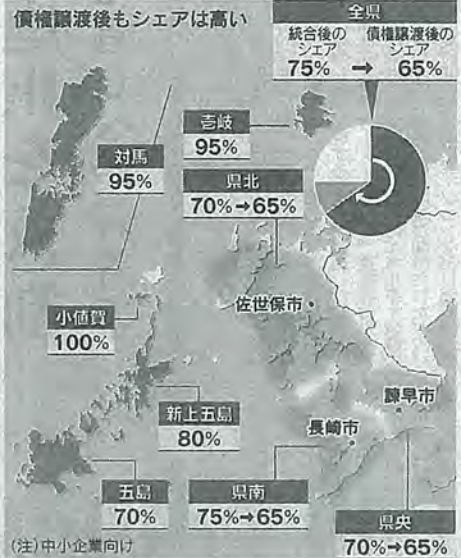
「よく頑張りましたね」。7月19日、公取委担当者は同社関係者から債権移管の進捗状況を聞いて顔をほころばせた。

Behind the Curtain

長崎の2地銀統合

「独占」懸念 揺れた10年

「やめるか」一転 地域疲弊に焦り



07年10月、九州地銀界の雄であるふくおかF&Gに救済された。当時は多額の不良債権に押しつぶされ、破綻に近い状態。「ほとんど経費が使えず、通F&Gは金融庁幹部に可能性を内々に打診したが、結局は「シェアが高すぎるからダメだ」と。独占の懸念がネックになり、頓挫した経緯がある。

生き残りをかけた親和銀は、長崎市内に攻め込む「南進作戦」を始める。「どちらかが潰れるまで攻め続ける」。長崎での激突が激しくなった。

それから10年近くたった16年2月、消耗戦を余儀なくされた十八銀はついにふくおかF&Gとの経営統合を受け入れ、統合計画を公表した。「親和本店に引き戻す中で、十八銀の森頭取はつぶやいた。

「親和銀の収益力を回復するために、十八銀と経営統合できないか」と。07年ごろに統合計画を検討していたふくおかF&Gは金融庁幹部に可能性を内々に打診したが、結局は「シェアが高すぎるからダメだ」と。独占の懸念がネックになり、頓挫した経緯がある。

生き残りをかけた親和銀は、長崎市内に攻め込む「南進作戦」を始める。「どちらかが潰れるまで攻め続ける」。長崎での激突が激しくなった。

それから10年近くたった16年2月、消耗戦を余儀なくされた十八銀はついにふくおかF&Gとの経営統合を受け入れ、統合計画を公表した。「親和本店に引き戻す中で、十八銀の森頭取はつぶやいた。

「やめるか」一転 地域疲弊に焦り

「公取委が統合承認の条件として迫っていた大規模な債権の移管は、どうしても避けたい思いがあった。

顧客の意向が前提だが、貸出債権の譲渡は取引先によっては理不尽な措置に映る。地元でお互い顔が見える濃密な人間関係のもとで仕事をしていた地銀にとって「無理強いすれば、子々孫々まで信頼を失いかねない」。

16年には、債権譲渡に反対していたとされる統合責任者の森田成専務(当時)が死去。森頭取は「統合の無期延期を決め、ひとまず時間を稼いだ。長崎県は主力の造船業が空洞化し、人口は30年以上も減少傾向をたどっている。離島や半島では預金の減り方も目立つ。県内で上場企業は十八銀だけだ。地元経済が崩れていく姿を間近に見てきた。長崎県の銀行が強くならなければ、地元経済は再生しない。親和だ、十八だといっている場合ではない」。

「最後の手段だ」

森頭取は熟慮の末に決断した。「最後の手段だ。すべての取引先を回す。4月下旬、支店長会議の席で同行で1万6千にのぼるすべての取引先に借り換えの意向を聞き取り調査すると宣言した。統合の実現へ本腰を入れ始め、潮目は大きく変わった。

「債権を移さなければ統合できないとなれば、地元はわかってくれる」(ふくおかF&G幹部)。

積極的に協力を申し出る企業も出てきた。借り換えの交渉が「一気に進んだ。カードはすべて切

った」。積み上がったのは1000億円弱。結果的に統合承認のハードルをクリアできる規模となったが、同社が140年の歴史で積み上げた中小企業向け融資の約1割にのぼる。簡単な額ではなかった。

「ふくおかF&Gは、かつて「スーパーリージョナルバンク(巨大地銀)」構想」を掲げた。「地域の金融機関が潰れたら大変なことになる」。九州の地銀再編の移になる構想は今も捨てていない。

「必ず金融史に残るデイルになる」。ふくおかF&Gで指揮を執った吉成孝副社長は統合を発表した直後の支店長会議でこう語っていた。

(新井博太郎、三島大地)

遺跡破壊をやめるか

遺跡保存をやめるか

私達 当会は、長崎市と長崎県及び長崎市民の皆様と長崎県民の皆様及び日本と世界の皆様に
“都市長崎遺跡”と“養生所/(長崎)医学校等遺跡”の現状保存と原状回復と
当該遺跡の性格より“土地の造形”の憶測の余地のない再建を要望しこの要望への理解を求めます。

日本経済新聞

9月3日
月曜日発行所 日本経済新聞社
東京本社 03(3270-0251)
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 06(7639-7111)
名古屋支社 052(243-3311)
西部支社 092(473-3300)
札幌支社 011(281-3211)化学で
未来を
変えるの
「ダ」DAICEL
株式会社ダイセル購読のお申し込み
0120-21-4946
https://www.nikkei4946.com/
日経电子版
https://www.nikkei.com/
お問い合わせ(7:00-21:00)
0120-24-2146

狙う遺跡破壊

—養生所／(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より—

2018年(平成30年)9月3日月曜日

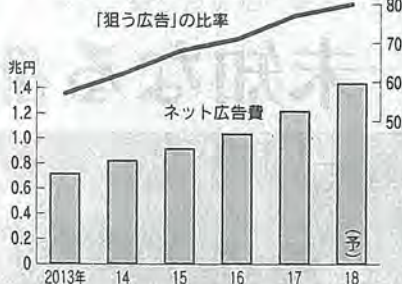
養生所を考える会 代表 池知和恭

「狙う広告」1兆円突破へ

ネット上で特定の個人を狙う「ターゲティング広告」の国内市場規模が2018年に初めて1兆円を超える見通しとなった。過去に見たサイトや購買履歴を分析し、0.1秒以内に好みや関心に合わせて最適な広告を出す。「あなた」を特定する技術の開発が進み、狙い撃ちの精度を1万倍に高めた日本独自の手法も登場し始めた。新たな成長産業の形は続くが、プライバシー規制の強化という逆風も吹きつつある。

(関連特集7面)

日本でも「狙う広告」が1兆円産業に



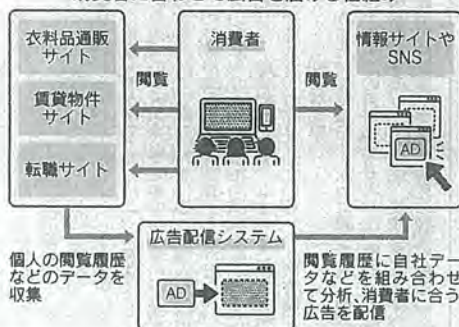
(注)電通などの資料から作成、一部日経推計

属性や行動分析、0.1秒の攻防

乱戦市場 規制圧力も

データの世紀
News&Trend

消費者に合わせて広告を届ける仕組み



先端的な技術だ。20社、競りに殺到。スマートフォン(スマホ)やアプリが記録する位置情報から、通勤経路や余暇行動のパターンを解析。検索履歴などと組み合わせ、性別や年代、趣味といった人物像を推測し、心に響きそうな広告を打ち出す。心理学や統計学とも融合し、よりピンポイントで狙い撃つ技術の発達が進む。

8月、東京都中央区在住の男性会社員(40)は悩んでいた。SUBARU(スバル)の小型車「インプレッサ」に長年乗り続けてきたが、今年に車検が切れる。「買い替え時かな」。スマホで天気予報アプリを立ち上げると、独B MWの多目的スポーツ車(SUV)の広告が目飛び込んできた。

から購入した車検データと国勢調査を組み合わせた男性の特性を割り出した。「広告を見てから気になる」。男性はB MW車の購入を決めた。ジョロジックが狙う広告を始めたのは2年前。20社が枠を買い取りたい。最高額を示した広告案件を選び出した。この間、0.1秒。やり取りはほぼリアルタイムだ。

B MWの広告は広告ベントのジョロジックが配信した。「DSP」と呼ばれる専門会社の1社で、顧客企業に代わって枠を買い取り広告を届ける。狙う広告が普及したのは08年のリーマン・ショックがきっかけだ。失業率が高くなり、大手企業の手元資金が枯渇した。金融工学の技術者が大量転職。株取引の仕組みを取り入れた高度なアドテクが広がった。

先行する米国では18年に狙う広告の市場規模が約5兆円と、5年前の10倍になる。試算もある。対する日本は同3倍。成長は続くが、狙い撃ちの「アドテク企業」には2つの大波も忍び寄る。

異業種参入続く。第1が異業種大手の参入だ。「代理店依存の広告運用を改めよう」。コンサルディング大手のアクセントチュアが顧客に呼びかける。社内に大量のデータサイエンティストを擁し、小売店の売上高や交通需要を予測する独自技術を使って日本でも米勢を強める。

米勢を強める。AT&TがDSP大手のアップテックスを買収。乱戦模様が続く。日本のネット広告市場は電通やサ

イパーエージェントといった国内勢がシェアの過半を占めてきた。だが今後は「黒船」が迫り、「大」の情報流出問題などを手懸りに懸念する中小企業に対する規制が厳しくなっているためだ。

欧州では5月に「一般データ保護規則(GDPR)」が施行。狙う広告の土台となっていた閲覧履歴などのデータを自由に使えなくなった。仏データ分析大手、クリテオは受注減への懸念から株価が低迷。日本でも同様のルールが導入されれば、影響は免れない。

技術革新のスピードが速い「データエコノミー」は主役交代も急だ。データを企業にどう使わせるか。あなたの選択次第で、狙う広告を巡る業界勢力図も大きく変わる。

データエコノミー取材班 栗原健太、伴正喜

長崎市は、遺跡や遺跡の部分を等級化し、下位に位置する遺跡や遺跡の一部を破壊しようとしていないでしょうか。私達当会は、遺跡について、私達人類が私達人類を理解するために、不可欠の事象と理解します。私達当会は、長崎市や長崎県や皆様に、遺跡が遺跡であるとの事実ゆえに、遺跡の現状保存と調査と整備と活用を求めています。メ

長崎市立佐古小学校跡一帯を、素敵な養生所/(長崎)医学校等遺跡として調査し整備し活用しましょう！

長崎県の親和銀行を傘下に置くふくおかFGと同県最大の十八銀行の統合計画は、公取委の重要な役割のひとつである。独占を生むM&A(合併・買収)の予防に抵触しており、公取委は簡単には譲れない。一方、金融

「このままの状況が続けば『命令』を出します」。3月末、公正取引委員会の担当者はふくおかフィナンシャルグループ(FG)と十八銀行の幹部に最後通告した。命令とは独占禁止法による統合の差し止め命令だ。競争環境が維持できる水準まで急いで積み上げない限り、合併はない。通告は銀行側を動かす狙いだった。仕掛けたのは公取委の杉本和行委員長。差し止め命令を発動すれば戦後初の上、訴訟になるリスクもあった。それでも伝家の宝刀に手をかけたのは、審査がさらに長引けば公取委の独立性が脅かされかねないとの判断があったためだ。

Behind the Curtain 長崎の2地銀統合

公取委幻の差し止め命令

公取委VS.金融庁の構図は政府全体の枠組みで議論することに



(写真上から時計回りに)菅官房長官、金融庁の森田長官、公取委の杉本委員長

庁も生き残り策を模索する地銀の金融再編を進め、策の立案機能を分離せよ。と唱えた。場外乱闘とも言える政策論争を仕掛けたのは金融庁だった。2017年11月発売の月刊誌に「公取引委員会『解体論』」の見出しが躍った。経営共創基盤の富山和彦最高経営責任者(CEO)らによる対談記事で、富山

不穏な動きを感じとった杉本委員長もこの周囲に漏らすようになった。とはいえ無条件で合併を認めれば、独禁法の有名無実化を招いてしまう。公取委の唯一の解決策は、債権譲渡によるシエア引き下げを約束させ、金融庁は、銀行都合で顧客を移す印象の債権譲渡は「顧客本位でない」と否定的だった。だが統合計画が座礁しているう

官邸仲裁、揺らいだ独立性

「政府全体で議論する必要がある」。4月12日、菅官房長官は記者会見でこう語り、官邸が仲裁に乗り出した。関係者によると菅官房長官は公取委の独立性を尊重する姿勢を崩さなかったという。一方で経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)には人口減地域での競争のあり方を政府全体で議論することも明記した。独禁法の実効性を守った公取委と、地銀再編を政府全体の課題に引き上げた金融庁。2つの役割に挟まれながら、融資の借り換えという身を切る苦難をおして承認をもち取った銀行。いずれの顔も立った。

統合を機に他の金融機関との関係をつくりたい顧客の希望をくんで借り換えを支援するのであれば、銀行、公取委、金融庁がメンツを保てる。並行して「官邸に仲裁を持ち込んだ」(関係者)。菅義偉官房長官の信が厚

「政府全体で議論する必要がある」。4月12日、菅官房長官は記者会見でこう語り、官邸が仲裁に乗り出した。関係者によると菅官房長官は公取委の独立性を尊重する姿勢を崩さなかったという。一方で経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)には人口減地域での競争のあり方を政府全体で議論することも明記した。独禁法の実効性を守った公取委と、地銀再編を政府全体の課題に引き上げた金融庁。2つの役割に挟まれながら、融資の借り換えという身を切る苦難をおして承認をもち取った銀行。いずれの顔も立った。

「顧客本位でない」?

私達 当会は、養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用及び複数の視点より長崎市立仁田佐古小学校の建設用地について、旧長崎市立佐古小学校地から旧長崎市立仁田小学校地への「建設用地換え」サポート 致します。

筑後川を挟んで隣り合う福岡県筑後地方と佐賀県東部について、佐賀県が旗振り役となって独自の都市圏を構築する動きが出てきた。最近ではアジアからインバウンド(訪日外国人)が急増しており、まず観光で官民が連携。交流サイト(SNS)を活用しながら認知度を向上を目指す。

■政令市並みの総生産 筑後地方と佐賀県東部はもともと県境を越えた経済活動が盛んで歴史・文化のつながりも深い。佐賀県が想定する圏域自治体は7市町(佐賀市、鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町)と、福岡県の9市町(大牟田市、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、みやま市、大木町、広川町)。

8月27日に佐賀市内で開いた「筑後佐賀一体圏域プラットフォーム」には、16市町のうち12市町の代表らが出席し、意見交換した。冒頭、佐賀県の池

筑後×佐賀で越境都市圏

自治体がフォーラム

田英雄副知事が「この地域は西日本有数の平野を有し人口や総生産で政令指定都市に並ぶ。大きな可能性を秘めている」と話した。

佐賀県の算出による、筑後佐賀圏は人口約111万人、域内総生産は3兆7053億円。福岡都市圏(9市8町、人口約256万人、域内総生産9兆8982億円)には及ばないが、北九州都市圏(6市11町、同約137万人、同4兆8889兆95億円)に続く規模で、域内総生産では千葉市やさいたま市と同等だ。筑後佐賀圏構想の中心となるインフラは、開港20周年を迎えた佐賀空港と、有明海沿岸道路だ。

佐賀空港の利用者は511万人、域内総生産は3兆7053億円。福岡都市圏(9市8町、人口約256万人、域内総生産9兆8982億円)には及ばないが、北九州都市圏(6市11町、同約137万人、同4兆8889兆95億円)に続く規模で、域内総生産では千葉市やさいたま市と同等だ。筑後佐賀圏構想の中心となるインフラは、開港20周年を迎えた佐賀空港と、有明海沿岸道路だ。



まず観光連携

大牟田市を起点に佐賀県鹿島市に至る有明海沿岸道路は、地域の連携・交流促進などを目的とする幹線道路。福岡県側は約8割が開通し、佐賀県側との早期の連結を目指している。

■訪日客囲い込み狙う フォーラムの最後に佐賀県の副島良彦副知事が文を提出した。真の連携を深めるうえで、佐賀県側の心配りや緊密な連絡ができるように、全体で(佐賀支局長 中越博栄)



フォーラムであいさつする佐賀県の池田副知事(8月27日、佐賀市内)

官民プロモーションチームを作って海外向けに発信してはどうか」と提案した。佐賀空港の佐賀県内への経済効果は県の試算で約97億円。空港から柳川市にバスで直行するツアー客も多く、地域への経済効果拡大を狙う。今後は外国人が好むスポーツ発掘や単独でのアピールは難しいスポーツのルートマップ化などで協力することになりそう。地域に詳しい民間団体や地方銀行に参加してもらいたいという。

“まず観光”でなくとも結構ですが

長崎県地域は古来より海洋を背景とした生活と文化を育んできました。

特徴ある背景と文化と特異な(only one)歴史と関連遺跡を活かして地球の各地と網の目の連携を形成し世界に於ける長崎の位置を再確認し、私達と私達の街の存在感を高めましょう。

私達 当会は、日本開国の遺跡でもある“都市長崎遺跡”及び“養生所/(長崎)医学校等遺跡”の現状保存と原状回復と当該遺跡の性格による“土地の造形”の憶測の余地のない再建とICT技術駆使等情報発信による活用を皆様に要望します。

顧客は見ている

— 養生所/(長崎)医学校等遺跡の保存と活用より —
日本経済新聞
 7 金融経済 12版

2018年(平成30年)9月6日 木曜日 養生所を考える会 代表 池知和恭
 2018年(平成30年)9月6日(木曜日)

【第三種郵便物認可】

長崎で育った有名企業の一つに通信販売大手のジャパネットたかたがある。年商2000億円規模にまで達した今も佐世保市に本社を構える同社には、十八銀行との運命的な縁がある。

1990年代初頭。創業者の高田明氏は頭を抱えていた。始めたばかりの通信販売は電話回線がパンクするほど好調だった。だが、顧客対応や在庫管理が事業の拡大に追いつかない。社屋を建てるようにも、数億円にも上る建設費をいかに工面するか。妙案はなかった。

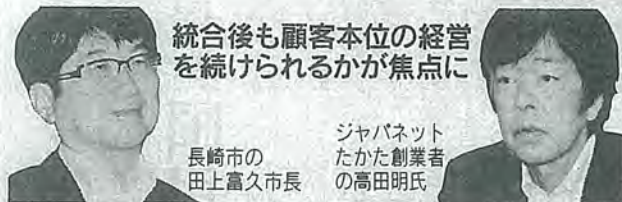
私生活で長女の進学が決まり個人的に入学金を借りようとした高田氏の依頼を、当時メインバンクだった佐世保地盤の親和銀行は断っていた。「当時は月末になれば資金がシヨットする会社。仕方ないですよ」

しかし、行きつけのスナックでの出会いが転機になった。居合わせた十八銀の支店長に話半分で借り入れを依頼すると、翌朝には5億円もの融資

Behind the Curtain

長崎の2地銀統合 ①

「信頼なくして地銀なし」



統合後も顧客本位の経営を続けられるかが焦点に

長崎市の田上富久市長
 ジャパネットたかた創業者の高田明氏

銀行は統合で長崎の活性化に注力すると明言

懸念

過疎地の店舗撤退

貸し渋りやサービスの低下

長崎の銀行がなくなる

対策

重複する50店舗を統廃合し離島を含む全域で店舗網を維持

500人捻出し販路拡大や海外進出、事業承継などを支援

相談窓口を設けて監督官庁に報告する仕組みを構築

統合で生まれる資本やリソースは長崎に還元
 県内の業種別融資残高など開示

が決まった。「一緒にジャパネットの歴史を歩きたい」。

以後、氏の視線の先にはいつも第3まで続く本社ビルの地元がある。「言葉だけ建設資金は十八銀が融資することになった」。

元メインバンクと現メインバンクの2行は、20年4月に合併する。「起業した会社が大きくなり雇用が生まれ、人口が増える。この循環が必要」と高田氏は再編を支持する。現在は地元Jリーグ

が決まった。「一緒にジャパネットの歴史を歩きたい」。

以後、氏の視線の先にはいつも第3まで続く本社ビルの地元がある。「言葉だけ建設資金は十八銀が融資することになった」。

元メインバンクと現メインバンクの2行は、20年4月に合併する。「起業した会社が大きくなり雇用が生まれ、人口が増える。この循環が必要」と高田氏は再編を支持する。現在は地元Jリーグ

その言行、顧客は見ている

その象徴は、その数日本一の「離島」にある。

五島列島最大の五島市における新銀行のシェアは70%。次いで大きな新上五島町は80%。公正取引委員会が独占を懸念する水準だ。五島列島でスパーを展開する中村興産(長崎県新上五島町)の中村繁男社長は「離島の実情に目を配ってほしい」と語る。

7月、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコの世界文化遺産に登録された。中村社長は養殖マグロを核にした観光振興にも取り組む。両市町の人口ピークは1955年。60年にわたり一貫して減り続け、「最後のチャンス」をつかむためには強力な銀行の存在が必要だ。

地場大手の食品スーパー、エレナ(佐世保市)は5月、親和銀の吉沢俊介頭取に「仕方ないね、協力します」と伝えた。統合に必要な競合行への債権移管を決めた企業の一つだ。その前の3月、長崎県市長会会長の田上富久・長崎市長は統合の容認を求める要請書を公取委に提出していた。

「地域の信頼なくして地銀の存在はあり得ません」。十八銀が2008年3月に発行した社史で、宮脇雅俊頭取(当時、現会長)が就任時の抱負をこう記した。地銀は銀行法で与えられた地位ではなく、顧客の支持で作られた業態だ。裏返せば、顧客から見捨てられれば成り立たない。

「皆さんの掲げる地域密着って何ですか?」。島原半島の食品加工会社社長は、十八銀の森拓二郎頭取に思わず問いかけた。「支店長が来たのは統合について説明する時だけ。初心は忘れないでほしい」。地元が評価できるような統合の成果が出なければ、信頼は崩れてしまう。

(古宇田光敏、新井淳太郎、三島大地) 〓高田明氏のインタビューを電子版に▼経済・政治・金融機関

「皆さんの掲げる遺跡保存って、何ですか？」